

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 **635円**
(本体605円)

クローズアップ Close-up

「コノハズク」

—パーツの考案・組み込みと展開図の検討—

Invention of Parts, Their Assembly,
and Scrutiny of Crease Patterns:
the Case of a Scops Owl

津田良夫

Tsuda Yoshio

折り図 Diagrams

コノハズク

Scops Owl

津田良夫

Tsuda Yoshio



展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

ウデムシ

Whip Spider

勝田恭平

Katsuta Kyohei

イベント情報 Event Information

第2回折紙探偵団名古屋コンベンション最新情報

Updates on the 2nd Origami Tandai Nagoya Convention

通巻 **98** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold

山折り線
Line indicating
mountain fold

手前に折る
Fold paper
forwards

後ろへ折る
Fold paper
backwards

折り筋を
つける
Making a crease line

段折り
Pleat-fold

裏返す
Turn paper over

引き出す
Pull out

図の見る
位置が変わる
Rotation

図が大きくなる
A magnified view

見えない
ところ
A hidden line

押す、
押しつぶす
Push paper in

切る
Cut

表紙解説

コノハズク

作: 津田良夫 (P.22)

Scops Owl

by Tsuda Yoshio (P.22)

■コロコロしてびょうきんな全身の表情、小柄な雰囲気を感じさせる大きめの頭部。各部に的確なバランスで配置された「かわいらしさを呼び起こすパーツ」を、すみずみまで分析しながら折り進めてゆくのもまた楽しいものです。

(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
 MAGAZINE
 CONTENTS

No. 98



Scops Owl : Tsuda Yoshio

クローズアップ / Close-up

P.11 **「コノハズク」**
 ーパーツの考案・
 組み込みと展開図の検討ー

Invention of Parts, Their Assembly,
 and Scrutiny of Crease Patterns:
 the Case of a Scops Owl

津田良夫
 Tsuda Yoshio

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.22 **コノハズク**

Scops Owl

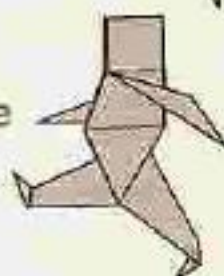
津田良夫
 Tsuda Yoshio



P.30 **人形**

A Human Figure

前川 淳
 Maekawa Jun



P.34 **展開図折りに挑戦!**
 Crease Pattern Challenge!

ウデムシ Whip Spider

勝田恭平 Katsuta Kyohei

カラーページ / Color

P.20 **オリガミ・フォトギャラリー**
 Origami Photo Gallery

解説・北條高史
 Comments : Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 **やわらかユニット物語**

The Stories of Mellow Units

見立ての罨

This is My Interpretation.

川村みゆき

Kawamura Miyuki

P.8 **おりがみ我楽多市**

Origami Odds and Ends

立体のアサガオとその応用の花

3-D Morning Glory and Other Flowers

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 **アフタヌーン・オリガミ**

Afternoon Origami

コレイア讃

Correia: an appreciation

デビッド・ブリル

David Brill

翻訳: 羽鳥公士郎

Translator: Hatori Koshiro

P.16 **藤本修三研究**

Fujimoto Shuzo's Asymptotic

漸近等分法

Division of a Line Segment

西川誠司

Nishikawa Seiji

P.18 **しつこく折紙散歩**

Origami Sampo Doggedly Determined

笹の葉さらさら

Bamboo Grass Rustled in the Breeze

前川 淳

Maekawa Jun

P.35 **ペーパーホルダーの横顔**

Paper Folders on File

世浪 健 Yonami Ken

取材: 宮島 登

Miyajima Noboru

コラム / Columns

P.7 **折り紙の周辺**

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

P.32 **おりすじ**

Orisuzi ("Fold-Creases")

吉岡岳延

Yoshioka Takanobu

P.33 **折紙三昧**

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司

Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.36 **つまみおり** Rabbit Ear

第2回折紙探偵団名古屋コンベンション新着情報

Updates on the 2nd Origami Tandai Nagoya Convention



川村みゆき
Kawamura Miyuki

第19話 見立ての罫

This Is My Interpretation.

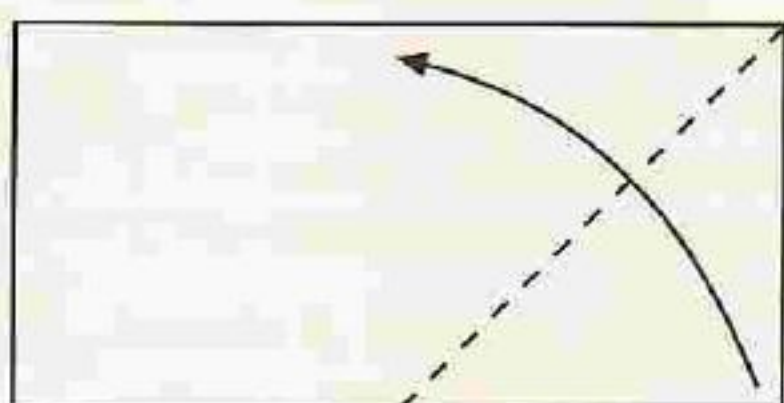
私の場合、幾何学的な作品であっても名前を決める時には何か具体的な物に見立てることが多々あります。名前を決める事は作品のイメージを決めてしまう事にもなるので一番の悩み所です。

When I decide on names of my models (even if they are geometrical models), I often imagine that the models take the shape of something else. Because deciding on the name often defines the image of the work, I always take care of this.

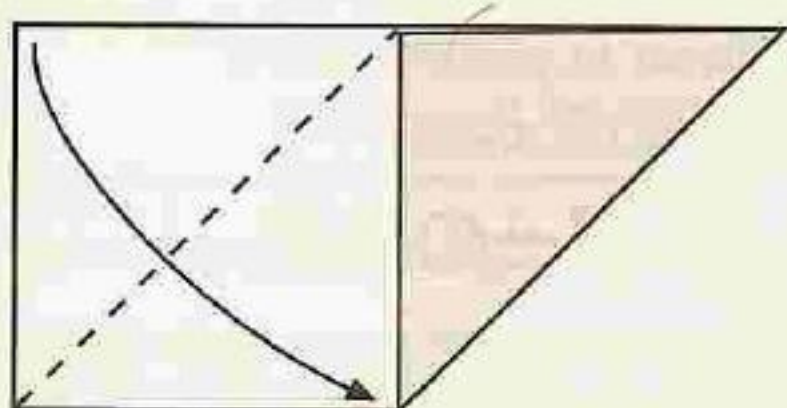


【アブリード】 A BROOD

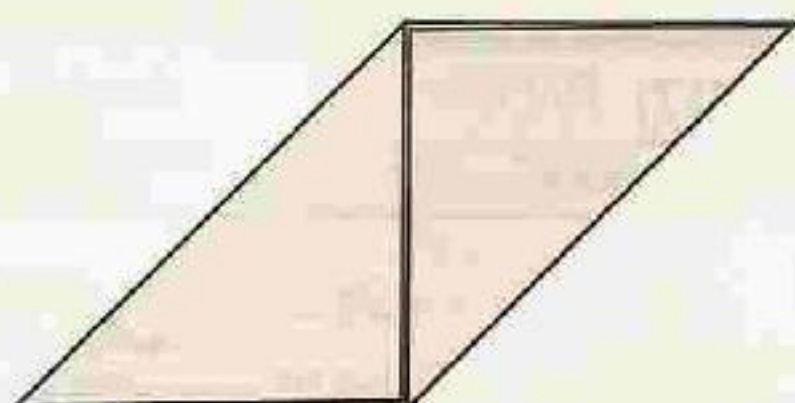
©2006 Miyuki Kawamura
Created 20060511



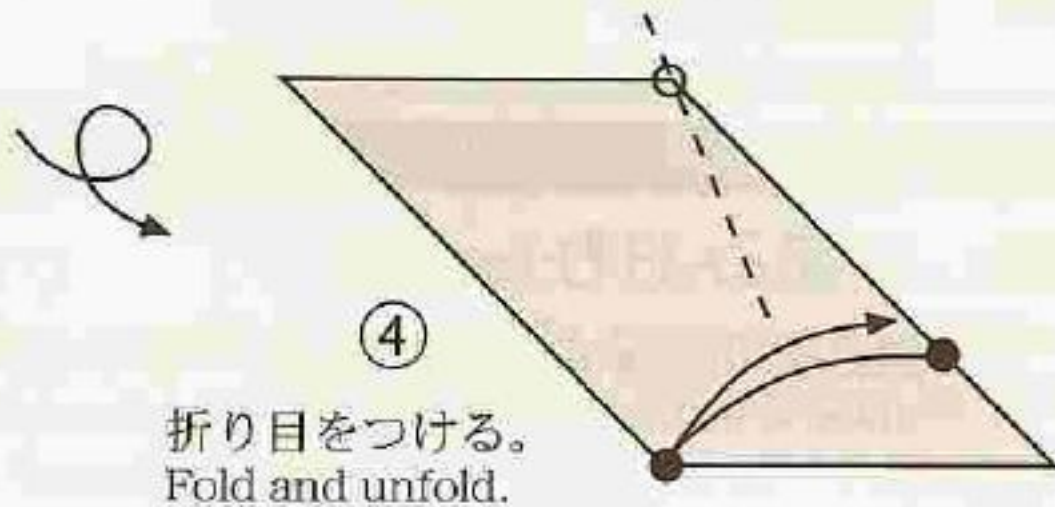
① 2:1 の長方形
2:1 rectangle



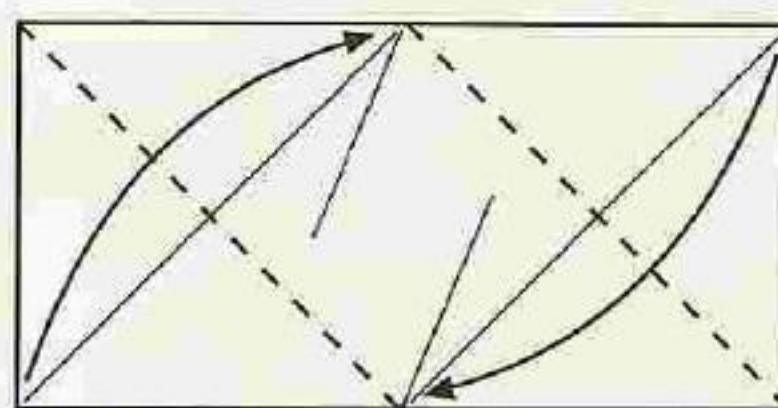
②



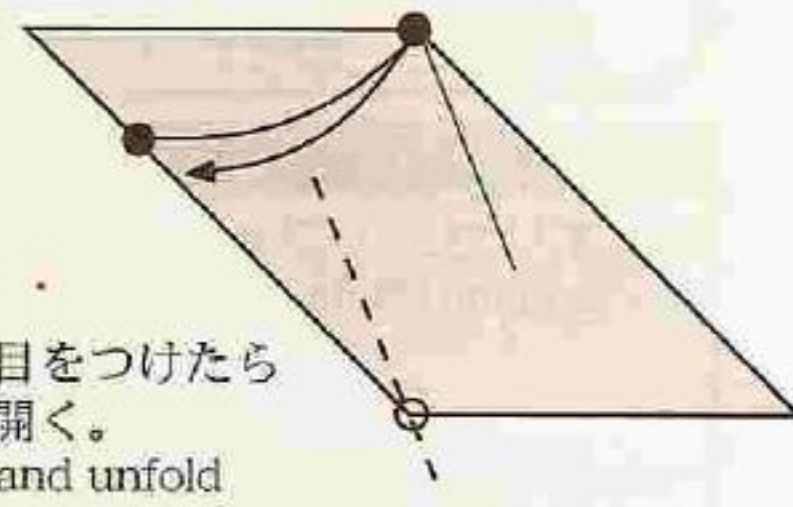
③



④ 折り目をつける。
Fold and unfold.



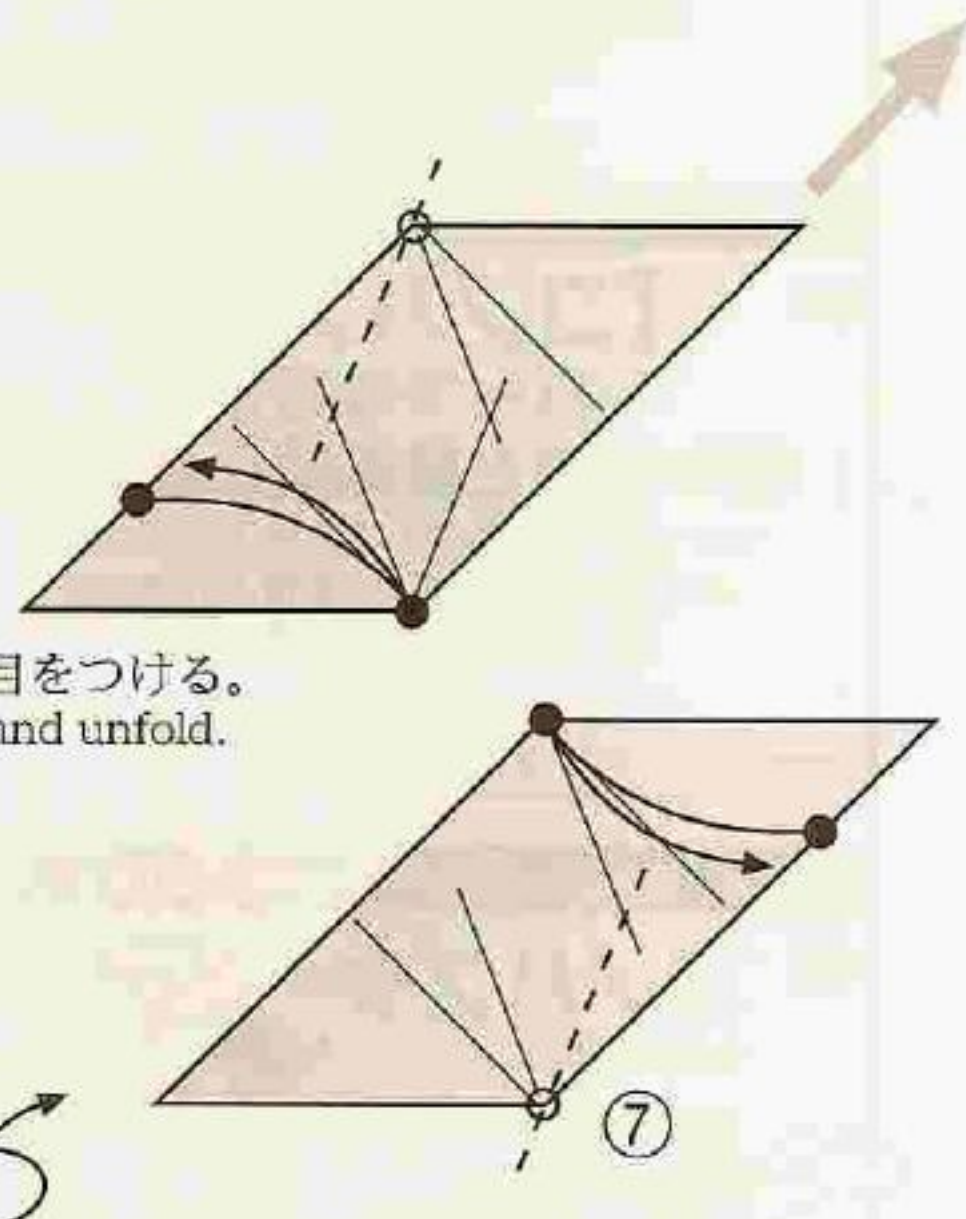
⑥



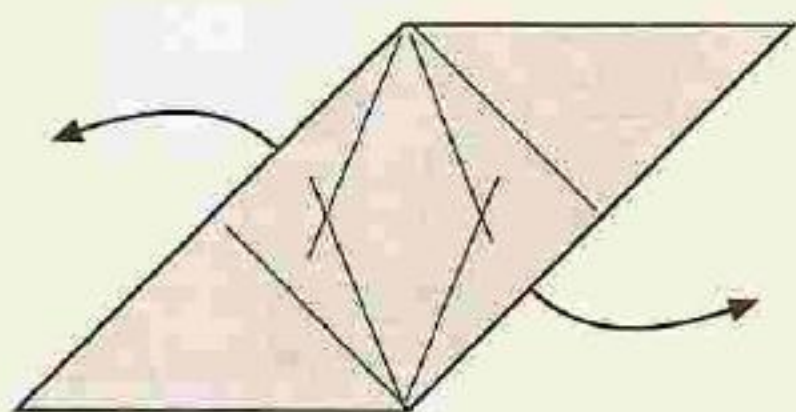
⑤ 折り目をつけたら
全部開く。
Fold and unfold
back to rectangle.

⑧

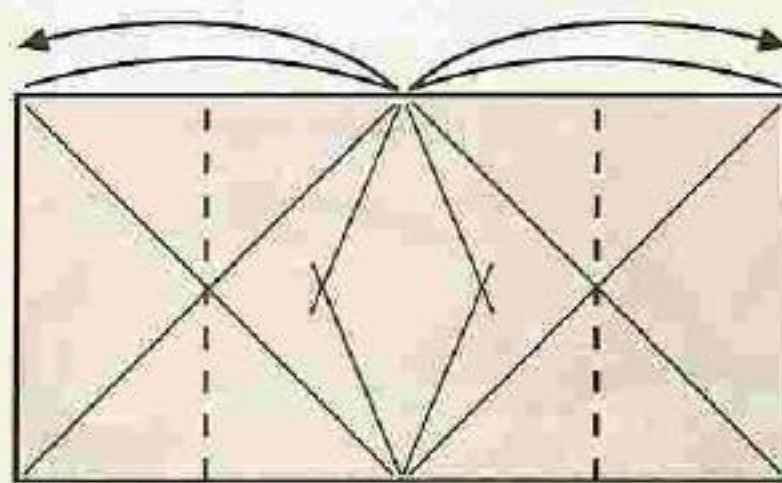
折り目をつける。
Fold and unfold.



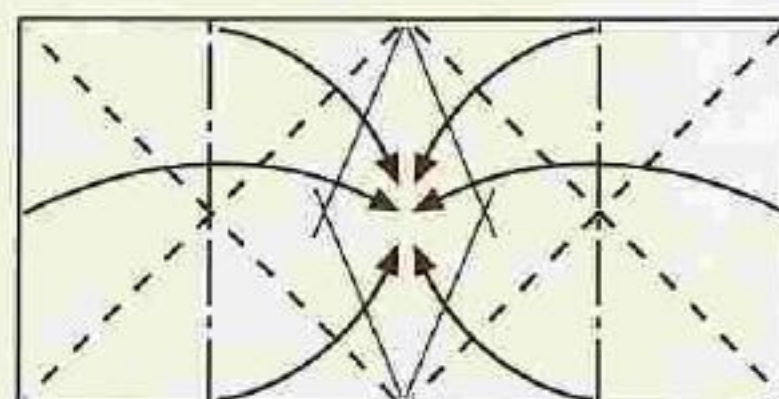
⑦



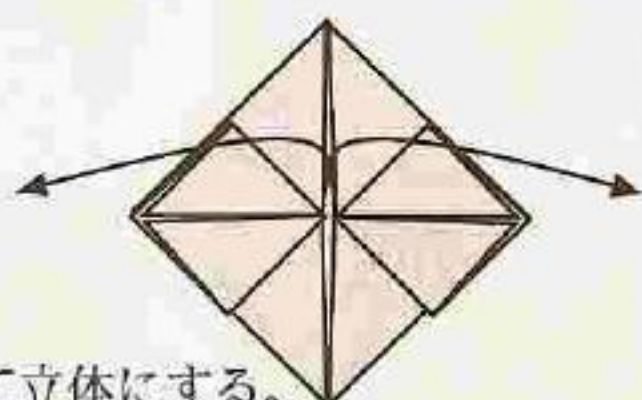
⑨ 全部開く。
Unfold Back to Rectangle.



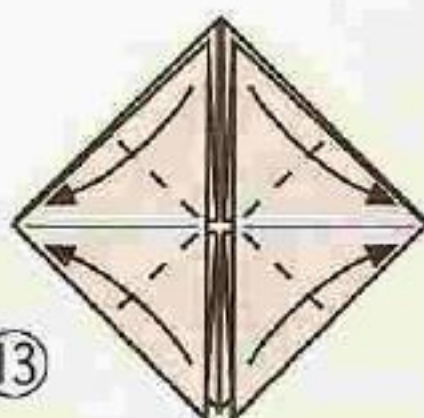
⑩



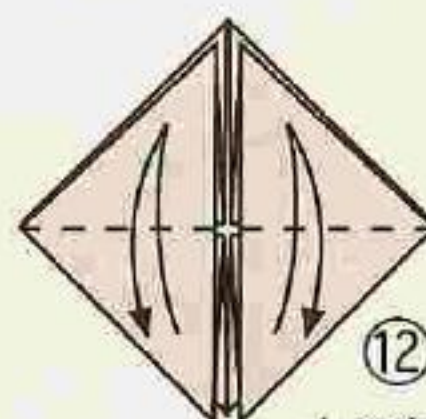
⑪



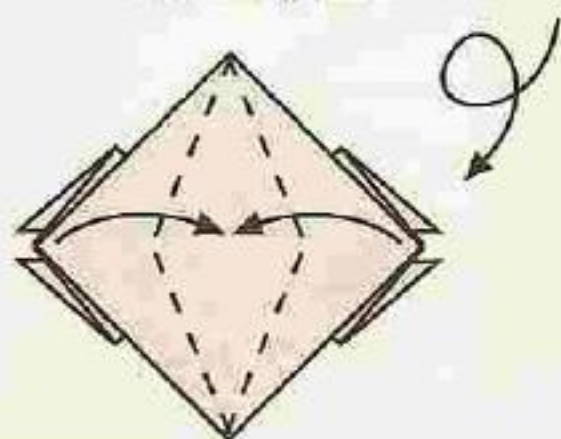
⑭ 開いて立体にする。
Open and the model
become 3D.



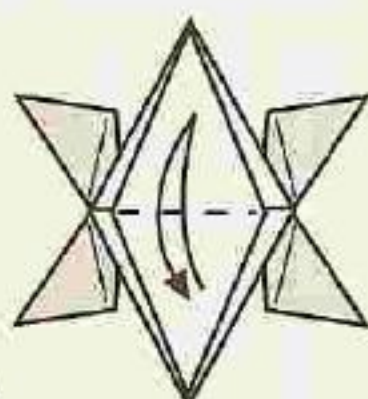
⑬



⑫ 上の紙だけ折る。
Fold only upper layer.

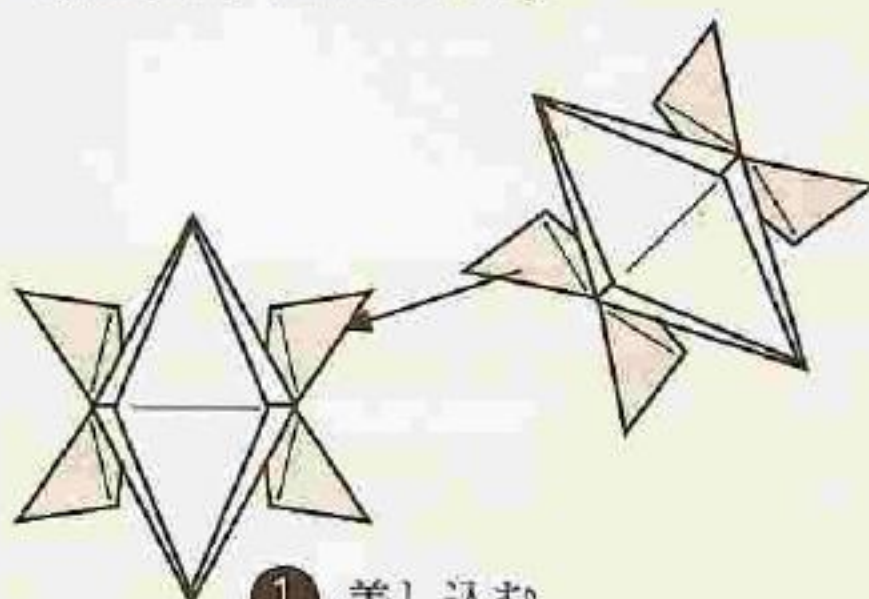


背面から見た図
Back view.

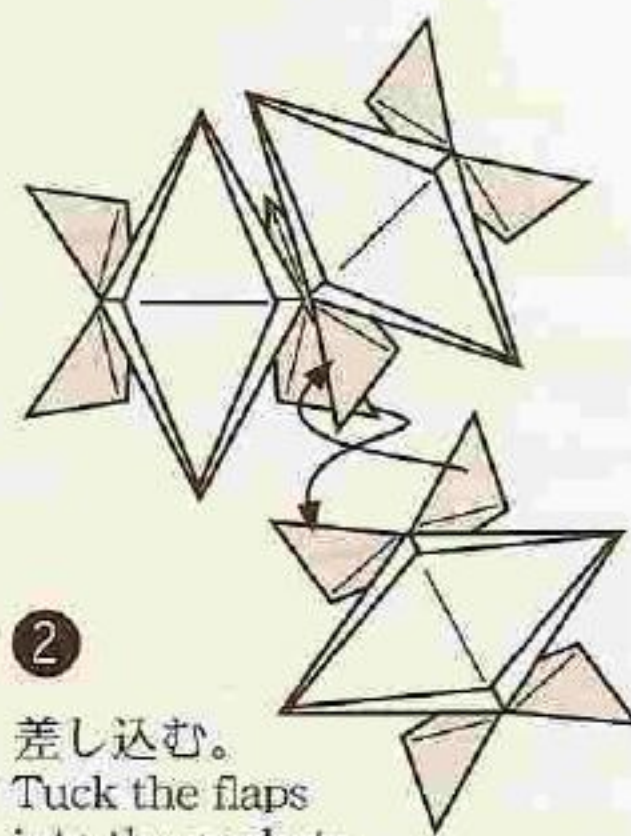


⑮ かるく折り目をつける。
Fold lightly and unfold.

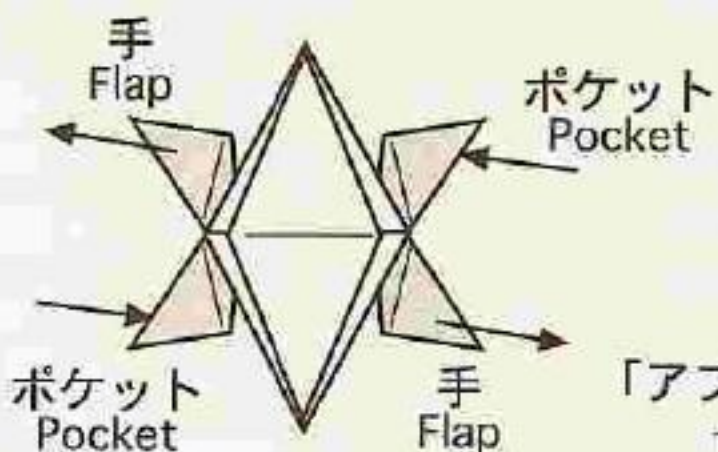
組み方 / Assembly



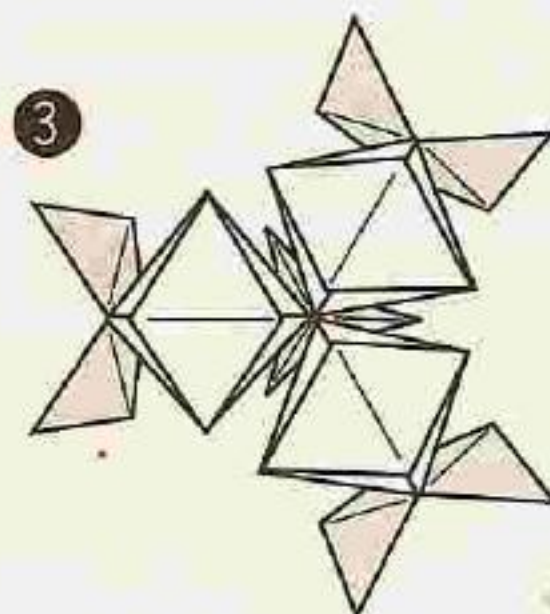
① 差し込む。
Tuck the flap
into the pocket.



② 差し込む。
Tuck the flaps
into the pockets.



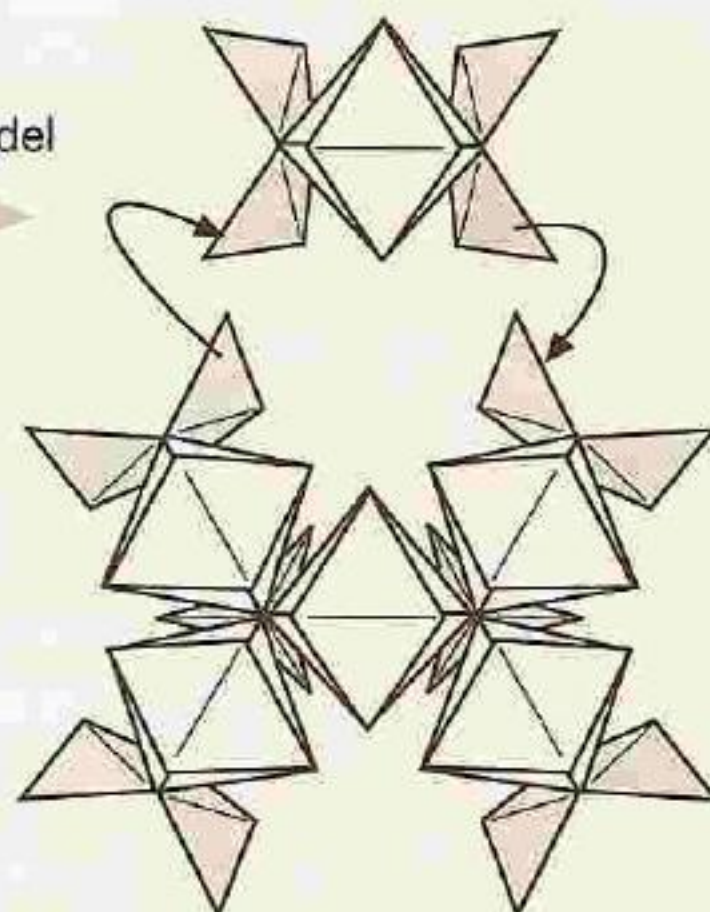
「アブリード」のユニット
The A BROOD unit
同じものを12枚
または30枚作ります。
You need 12 or 30 units.





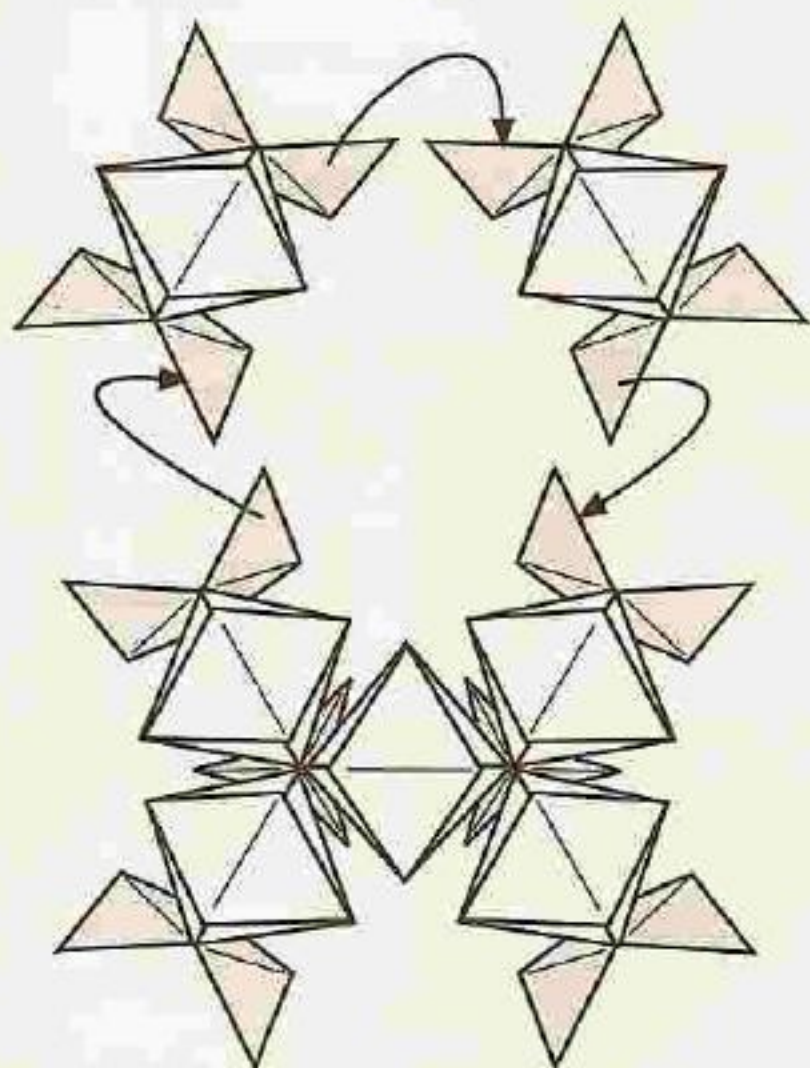
4
差し込む。
Tuck the flaps
into the pockets.

12 枚組
12 units model



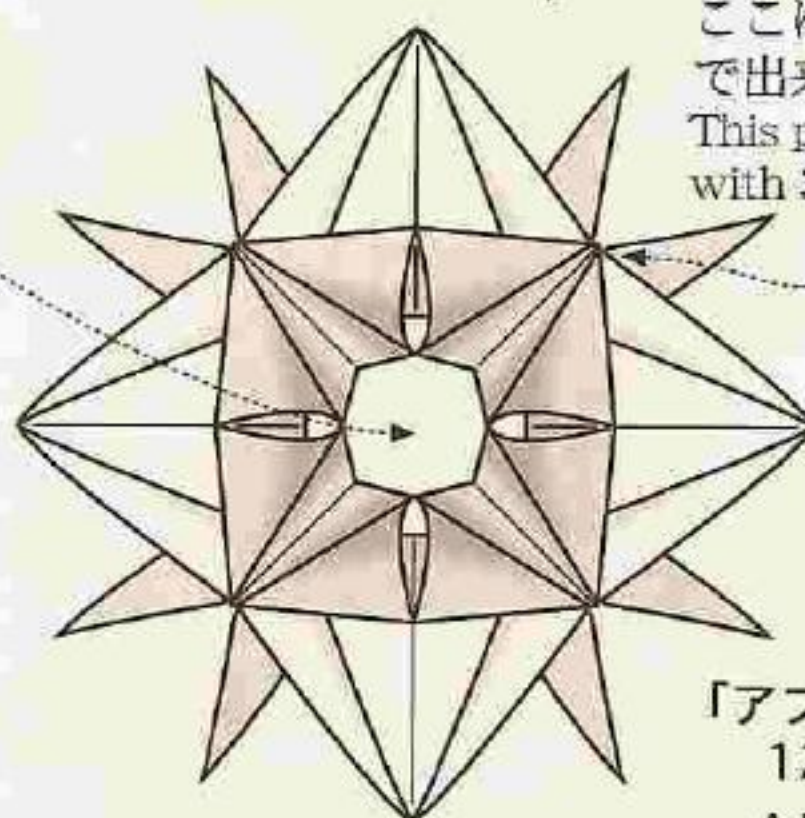
5
穴が4角形になる
ように組む。
残りのユニットも
同様に組んでいく。
Assemble and make
a square ring.
Tuck and assemble
the other units in
the same way.

30 枚組
30 units model



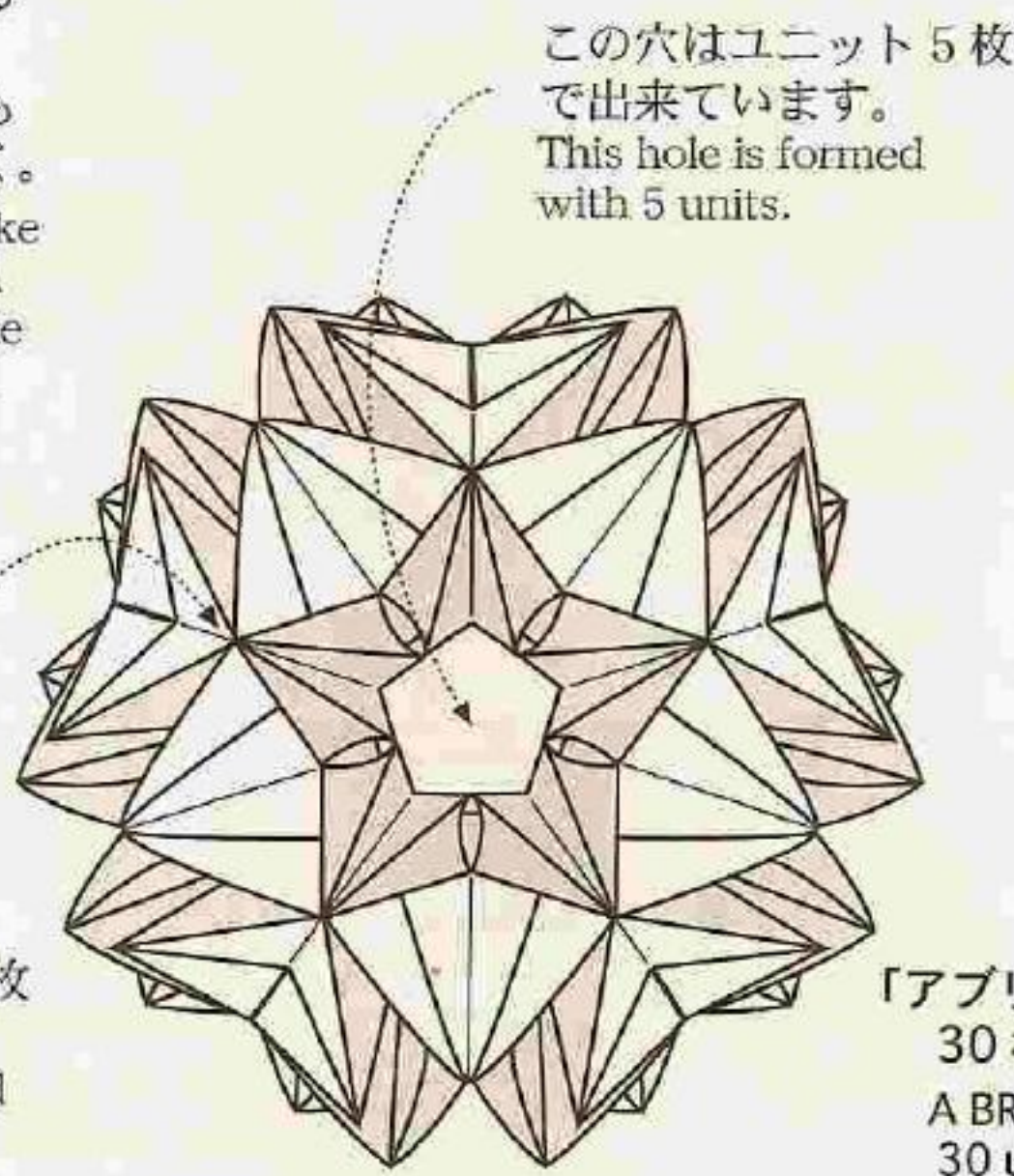
この穴はユニット 4 枚
で出来ています。
This hole is formed
with 4 units.

5
穴が5角形になる
ように組む。
残りのユニットも
同様に組んでいく。
Assemble and make
a pentagonal ring.
Tuck and assemble
the other units in
the same way.



ここはユニット 3 枚
で出来ています。
This point is formed
with 3 units.

「アブリード」
12 枚組
A BROOD
12 units



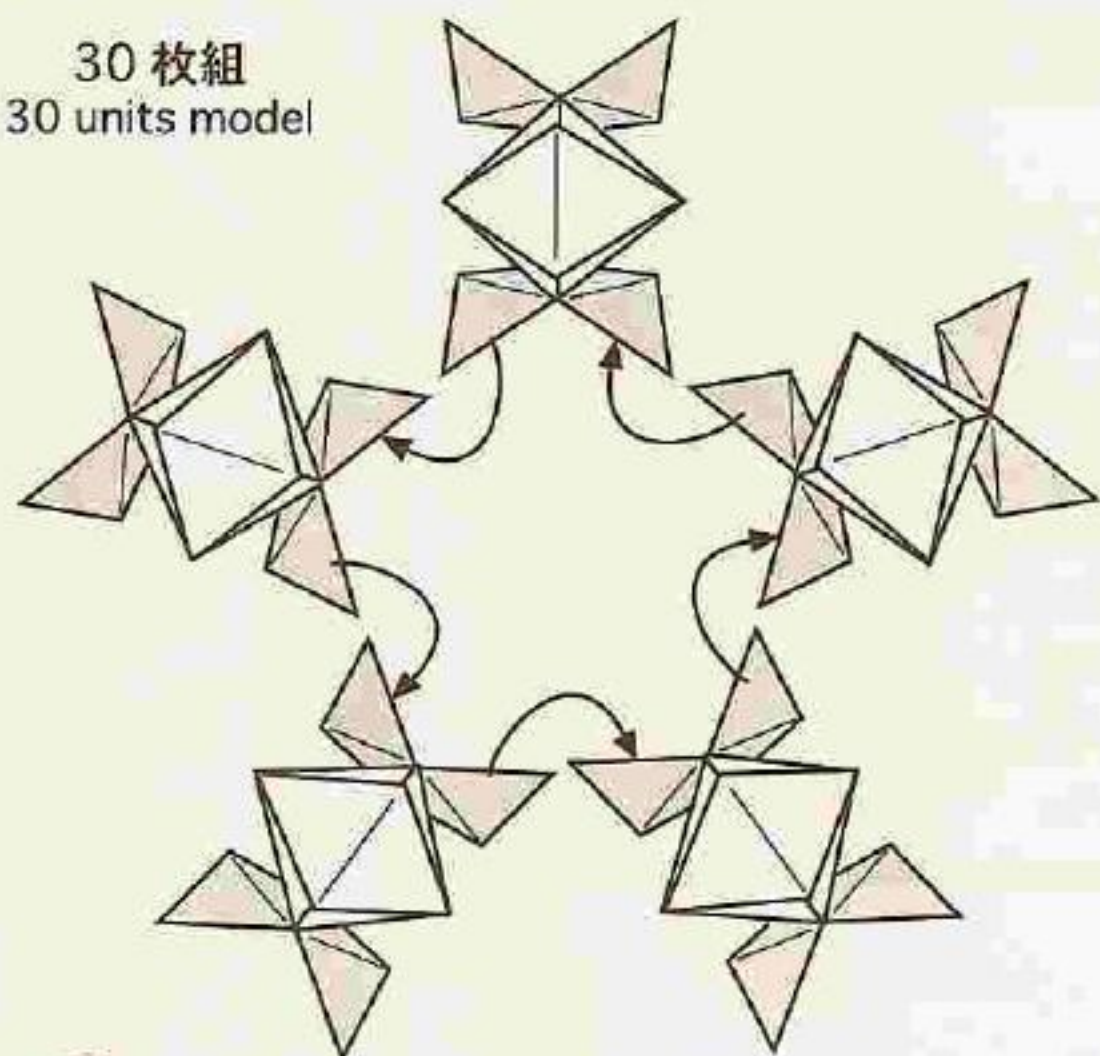
この穴はユニット 5 枚
で出来ています。
This hole is formed
with 5 units.

ここはユニット 3 枚
で出来ています。
This point is formed
with 3 units.

「アブリード」
30 枚組
A BROOD
30 units

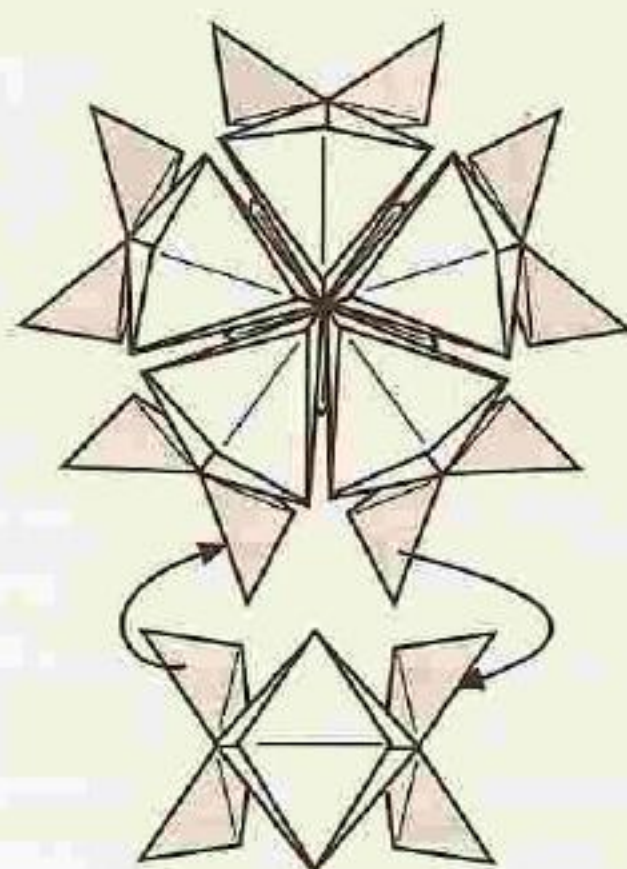
※ 6 枚では組めません
The model with 6 units
is impossible to make.

30 枚組
30 units model



1

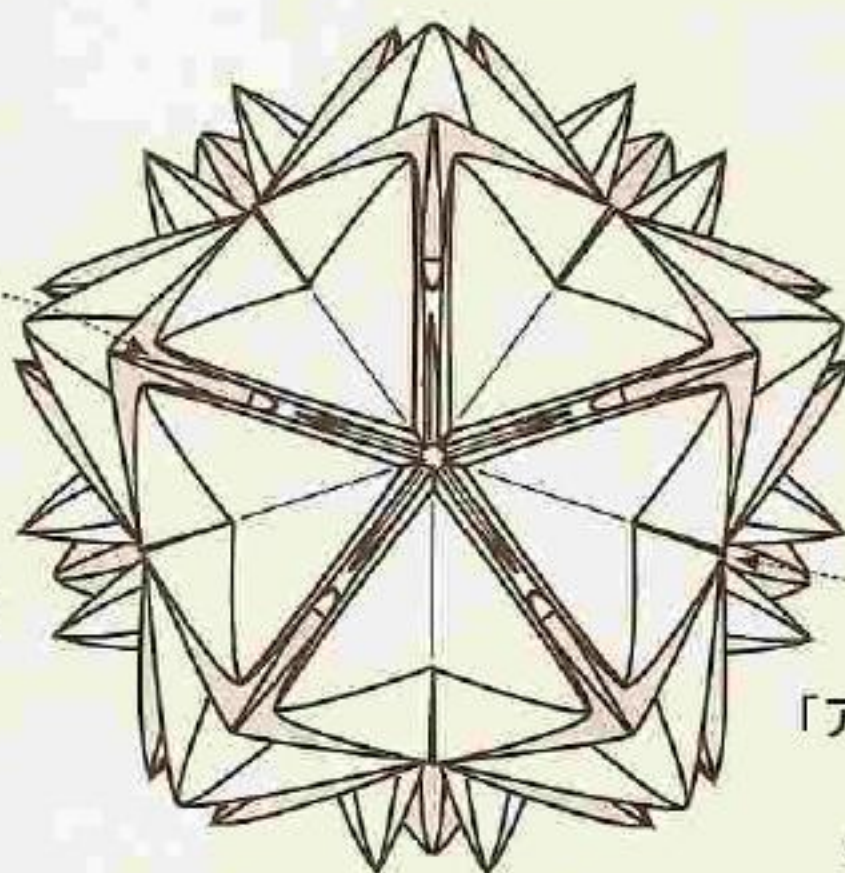
差し込む。
Tuck the flaps
into the pockets.



2

穴が3角形になる
ように組む。
残りのユニットも
同様に組んでいく。
Assemble and make
a triangular ring.
Tuck and assemble
the other units in
the same way.

この穴はユニット3枚
で出来ています。
This hole is formed
with 3 units.



ここはユニット5枚
で出来ています。
This point is formed
with 5 units.

「アブリード」
30 枚組
A BROOD
30 units

折り紙の 周辺

布施知子 Fuse Tomoko

第18回

オトシブミの かぶせ折り

Reverse Folds by
a Leaf-Rolling Weevil

Origami and
Its Neighbors

初

夏にクリ林で、オトシブミの螺旋折りとかぶせ折りをしばしば観察した。オトシブミは1cmほどの甲虫で葉をロール状に巻いて中に卵をうみつけ揺籃とする。揺籃の螺旋折り構造については、富山大学の鈴木邦雄先生の詳しい研究がある。探偵団のコンベンションで講演なさったこともあるから、ご存知の方も多いと思う。

正午前後に始まる葉っぱ巻きを、吹き出る汗を拭きつつ肉眼やカメラ越しにのぞく。素人は何よりも葉を巻くところが見たいと思うが、その前の仕込みが長い。葉をあちこち歩き回り、かみ傷を入れたり、葉の縁を試すようにちょっと巻いたり。いろいろな本を読むと、こうして葉を柔らかく巻きやすくしているとのこと。そうか、これはウェットフォールディングの手法と同じ。仕込み折りこそおろそかにできぬ、と折紙者は納得。

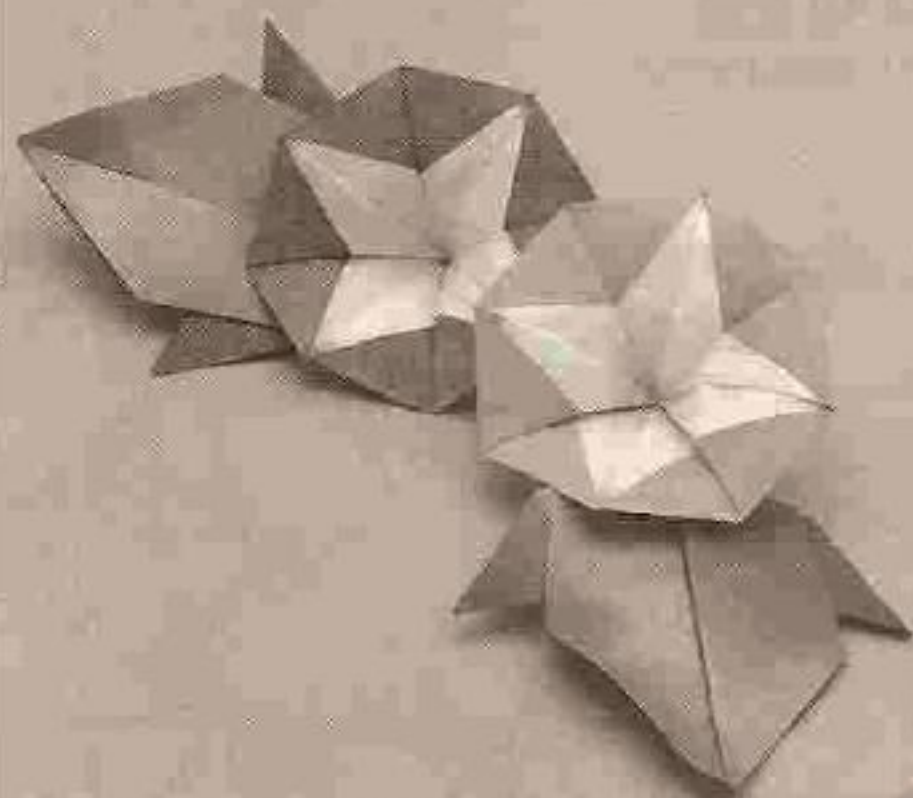
いよいよ巻く段になる。葉を中表に縦二つ折りにして、先からよいしょと巻いていく。折って輪になった側を内側にたくしこんでいく。ここが螺旋折りなんだ、と思うが、わけのわからぬ内にどんどん仕事が進む。この瞬間を待っていたのに、枝や

葉がじゃまをしたり、いつも充分見ないうちに終わってしまう。もっと見たい。もう一回見たい。最後の仕上げに、巻き終わりの内側にはみ出てきた葉をロールの先にかぶせ折りするところも、折紙者には見逃せない格別な瞬間。何度か折り癖をつけてからかぶせるもの、あっという間にかぶせてしまうもの、いろいろいる。葉は紙より布の感じ。かぶせ折りも柔らかく進む。こうして揺籃は葉の表と裏の2色に染め分けられ、デザイン的にも興味ある形になる。

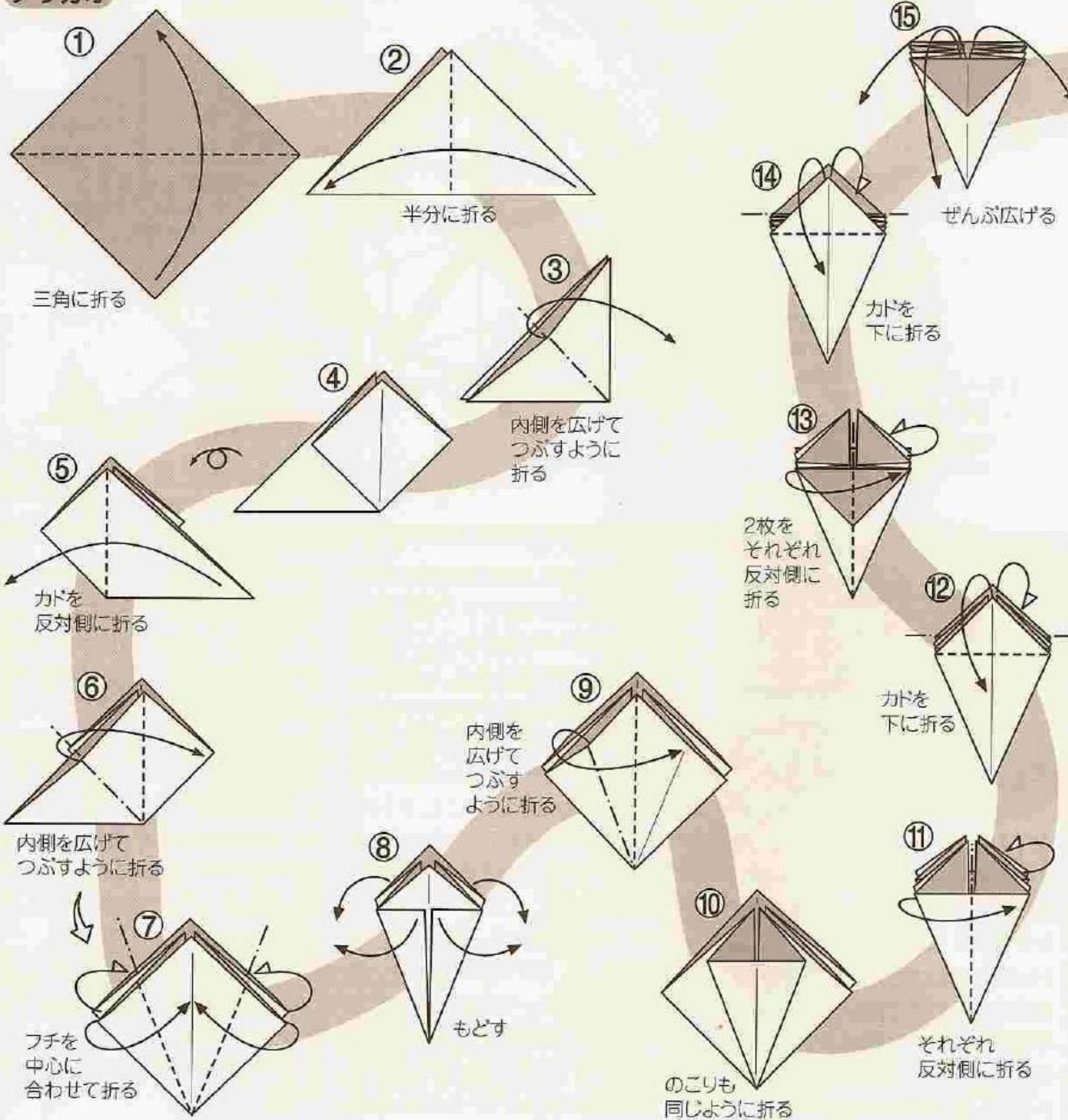
一枚のシートを切らずに小さくしていく。オトシブミの方法は目的と材料に合わせて、見事に美しく無駄なく見える。紙を折り畳む者としてあやかりたいと思う。

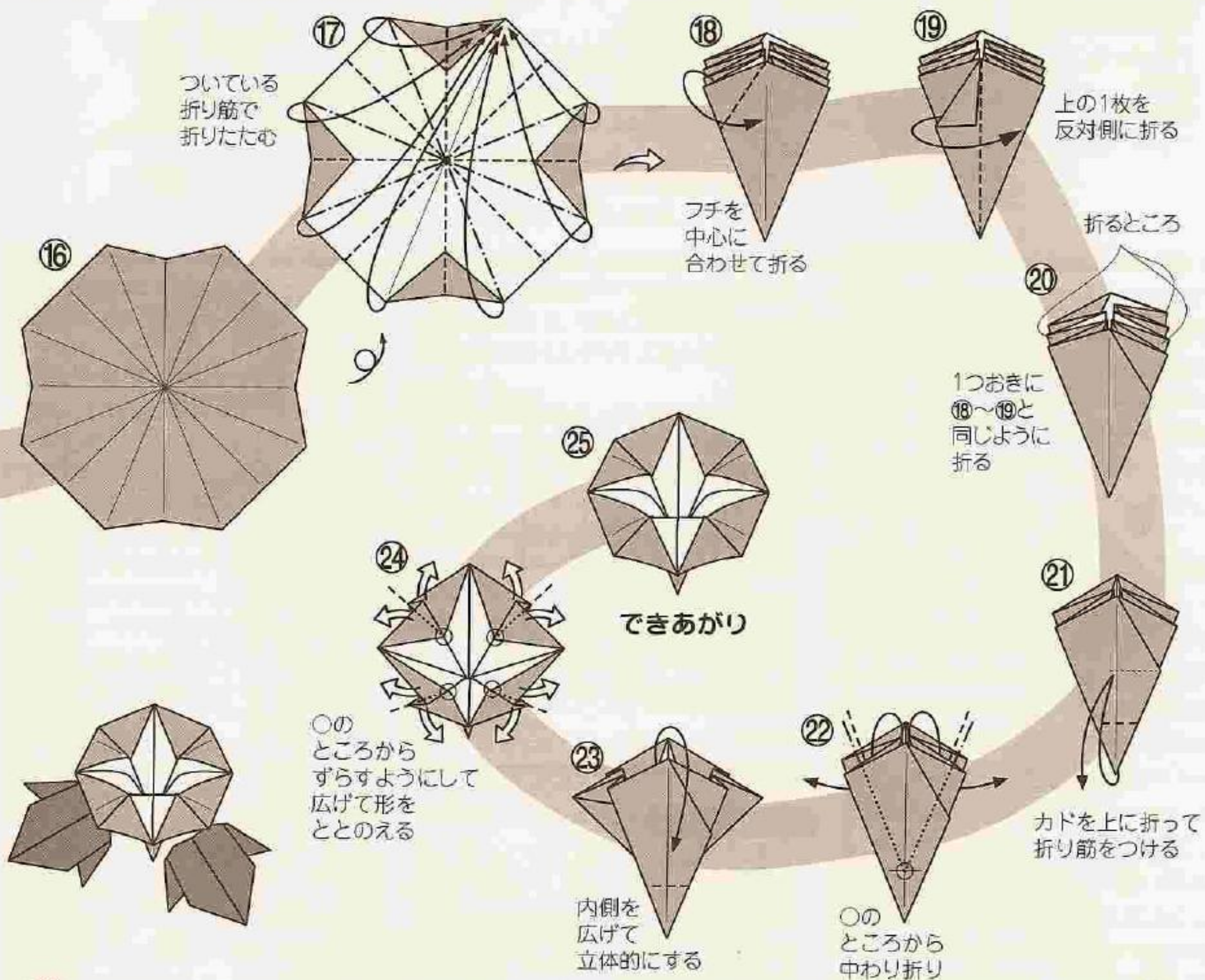
第19回 **立体のアサガオとその応用の花**
3-D Morning Glory and Other Flowers

私の平面のアサガオは、これまで何度も書籍に掲載してきました。単純に五角形で折れば五弁の花になりますが、これは裏の白の面積が大きくなって可愛くありません。また、本物っぽく中心に穴が空くようにすると、これもなんだか間抜けなバランス。今回、ようやく適度なバランスで立体化する基準を見つけました。

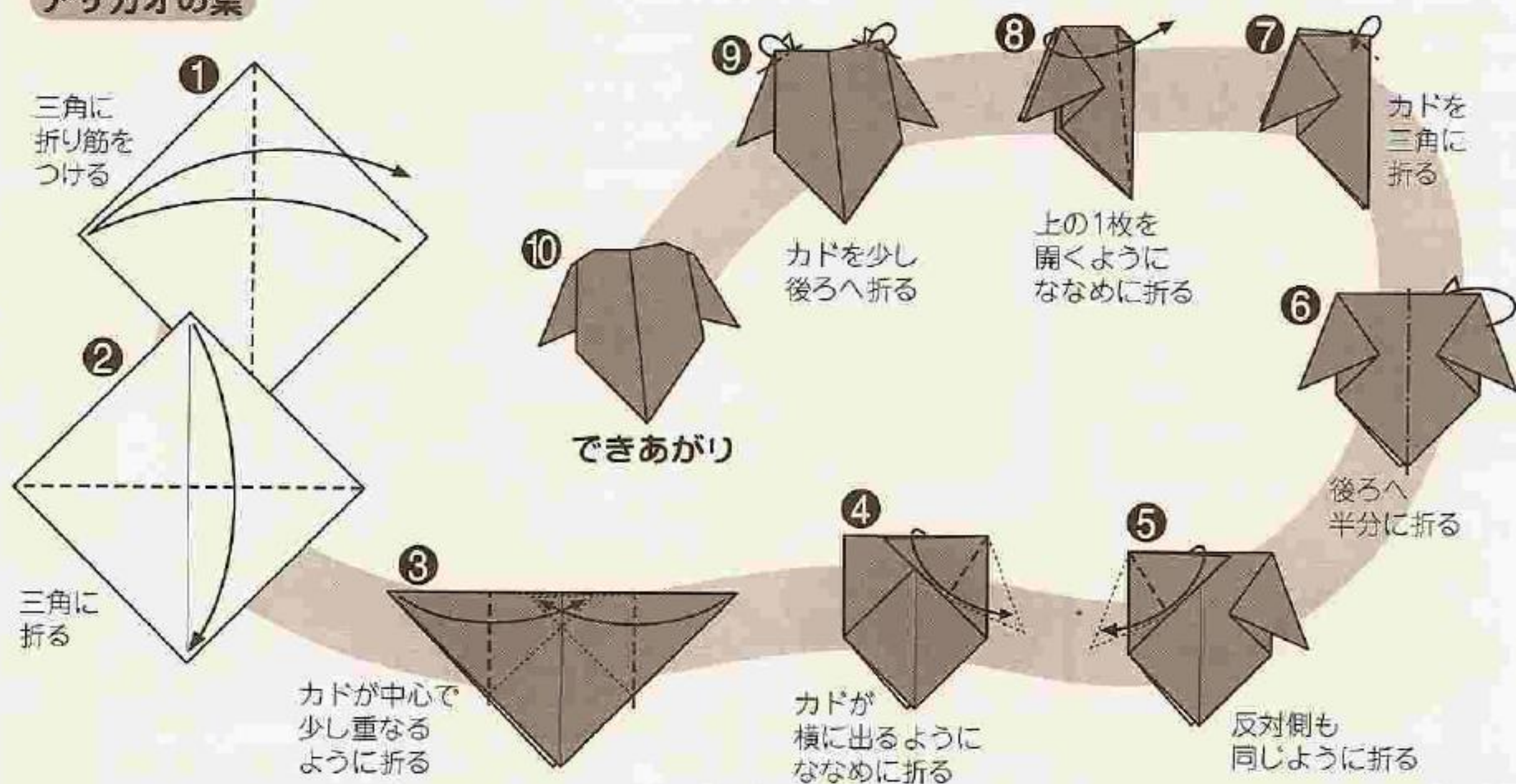


アサガオ



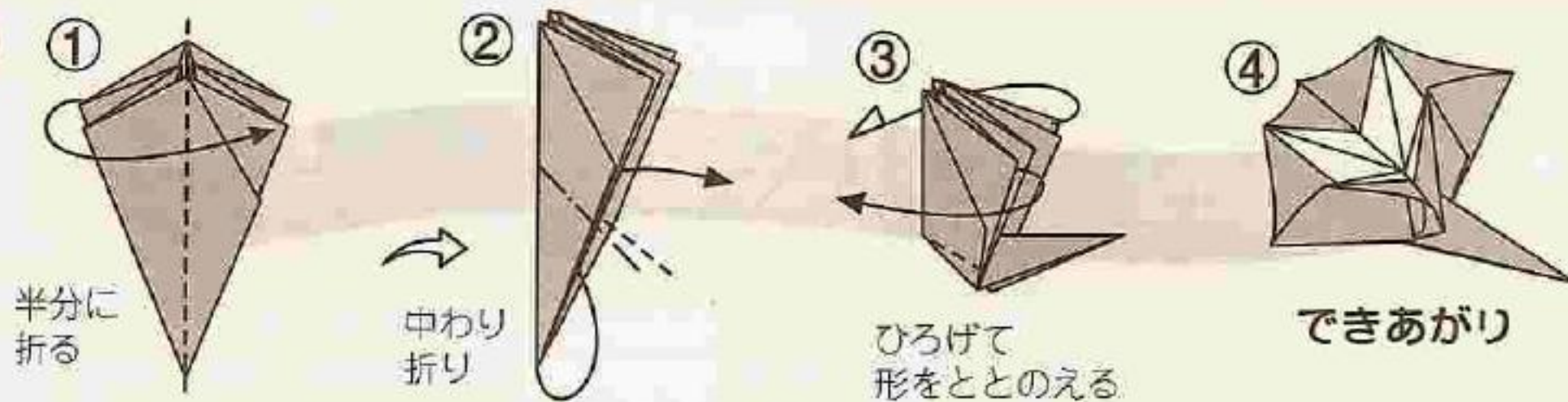


アサガオの葉



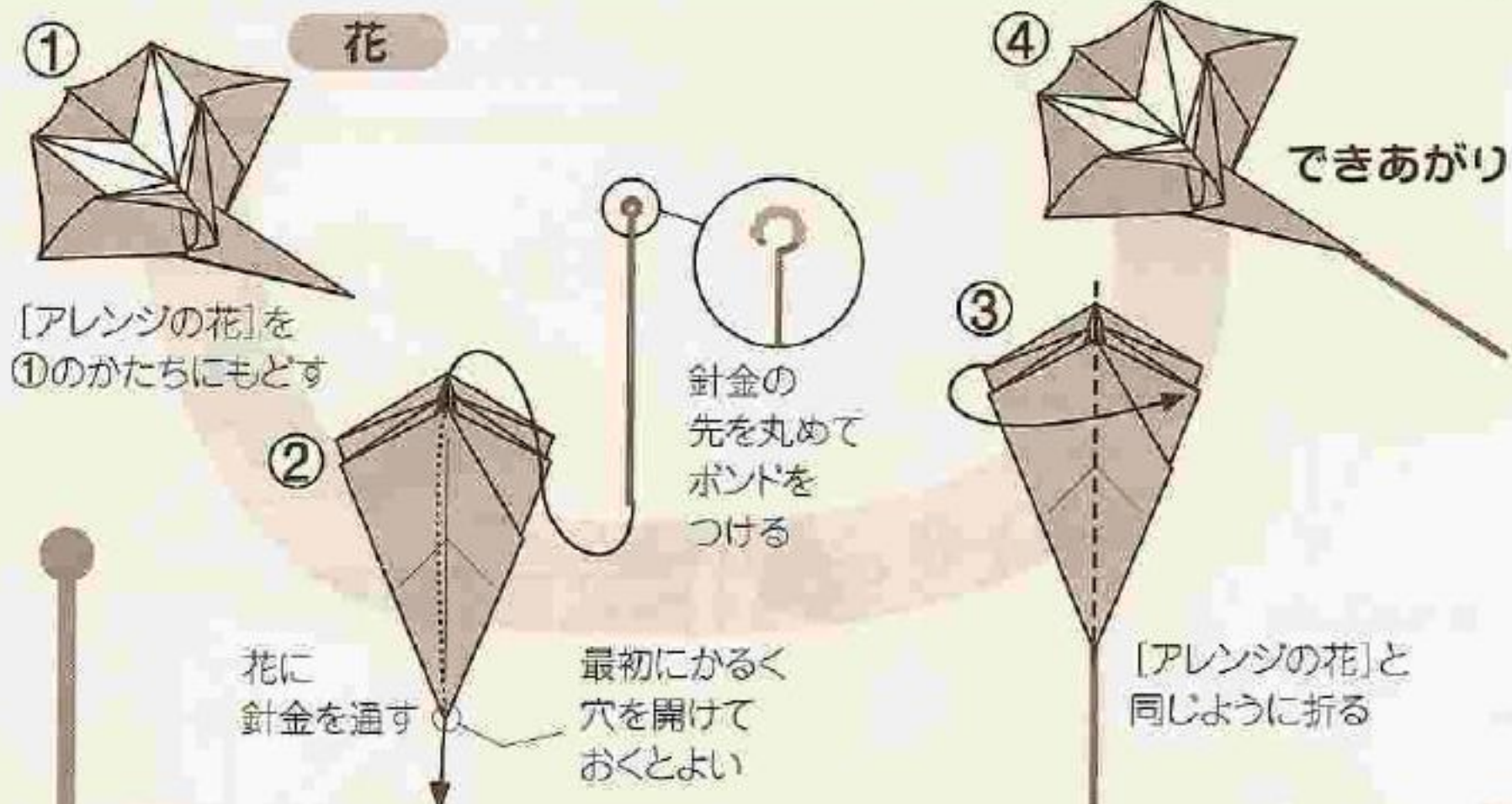
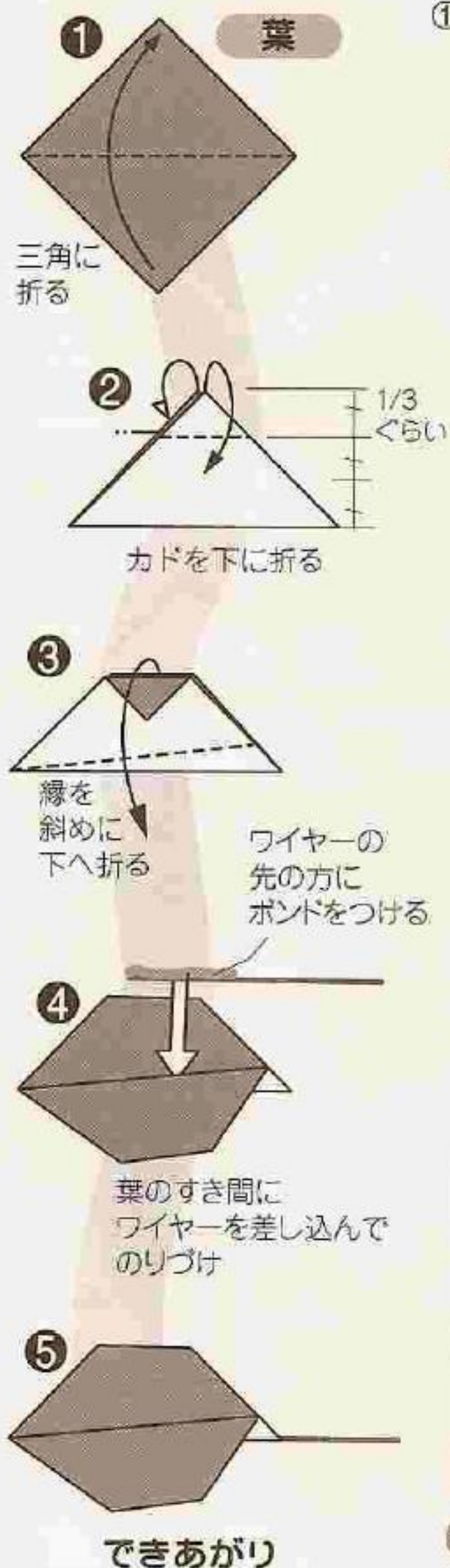
アレンジの花

アサガオの
②から
はじめる

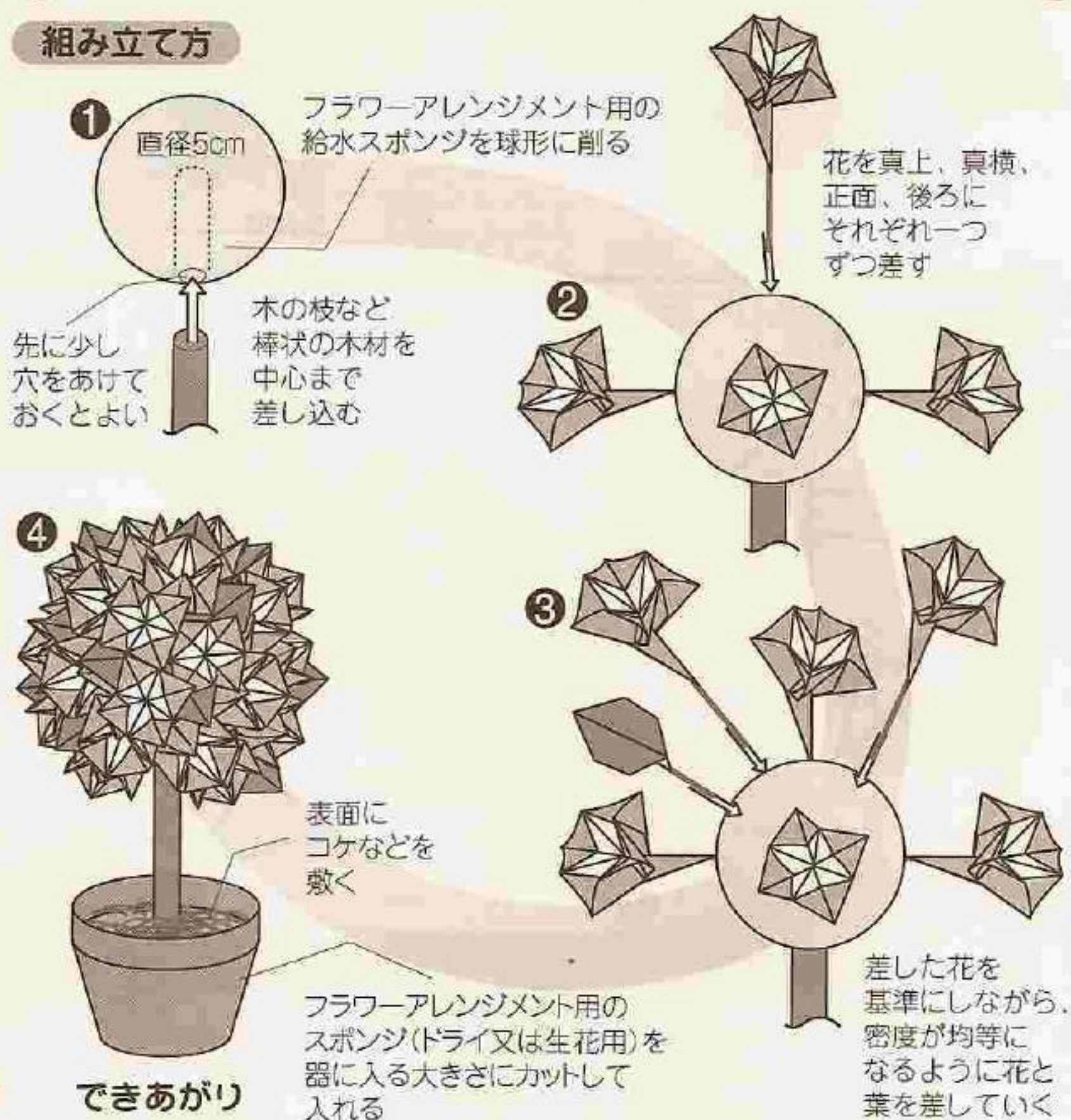


トピアリーの作り方

紙の大きさ=花: 7.5 × 7.5cm・40枚くらい、葉:
2.5 × 2.5cm・15枚くらい



組み立て方



「コノハズク」

ーパーツの考案・組み込みと展開図の検討ー

Invention of Parts, Their Assembly, and Scrutiny of Crease Patterns:
the Case of a Scops Owl

津田良夫

Tsuda Yoshio

最 近の私の創作は仕事に関連して出会った生き物に偏っている。例えば私の研究材料の「蚊」、インドネシア・スンバワ島で拾った「ツノゼミ」、石垣島の「オオシママドボタルの幼虫と成虫」、数千匹にマークをつけて調査した「オオクロバエ」、そして南大東島で出会った「ダイウコノハズク」。今号には「コノハズク」の折り図を掲載してもらえるので、これらの作品の中から「コノハズク」の創作過程について紹介することにした。

原稿をほぼ書き上げた時点で思いついたことがある。折紙探偵団という名日本称から折紙学会になってから、折り紙の設計方法についてはいろいろな形で論文と呼ぶべき研究結果が発表されてきた。しかしひとつの創作作品に関して、その創作の過程を論文の形で発表されたものは案外少ない。例えば小松英夫さんの「折り紙作品の出来るまで」本誌58号(1999)、北條高史さんの「『暫』作品解説」本誌59号(2000)、「『イカロス』作品解説」本誌70号(2001)、「『ガブリエル』制作過程」本誌86号(2004)、神谷哲史さんの「龍神を作る」本誌72号(2002)などだ。

創作された作品について折り図以外に何を論文にするのかと首をかしげる人もいるかもしれない。しかし、その作品の創作のきっかけや、創作の方法、まとめる過程での苦心点、他の作品との関係などはふつう折り図では語られない。私にはこういう創作過程自体が非常に貴重で興味深い情報に思える。そしてこれらの内容について、いわば創作折紙論文とでも呼ぶようなしかなるべき体裁で文章化しておく必要があるような気がしている。

以下に学術論文風に「コノハズク」の創作過程についてまとめてみた。

はじめに

コノハズクは私の最も新しい作品で、お気に入りのひとつだ。今年3月はじめに南大東島に鳥のマラリアを媒介している蚊の調査に出かけた。そのとき出会ったのが片方の翼を失って学生のAさんに飼われているダイウコノハズクだった。体長が20数センチほどの小さな鳥だが、頭部がやや大きめで、クリッとした目が実にかわいい。なんとかこのかわいらしさを折ることができないかと、1週間の調査を済ませて帰る飛行機の中でさっそく考え始めた。

もう10年ぐらい前になるが、「ふくろう」を折ったことがある(津田,1999)。これは加瀬三郎さんのつば(笠原,1978)をヒントにして創作した立体感のある作品である。折る工程がそれほど難しくなく、全体

にふわっとしたふくらみがあるせいか、とてもあたたかな感じのする作品になった。このふくろうには目はない。尾羽も脚もない。それでも、もっと実物に似せるために難しい作品にするよりも、実物とはだいぶ異なるけれど全体の持つ雰囲気大切にしたいと思って、それ以上の改良はしなかった(本音を言うと、もう少しリアルにできないかと考えてみたけれど、その当時はうまくできなかった)。

ところがダイウコノハズクを見てから、ふくろうのよさを生かした上で、さらに実物に近い作品にできないかと強く感じた。特に、大きな目と耳のような羽(耳羽)を折ることができないかというのが一番の課題だった。

材料と方法

骨格となる作品としてふくろうを用い

た。頭部に耳羽を折るためのパーツをまず考案し、これをふくろうの展開図の中に組み込んだ。組み込まれた部分で目を折るための方法を検討した。次に頭部の組み込みに際して副次的に挿入された部分から、尾羽を折り出した。さらに腹部の折り工程を洗練する際に現れた角を利用して脚を折り出し、全体を完成した。

創作の過程と結果

(1) 頭部のパーツの考案と組み込み

ここでふくろうの展開図を見てみよう(図1)。とてもシンプルで頭部は正方形の角に位置している。この部分にうまく収まるような頭部のパーツを考えることがさしあたった問題だった。初めにイメージしたのは丸い目と逆三角の耳羽で、イラストで描くとこんな具合だった(図2)。目を折り出す方法はすぐには思い浮かばなかったので、まず耳羽を折ることにした。これは正方基本形の袋状の部分の一部を折り下げのような形でできると思い、早速折ってみた。図3に示したような感じで折れるのはわかっていたので、これをふくろうの展開図の中に組み込む方法を合わせて検討した。組み込みの方針は単純で、図4のように正方形を対角線で切って一方の角に正方基本形を配置する。この操作のためには図中の灰色部分も一緒に挿入することになる。この部分が後々とても重要になったが、この時点では正方基本形を組み込むために副次的に加えられたに過ぎない。次の問題は正方基本形と全体の正方形のパラ

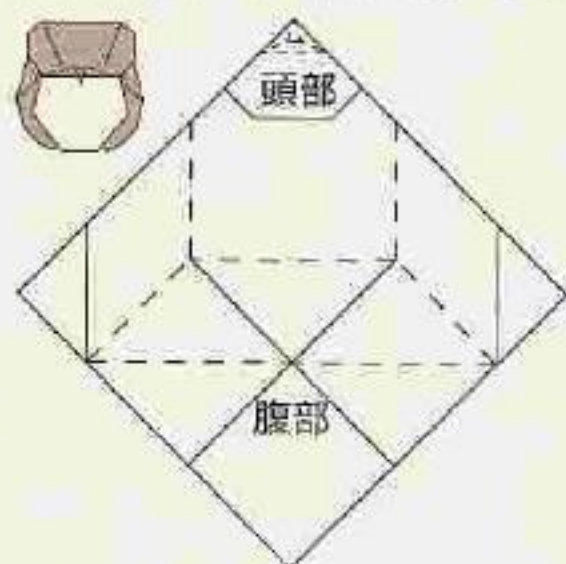


図1. ふくろうの展開図

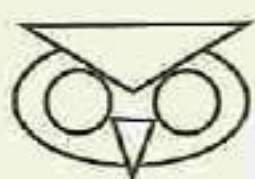


図2. コノハズクの顔のイメージ。

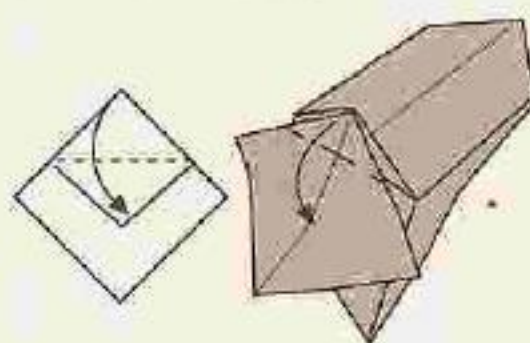


図3. コノハズクの顔を折る方法。(最初のイメージ)

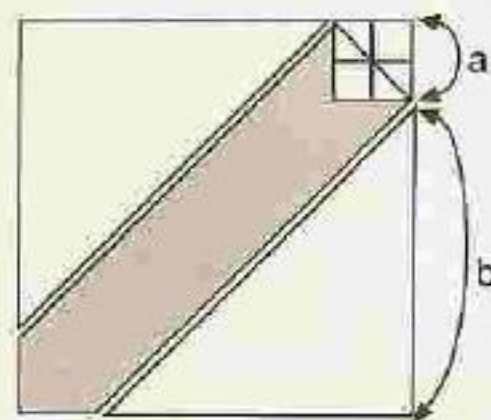


図4. 顔のパーツを組み込む。

「コノハズク」

—パーツの考案・組み込みと展開図の検討—

Invention of Parts, Their Assembly, and Scrutiny of Crease Patterns:
the Case of a Scops Owl

津田良夫 Tsuda Yoshio

ンス、言い換えると図4に示したaとbの比率をどのように決めるかということだ。ふくろうの顔の大きさと体の大きさを考えて計算によってaとbの比率を決めるのもひとつの方法だが、ややこしい比率にすると折るのが難しくなるので、折り易さとだいたいのバランスから考えて、aを正方形の一边の長さの四分の一にしてみた。この比率で試してみても、うまくいかなければ比率を少し変えて再度折ってみる。こういう試行錯誤は、理論的でないような印象を受けるが、数学で例えると近似解を見つけるのと同じで、折り紙の場合は有効な方法だと私は思っている。

四等分を基本として図5のように折り、この形で図4の折り線に従って正方基本形を折ってみると図6のようになり、困ったことに図3のイメージとちょっと違ってしまった。ここでいくつか試行錯誤を行って正方基本形を折る位置を変えて折ってみたところ、折る位置を少し内側に移動させるとイメージに近くなることがわかった。そこで正方基本形が折りあがった時点で、正方基本形の部分がふくろうの展開図の頭部と重なるような位置になるように、展開図を使って折る位置を調整した(図7)。

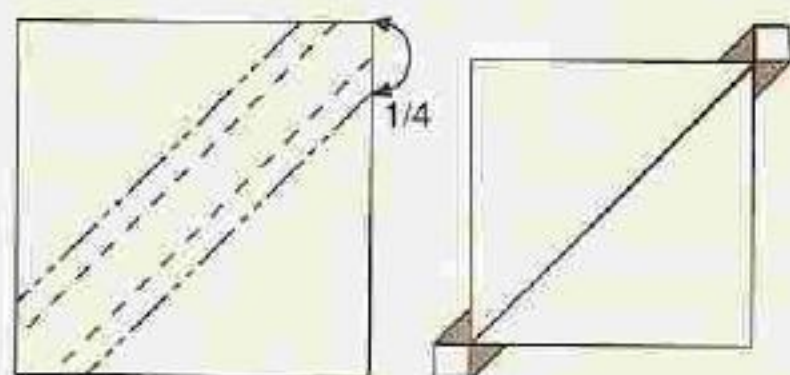


図5. 四等分を基本として折った形

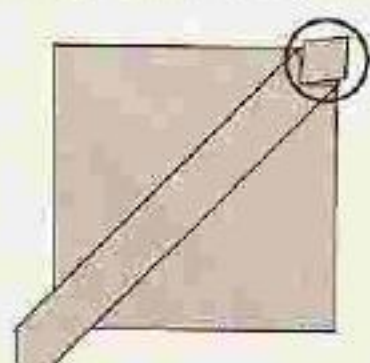


図6. 4図に示した折線で正方基本形を折った形。丸の部分が図3のイメージと違う。

(2) 目を折ることへのこだわり

昨年吉澤章さんの作品展を見る機会があった。いろいろな動物で目を折り出していることが特に印象深く残った。このことがあったせいか、コノハズクを折るときにはなんとかして目を折り出したいと強く感じていた。図7にしたがって折ると、頭部の顔面に当たる部分が上下に2重になった。そこでこの2重になった部分を使って目を折ることを考えてみた。こういう場合に私がよくやるのは、頭部だけを切り出したように別に折って、いろいろな折り方を検討してみることだ。この場合もいろいろな方法でひねっているうちに、図8に示したような折り方に気がついた。簡単に折る工程の少ない折り方なので、この折り方で目を折ることにした。はじめは目の部分だけ紙の裏を出して白くしてみた。苦労したわりに目が異様に目立ってしまったので、最終的には色を変えずに折ることにした。

(3) 尾羽と脚

頭部の組み込みがすむと、図4で副次的に挿入された部分が気になってきた。このままでは、挿入された部分は他の造形に利用されることがなく、かなり無駄に

になってしまう。無駄どころか腹部を折るときにはかえって邪魔になる。それで、この部分を生かすことができないかを次に考えた。図9の円で示した部分はふくろうの背中の先端部分に相当している。副次的に挿入されて襷状に折りたたまれた部分を利用して、この背中の先端部分に尾羽を折り出せることはすぐに気づいた。そこで展開図を利用して尾羽を折り出す位置を図9右のように決めてみた(図10)。ちょっと尾羽の長さが短めなのだが、これをもっと長くしようと思うと全体に大幅な変更をする必要が出てくる。そこまでして尾羽を長くしなくても一応折り出すことができているから、とりあえずこのまま折り進むことにした。おもしろいことに、こうして頭部と尾羽を折ったところで、うまい具合に全体が正方形に納まった。

ここから先は基本的にはふくろうの折り方にしたがって折り進めたが、この作品で立体感を出すためにもっとも大切な腹部の折り方で修正が必要になった。尾羽を折るために襷状に折った部分が重なって厚みが増し、腹部が折りにくくなってしまった。このままではもたついてしまい、すっきりした折り方にならない。そこで襷を開いて重なりをなくして、腹部を折り

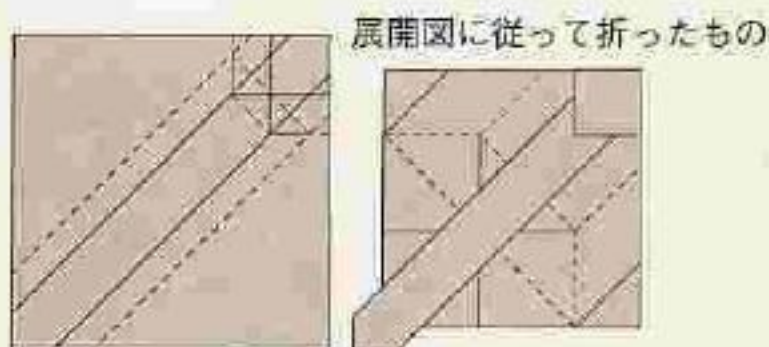


図7. 正方基本形がふくろうの頭部に重なるように位置を修正した。

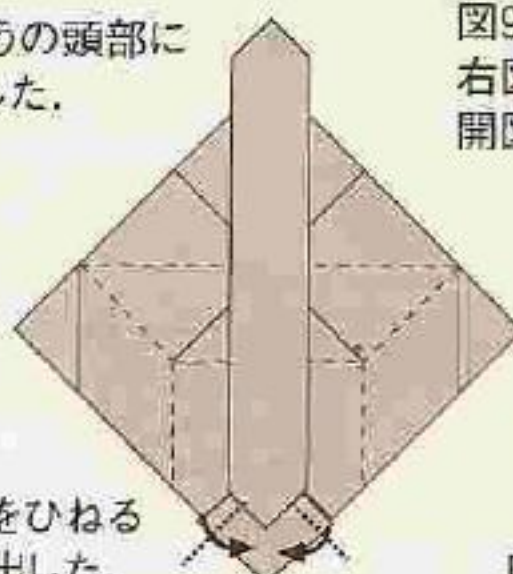


図8. 重なっている部分をひねるように折って、目を折り出した。

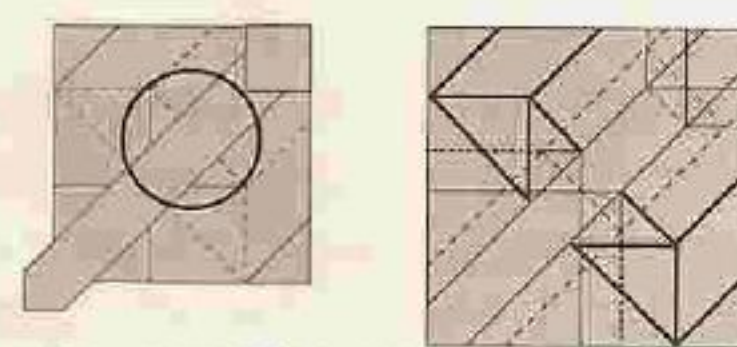


図9. 尾羽を背中の端に折り出す。右図の太線がふくろうの背中部分の展開図を示す。

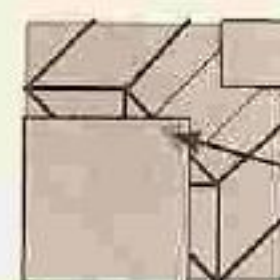


図10. 展開図に従って折りたたんだ。

○津田良夫(つだ・よしお)
=1954年、東京生まれ。国立感染症研究所勤務。昆虫生態学者。疾病媒介蚊の生態と防除の研究をしている。折り紙歴は40年以上。著書に『創作折り紙をつくる』(大月書店)がある。



やすくしようと工夫してみた。試行錯誤の結果、予想外にすっきりと腹部を折る方法があった。そして、副産物であったが、腹部だけでなくその両側に独立した角がひとつずつでき、この角を利用して脚を折ることができた(図11)。

考 察

コノハズク創作のベースになった基本形

無理も無駄もなく脚を折り出すことができたことが、私にはとても不思議だった。そこで改めてコノハズクの展開図をながめ、検討してみた。基本形の骨組みをはっきりさせるために、頭部と腹部の折り線をすべて削除してみた(図12)。展開図にしてみると、上部に小さめの正方形a、下部に大きめの正方形bがあることがわかる。そして正方形aから頭部が作られ、正方形bからは腹部が作られている。基本形としてこの展開図をみる時大切なのは正方形aとbの比率で、この作品の場合腹部の大きさとのバランスと折り易さでこの比率が決められた。図11と12を比べてみるとわかるが、脚の部分は2つの正方形をつなぐ部分を段折りにしてできた襷を利用して作られている。ふくろうの展開図(図1)と比較してみると、ふくろうの場合腹部が正方形の大

部分を占めていて、脚を折り出すための余裕がない。以前ふくろうに脚をつけようと思っいろいろ試みたがうまくいかなかった。その理由が今回のコノハズクの創作でようやく納得できた。

展開図の検討

図12の展開図をみていると、2つの正方形aとbの距離をいろいろに変えたら、折りあがった基本形にはどんな違いが出てくるのだろうという興味がわいてくる。例えば2つの正方形をもっと近づけると図13左のようになり、さらに近づけてこの構造が保たれるぎりぎりまで接近させると図13右のようになって、中央部に小さな正方形が折り出される。このように変形すると、あじさい折り(藤本, 1994)と似た折線構成になっていることがわかる。2つの正方形の距離が中途半端であると、すっきりした作品にはならないと思う。つまり、展開図の上では2つの正方形の距離はいろいろに取り得るのだが、特別な距離があって、その距離で基本形を作るとひとつの作品を折り出すことができるといえるような気がする。今後2つの正方形の位置をいろいろに変えて、どのような作品ができるかを考えてみると良いだろう。

謝 辞

私にコノハズクを折ってみたいという強い感動を与えてくれたダイトウコノハズクのフウタにまず感謝します。そして、私の折ったコノハズクを見て、特徴が良く折れていてコノハズクと言っても問題ないと確認してくれた赤谷さん、わかりにくい折り図と苦戦しながらも折り上げて図の問題点を指摘してくれた堀江さんと斉藤君、コノハズクのビデオを見せて解説してくれた松井君たち南大東島の鳥類生態研究チーム(大阪市立大学)の学生さんに感謝します。

いかがでしょうか? 「コノハズク」を創作した過程について読まれ、何か参考になることがあったでしょうか。

創作の方法は人によっていろいろで、どの方法が優れどの方法が劣るというようなものではないと私は思います。そして、いろいろな方法があるがゆえに多様な作品が生まれてくるのに違いありません。いろいろな創作方法を学ぶためにある作品の創作の過程について詳しく解説したものがあってもよいように思い、コノハズクを例に創作折紙論文としてまとめてみました。

引用文献

笠原邦彦, 1978. アイデアいっぱいおりがみシリーズ, 4つのたのしみ, No.6: p.26-27. サンリオ.
藤本修三, 1994. 鮮やかに幾何の花咲くアジサイ折り. をるNo.4: p.54-60. 双樹舎.
津田良夫, 1999. ふくろう. シンポジウム折図集: p.198-200. 日本折紙協会.

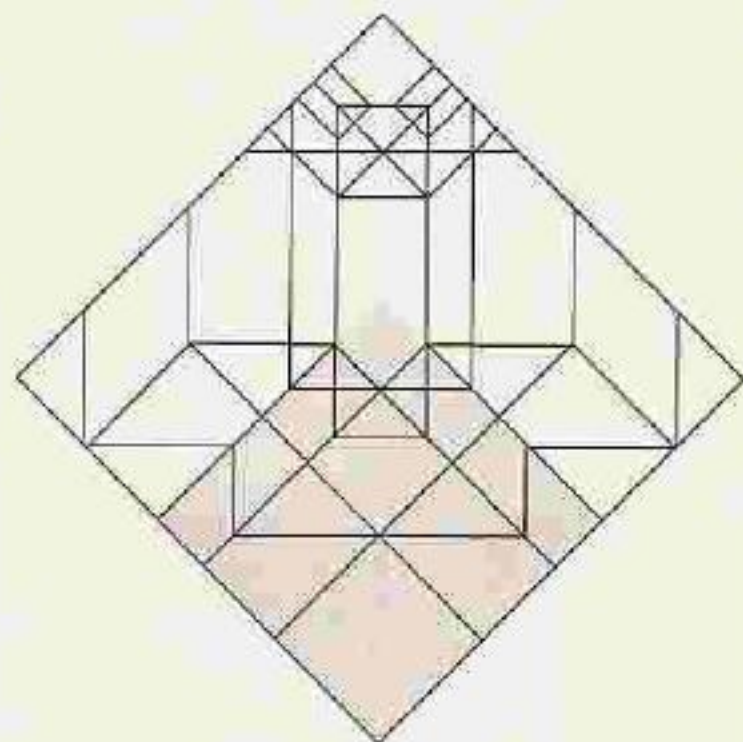


図11. 腹部とは独立して角が折りだされた。この角を利用して脚を折ることができる。

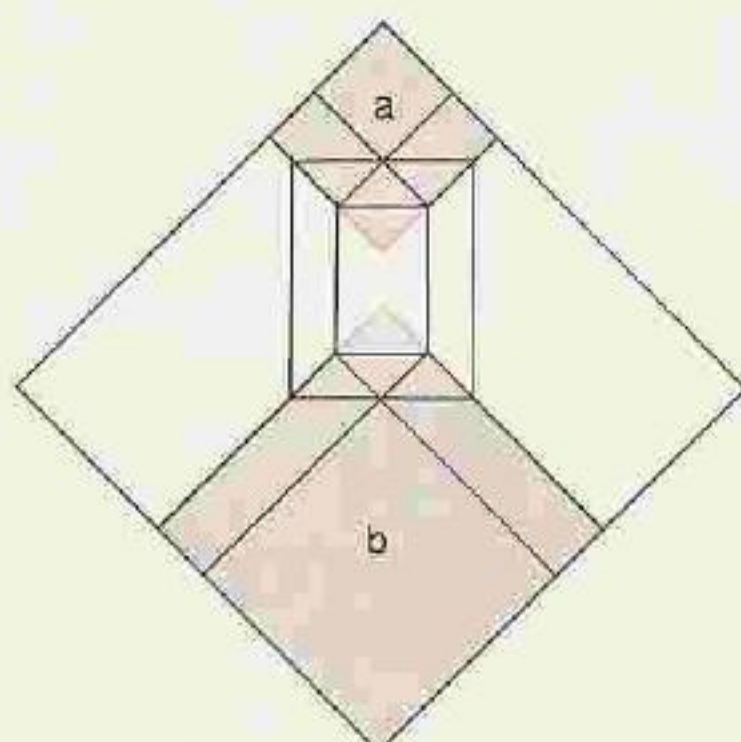


図12. コノハズク創作のベースになった基本形の展開図。

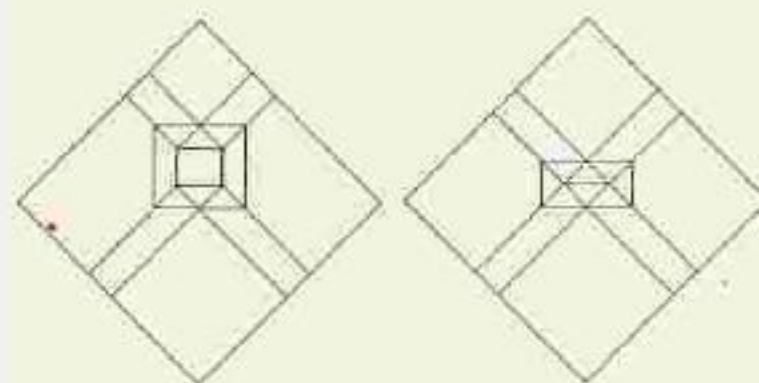


図13. 基本形のaとbを近づけた展開図。

Afternoon Origami

第8回 コレイア讃 Correia: an appreciation

『折紙探偵団』読者の皆さんは、バンサン・フロデュールとエリック・ジョワゼルという、フランスを代表する折り紙アーティスト2人の作品を、すでによくご存知でしょう。(それぞれ2002年と2004年に、吉野一生基金招待者として来日しました。)しかし、フランスにもう1人、精力的に活動している重要な折り紙アーティストがいることは、ひょっとしたらご存じないかもしれません。パリに住むジャン＝クロード・コレイアがその人です。



れています。後年の注目すべき作品にも、この影響が同じように現れています。

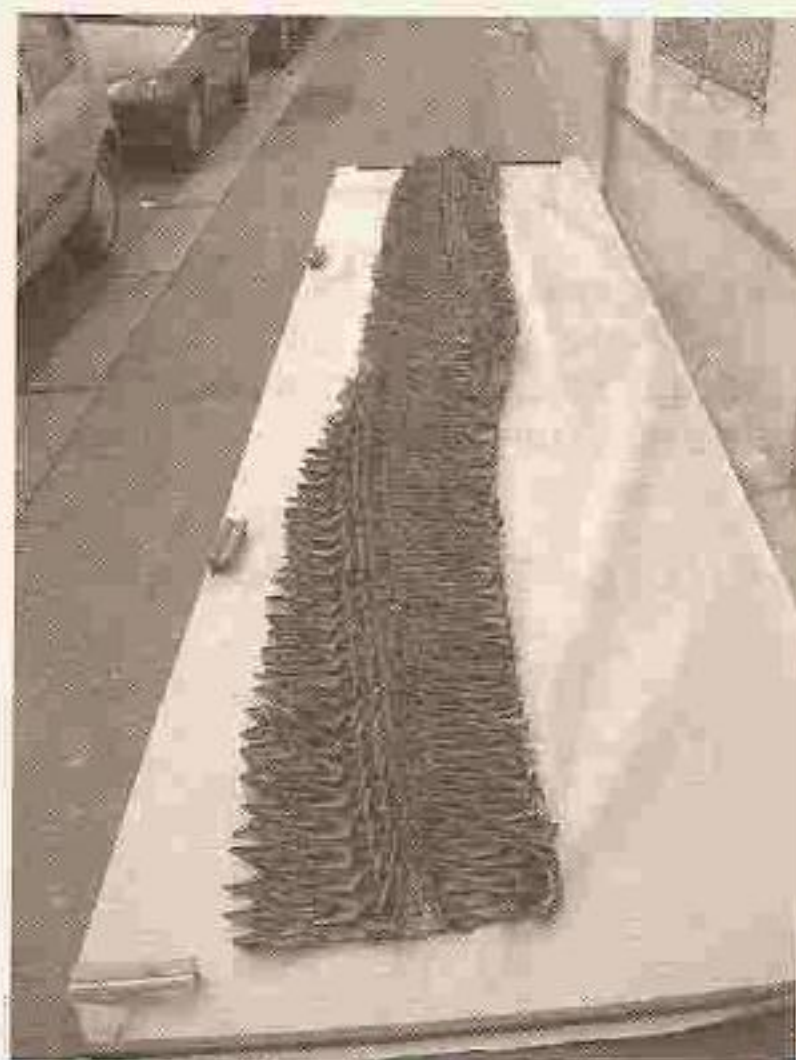
1978年、コレイアは、学生時代からの友人であるジル・ゴータランとともに、Mouvement Français des Plieurs de Papier (MFPP: フランス折紙協会)を設立します。これは、イタリアのCDOやイギリスのBOSなど、ヨーロッパの各折り紙団体に倣ったものでしたが、当時からMFPPは、いかにもフランス風の魅力に満ちていました。機関紙『Le Pli』の初期の各号は、ジャン＝クロードとジルの練達した手による繊細な図と、風変わりな楽しい記事とに満ちあふれていました。MFPPメンバーの中ではパリの地下鉄の切符を折るのが盛んで、80年代初めには、地下鉄の切符を使った作品を集めた興味深い小冊子『Le Ticket Plie』(切符折り)第1巻と第2巻が出版されています。これらの独創的な作品は、主にコレイアとゴータランの創作によるものです。

コレイアはMFPPを率いて、2つの大規模な折り紙フェスティバルをフランスで開催しました。1982年にはトゥールーズ郊外ミルボワ・スル・タルヌにて、そして

ジャン＝クロード・コレイアは、1945年にモロッコのカサブランカに生まれました。1968年から72年までパリ装飾美術大学で学び、その後数年間画家として活躍しました。1975年には、福岡の岩田屋でも絵画の個展を開催しています。しかし、1973年にパブロ・ピカソが他界したことが、彼の人生にとっての転機となりました。彼は、ピカソに対する個人的な賛辞として、新聞の死亡記事を集められるだけ集め、それを正方形に切って、数え切れないほどのココットを折りました(ココットというのは、パハリータとして知られるヨーロッパ伝承作品の、フランスでの呼び名です)。

創造的表現の手段としての折り紙の

可能性を認識したコレイアは、笠原邦彦の本も含め、折り紙の本を多数入手し、それを片端から折ってゆきました。彼は、ニール・イライアスやマックス・ヒュームといった西洋の作家の作品に魅せられ、それに刺激を受けて、自分でも創作を始めました。「Les Poissons des Abysses (深海の魚たち)」や1枚折りの「頭蓋骨と脊柱」などの作品があります。イギリスのジョン・リチャードソンが1979年に創作した「ハリネズミ」の、無数の中割折りで表現された棘と段折りで作られた曲面とが、彼の作品に大きな影響を与えました。このような表現は、コレイアが80年代初めに創作した「イグアナ」の、中割折りで表されたうろこや鱗のある胴体に受け継が



La Peau: 皮膚

Photos by Gilles Puech



Les Fragments du Temple
神殿の断片



Marécage: 沼



Les Fragments du Temple, les
Guerriers I: 神殿の断片・兵ども I



Sans titre: 無題

○David Brill(デビッド・ブリル)=イギリスを代表する折り紙作家の1人。1975年よりBritish Origami Societyの活動に積極的に参加、代表も務めた。折り紙以外の趣味は油絵。



1983年にはグルノーブルの製紙貿易見本市の一部として。私は両方に出席しましたが、両者は大きく異なっていました。1度目は暑い6月ののどかな田舎の村、2度目は凍えるような11月のにぎやかで大きな会議場でした。グルノーブルでは、重要な折り紙人が一堂に集まりました。ガーシオン・レグマン、エリック・ケネウェイ、ポール・ジャクソン、ロベルト・モラッシ、さらには桃谷英樹・恵理子などです。

しかし、グルノーブルの後、1984年に、コレイアはMFPPの会長を辞任しました。彼が設立した組織は、すでに彼がいなくとも機能することができるようになっていたので、彼は自分自身の考える折り紙表現を追求しようとしたのです。彼にとって、origamiという言葉は、色紙を使う伝統的な日本の手芸を連想させ、それは彼の考えや彼が作品に込めた意図とは大きく隔たっていました。そこで彼は、「折る」という意味のpliageという言葉が好きで使いました。フランス折紙協会の名前の中にorigamiという言葉が含まれていないのには、そういう意味があるのです。

MFPPの舵を取るという重責から解放されたコレイアは、段折りとねじり折りからなる作品の大規模な連作へと乗り出しました。パリ中心部の大きなスタジオを作業場とし、しばしばクラフト紙や製図用紙

の巨大なロールを使って作られる作品は、ときに不規則な形を伴い、表面には類いまれで個性的な質感が現れています。これらの作品は、樹の皮や海の波、固化した溶岩といった自然の形を連想させます。彼の作品では、絵の具や色鉛筆で色が付けられることもあり、また1枚の紙の中で、正確に折られた幾何学的な段折りやねじり折りの領域と、自由に渾沌とした領域とが、対比を見せることがよくあります。すべての作品にサインがされ、手紙に封をするときの古い方法である封蝋が施されています。また、紙の大きさも記録として書かれています。

コレイアの作品は、ほかのアーティストのように動物や人物の形を模倣することはほとんどありません。その代わり、質感、動き、感情を暗示しています。作品はそれぞれが独特で、二度と同じものを折ることはありません。もちろん、他人が同じ作品を折ることも考えられていないので、後のために折り図を残すこともありません。その点は、フロデュレールやジョワゼルの作品と共通するところがあります。フランスのこの2人の折り紙アーティストも、「1度きりの」再現できない作品を作っています。また、彼らが使う色には、どこか「フランス的」なところがあります。茶色や黄土色、赤といった自然で暖かい「アースカラー」がよく見られます。

1988年6月のニューヨークコンベンションにおける講演で、コレイアは、彼の作品

における秩序と渾沌との矛盾を、ときに知的に、ときに詩的に、説明しています。その1部分をここに引用します。原文を読みたい方は <http://www.britishorigami.info/practical/highlite/130-39.htm#131> をご覧ください。

モーリシャス島で、私はカジキを釣りに行きました。朝早く出発し、夜遅く戻ります。一日中小さな船の中で過ごします。餌を見つめていると、突然怪物が食いつきます。彼は捕らえられ、逃げようと闘います。あらゆる動きが敏速です。荒海が渾沌の中にあることが感じられます。うねる水面は、しわくちの紙です。蟻でさえ私をべしゃんこにつぶすことができるように思えます。次の日、小さな飛行機に乗り、インド洋の上を飛びました。同じ時刻、同じ天気、海は荒れています。しかし、渾沌はすでに去っています。波は一方向にそり、水平線は秩序立って折られています。大海を折ることなど不可能ですが、それをするだけの時間と忍耐とがあったとしましょう。そうしたら何を作ることができるでしょうか。渾沌の中で夢見た魚たちを欠いた、残り物の海。

折り紙は芸術であるわけではありません。人が、折り紙を通じ、自らの文明の証を示すとき、折り紙が芸術になるのです。そして、そのために、私たちは今ここにいます。

コレイアの作品は、最近では以下のところに展示されました。

* Masters of Origami (2005年7月から9月・ザルツブルク)

<http://mastersoforigami.com/>

* Expression Pli (2005年5月から9月・ラドゥーズ美術館)

<http://laduz.com/animations/les-expositions-du-musee-de-laduz>

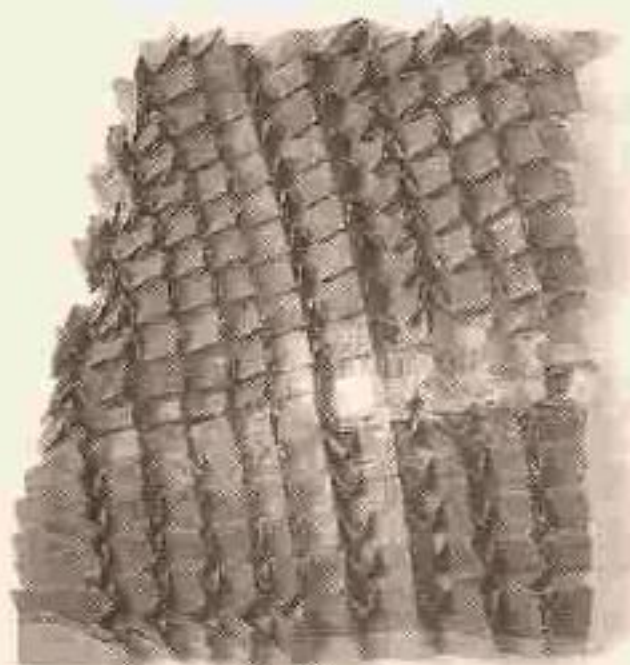
<http://laduz.com/images/29.jpg>

* L'art en Ville (2006年3月から4月・キュッセ)

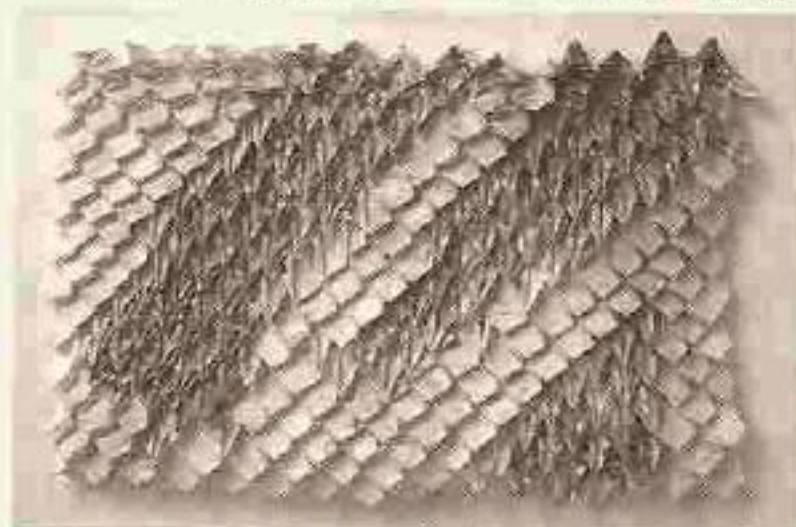
* Holland Paper Biennial (2006年6月から9月・ライスワイク)

<http://www.hollandpapierbiennale.nl/en/index2.html>

* Correia en Deux Temps (2006年7月・パリRecif Images)



Les Dernières Nouvelles d'Alsace:
アルザスの最新ニュース



Suintements Gris avec Écailles Blanches:
白い鱗のある灰色の滲出

Division of a Line Segment

漸近等分法

97号で述べたように「平織り」、「あじさい折り」、「漸近等分法」など藤本さんを語るキーワードは幾つかある。そのうち、今回は漸近等分法を見てみよう。印刷されて残っているもので「漸近等分法」が最初に記述されているのは『創造性を開発する—ねじり折り(2)』(1983年9月、自費出版、JOAS図書収蔵)と「おりがみ97号」(1983年9月、日本折紙協会)ではないかと思われる。しかし、1982年夏の日本折紙協会の「折り紙シンポジウム」(久能山)で私が藤本さんにはじめてお会いした際の、極めて個人的だが結構確かな記憶(*註)の助けを借りれば、この時に「漸近等分法」についてお話を伺ったことを覚えているので、『創造性を開発する—ねじり折り(2)』にまとめる1年以上前には方法としてはっきりしていただろう。後に詳述するが、「漸近等分法」は一定の操作の繰り返しで求める分割に収束させるもので、理論的には収束には無限回の操作が必要である。まず多くの人が最初に考えなくなる初等幾何的方法とちょっと発想が異なる。藤本さんも最初の著書では初等幾何的方法を何パターンか紹介しているが、「漸近等分法」の発想を得てからはその実用性の高さから「漸近等分法」を薦める。

<漸近等分法以前>

用紙の辺や角度の2の累乗分割は明白だ。紙を半分に折ることは殆ど疑いのない基本的な折り紙操作だから。それではと、奇数分割法についていろいろ考えてみたくなる。『創造性を開発する立体折り紙』(新写植出版、1976年8月1日発行、JOAS図書収蔵)および『創造する折り紙遊びへの招待』(1982年、自費出版)には

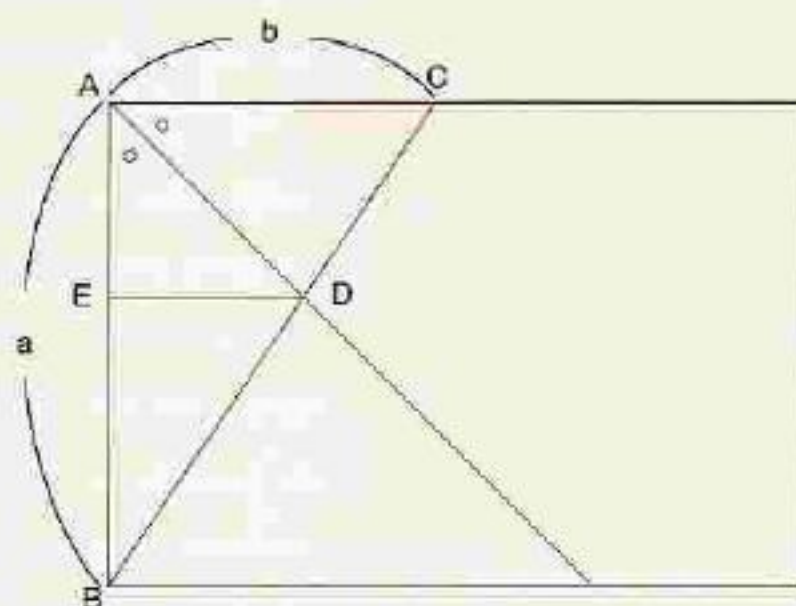


図1 等分したい奇数を n として $n=a+b$ とする。 $\angle A$ の2等分線とBCの交点DからABにACと平行な線を折ると、EはABを $a:b$ に分割する(Dを共有する2つの三角形は相似なので)。aを適当な2の累乗(4, 8, 16...)として、Aからb番目を選んで、 $\angle A$ の2等分線を折るときにbを上の方に移せばC点を得られる。a=8, b=3ならAE:EB=3:8でABを11等分する基準点を得る。

幾つかの初等幾何的な用紙の分割法が記載されている。折り紙の分割法の全体像についてはRobert J. Langさんの『折紙探偵団』55-57号や http://www.langorigami.com/science/hha/origami_constructions.pdf を参照いただきたいが、ここでは『創造性を開発する立体折り紙』に記載の明快な方法を1つ紹介しておく(対角線交差法(呼び名は『折紙探偵団』56号より)、図1)。この方法は同著を参考文献にしている『折り紙と数学』(遠藤啓序・堀井洋子著、明治図書、1977年10月 JOAS図書収蔵)にも紹介されている。また、Robert J. Langさんが『折紙探偵団』56号で「藤本法」と呼び Jeannine Moselyさんが再発見したとしているものは、ここから発展させた方法で『創造する折り紙遊びへの招待』に紹介されている。

<漸近等分法(1)>

折り紙用紙の奇数分割法は上述した

「対角線交差法」で基本的なこと足りる。ただ、実用的には個別の分割点を求めるための手順の少なさや内部に発生する余分な補助線または実際に折った場合の誤差(折り難さに起因する)を気にして様々な工夫が成される。これは私の想像だが、実践者としては、理論的に正確であるが折り難さにより発生する誤差と、折りやすく実用上問題とならないが理論的には誤差が分かっている誤差を天秤に掛ける。「漸近等分法」はまさに、その誤差が操作を繰り返す度に理論的には0に近づき、それ程多くない繰り返し数で実用上問題とならないという、実践者の欲求に美しく応えるものだ。『創造性を開発する—ねじり折り(2)』で、藤本さんは3等分や5等分について発見した実例(図2)から、操作「 nA_m/B 」を一般式として示した。これは、「 AB_0 間を 2^n 等分して B_0 からM番目の点へB側を1回合わせて B_1 を得る。 B_1 を B_0 と見て操作を繰り返す。(1は省略)」と読む。図2の例を参考に $2A_3B$ や $3A_1B$ が何等分点を与えるか試してみたい。理屈上は最初の B_0 はどこでも良いが、 B_0 が実際の分割点に近ければ収束も早い。

同書ではこの方法が辺だけでなく角の等分についても全く同様に適応できることも言及されているのも重要なことだろう。

<漸近等分法(2)>

さて、上記方法は「漸近等分法」のおそらく最初の形であるが、見ての通り操作の定義がやや煩雑だ。X等分のための操作式「 nA_m/B 」が直ぐに分からない。表にして参照する必要がある。ところが、藤本さんは『創造性の文化と科学』(伏見康治編著、共立出版、1989年)に執筆を

○西川誠司(にしかわ・せいじ)＝1963年生まれ。JOAS評議員代表を6年間務め今年退任。40代になってからは15°系構造の創作にはまる。最近2匹のヨークシャーテリア(メルシー&プリエ)をひたすら可愛がる日々。



担当した中で、より明快な方法を紹介している。11等分の方法を例にしよう(図3)。同書では例えば11等分の操作を「113」(操作数)と定式化して表す。初めに約1/11のところ当たりをつけて折ると、折線は辺をおおよそ5:6に分ける。次

に6が偶数なので更に半分になると、新しい折線は辺をおおよそ8:3に分ける。偶数の8の方は半分、半分と繰り返すと1まで行き着き約1/11を与えるが、この約1/11は元の約1/11より正しい値に近付いている。一般的にある等分したい奇数を $2n+1$

とおき、おおよそ1と思われるところを目指した最初の一折り、これが辺を $n:n+1$ に分ける。 n あるいは $n+1$ のどちらかが偶数なので、そちらをもう半分に割る。更にこの分割で奇数になるまで繰り返すと、残った側が必ず偶数になるので、次は反対側を分割する。表に49までの奇数等分の操作数を示したが、上述したその成り立ちが理解出来れば自分で操作数を容易に得られる。実用上の性能はすばらしく、11・13等分当たりでは是非実感してみたい。5月のRobert J. Langさんとの訪問時に、藤本さんから、この方法を次の言葉とともに簡明に解説していただいた。「折り紙の基本は半分半分にすることやと思うんです。」



「漸近等分法」は「創造性を開発する—ねじり折り(2)」のなかで、藤本さんも述べている通り、初等幾何的な方法と違って繰り返し操作によって級数的に誤差が小さくなる性質を使った代数的方法とも見える。しかし、辺だけでなく角の等分について全く同様に適応でき、辺、角などの量の2等分を本質的な操作とする極めて折り紙的な方法といえるのではないだろうか。

註)1982年は私が大学に入ったばかりの年で、はじめてのシンポジウム参加だった。高校での級数の練習問題の中に2等分の操作を繰り返しているうちに1/3の座標に収束するというものがあって、折り紙で実験して3等分の級数的方法になることを見つけた。友人と担当教諭に報告に行ったが、つれない対応であった。高校時代の悲しい記憶だが、翌年のシンポジウムで n 等分まで言及している藤本さんに出会えたのは幸運であった。こういうことが面白いと思った自分への自信にもなった。——ので良く覚えている。

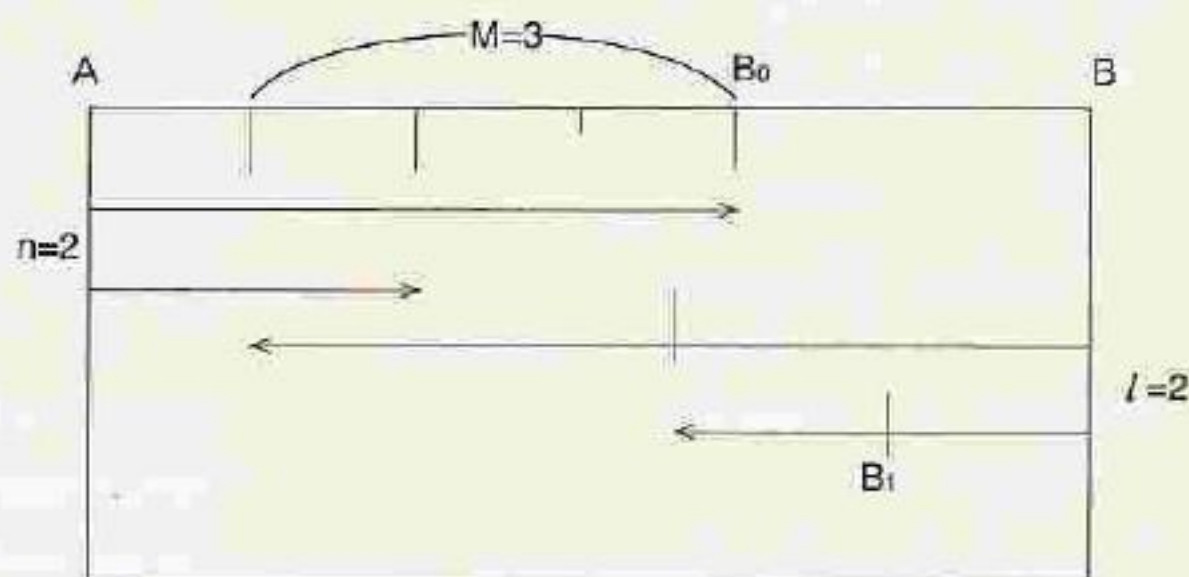


図2 図は5等分の例で $2A:2B$ と表される。3等分は AB となる。

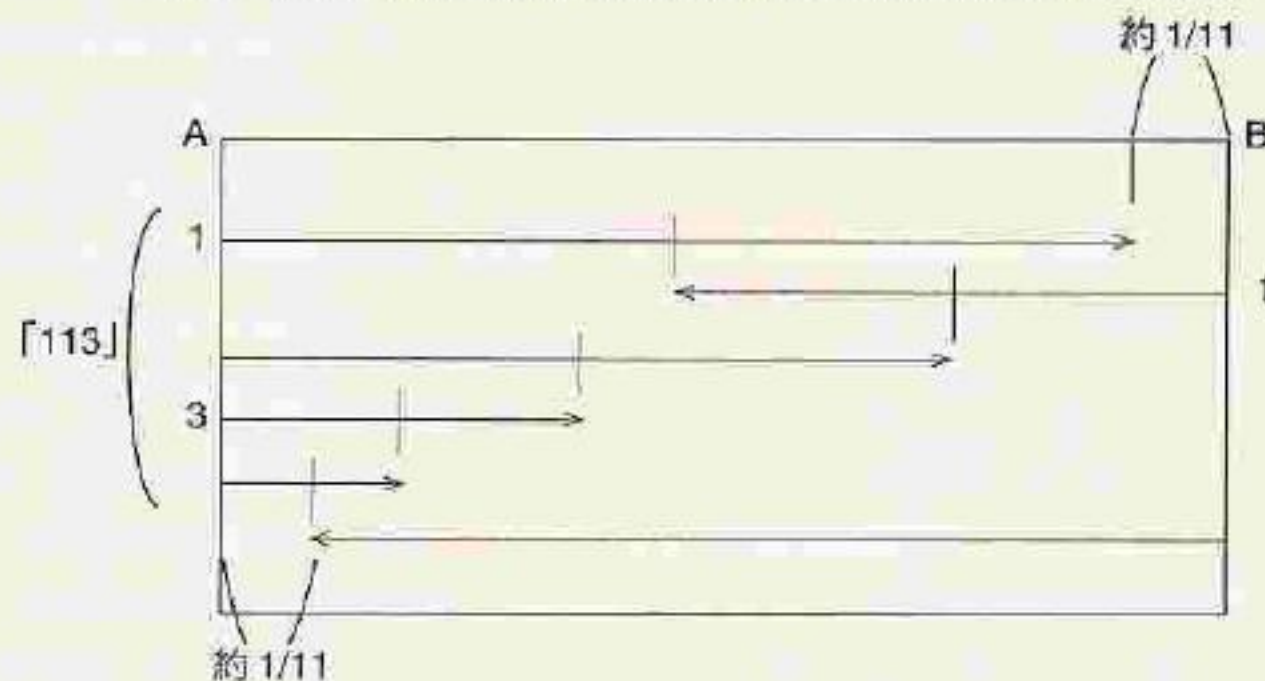


図3 初めに当たりを付けた約1/11より「113」の操作を経てできた約1/11(左下)の方がより正しい1/11に近い。2回も繰り返すと実用上誤差は問題ないレベルまで小さくなる。

漸近等分法(2)による操作数(『創造性の文化と科学』p207より抜粋)

等分	操作数	等分	操作数	等分	操作数
○ 3	11	○ 19	11125	35	111135
○ 5	22	21	24	○ 37	221113125
7	12	23	122114	39	121125
9	33	25	31114	41	325
○ 11	113	27	11214	43	115
○ 13	213	○ 29	2112314	45	212115
15	13	31	14	○ 47	132212311115
17	44	33	55	49	4112321115

○印を付けたものは、この操作数だけですべての等分点を得られるもの。それ以外は適当な分割に収束してしまう。例えば15等分の操作「13」では用紙を7:4:2:1:1に分割する。しかし、この分割が正しく得られれば、他の点の求め方は容易に見つけられる。原著『創造性の文化と科学』では全分割点を求める操作数にも言及している。

第2回

笹の葉さらさら

Bamboo Grass Rustled in the Breeze

July 7th is the day of TANABATA, a festival which originally is associated with a Chinese folklore. In the story, two stars (male and female) will meet and date only once a year crossing the Milky Way (which is considered a stream in the East). There are various events that are held on that day or July 7th of the lunar calendar (around August 7th) all over Japan, the most famous among which is the one held in Sendai in the Tohoku region of Japan. Streets are crowded with decorated bamboo trees. Of course, many origami models are used for decoration. They are like Christmas Trees in the summer.



折紙散歩

Origami Sampo
Doggedly Determined

雛 祭り、端午の節句ときたので、今回は、自動的にというか、考えもなくというか、七夕である。とは言っても、七夕祭りは月遅れで行われるものが多いので、取材は昨年行なった。この連載のネタ集めはけっこう計画的なのである。威張るほどのことでもないけれど。なお、旧暦(天保暦)の7月7日は、今年は7月31日にあたる。この日なら、太陽暦の7月7日より、星空を望める天候となる確率が高い。同日、ベガ(織女星)とアルタイル(牽牛星)は、23時頃にほぼ天頂に位置する。白鳥座のデネブと合わせて、いわゆる「夏の大三角形」をかたちづくっているのを見つけやすいはずだ。なんて、思わず、本業はい話になってしまったが(天文台の仕事をしています)、まずは、七夕という行事についておさらいしておこう。

七夕は、織女と牽牛の物語にちなんだ中国の宮廷行事と、日本古来の機織りの巫女の禊(みそぎ)の神事が習合したものとされる。紡織という技術自体が大陸から伝わったものだろうが、織女・牽牛の伝説の伝播以前に、普段は水辺で機織りをし、神事において巫女となり神を宿す女性という信仰が日本にはあったと言われる。この伝説は全世界に類型が多く、起源は中近東という説もあるようだが、日本では、古事記の棚機津女(たなばたつめ)伝説などとして知られるものである。そう、タナバタのハタは機織りのハタなのだ。鶴の恩返しも同じ系統であろうし、アマテラスが女神なのも、似たタイプの巫女が転化したためとも言われる。

いずれにせよ、七夕で重要なのは機織りである。七夕の民俗行事でも、着物

を供えるというものが多い。現在最も一般的な七夕の習俗は笹飾りだが、ここでも紙でつくった着物が重要な要素となる。

さ て。七夕祭りで有名なのは仙台である。Jリーグチーム名のベガルタもベガ+アルタイルからきている。昨年初めて、この仙台の七夕を見てきた。これは、かなり「折り紙している」祭りであった。商店街の各店舗などが、思い思いに吹き流しをつくって飾るのだが、多面体や折鶴はもちろん、ひまわり、金魚、シヤツ、あじさいなど、バリエーションに富んだ折り紙作品が使われていた。変わったところでは、脚を省略したシンプルなクワガタムシもあった。吹き流しにはり付いているさまは、蠅取り紙に捕獲されたようにも見えたが、子供が一生懸命つくった感じが微笑ましかった。多面体も多種多様で、球体にせずに一部だけを組んでレリーフ上に貼り付けるという技法も多く見られた。この時期の仙台地区の折り紙の消費量は、8月の東京都文京区の比ではない!なお、初



クワガタと花の多面体

Stag Beetles and Flower Polyhedrons

めて知った作品として、一わたくしが知らないだけで有名なものなのかもしれないが一折鶴を正面から見たかたちで平面化した「正面折鶴」が各所にあった。

折鶴と言え、仙台の七夕飾りには、七つ道具というものがあり、そのひとつが折鶴ということになっている。他の六つは、着物(紙衣)、短冊、巾着、投網、くずかご、吹き流しで、いずれも紙細工である。短冊の代わりに吹き流し状の「七夕線香」とする場合もある。これらの七つ道具をきっちり守っているのは、駅前近くのアーケード街より、より素朴な形式を残す、荒町や南鍛



仙台の七夕飾り

Decoration of Tanabata Festival in Sendai



正面折鶴 Front-Faced Cranes

独特の七夕飾りがなされた、松本市の重要文化財保存住宅・馬場家にて。



前川 淳 Maekawa Jun

折紙創作・研究家。折鶴モノのコレクター。東京生まれで東京在住だが、1年の約1/3は、天文台の仕事のため、長野・山梨で過ごす。好きなもの：阪神タイガース、星空、書店、喫茶店、幾何学的調和。

治町の商店街の飾りである。ただ、その七夕道具の起源そのものも、そう古いものでもないらしい。投網とくずかごはひっくり返しただけの同じ造形であるなど、七夕にちなんで、むりやり七つにした感もある。そもそも仙台の七夕祭りが、「仙台の」の冠つきになるほど盛んになったのは、昭和初期に商工会議所等が音頭をとって始めて以来のことであるという。

そうした由来もあるのだろうが、あらためて考えてみると、仙台の七夕祭りというのは奇妙な祭りである。練り歩いたり、踊ったり、ものを奪い合ったりといった体育会系の要素がまるでない。パレードや花火大会がないこともないが、それらはあくまで七夕祭りの本筋ではない。また、神託を受けたり、奉納したりといった、はっきりとした信仰の要素も見られない。観光客にとっては、街の飾りを、あるいは飾りによって普段とは違う空間となった街を、ただただ見て歩くという行事なのである。なんというか、大規模な夏休みの

工作発表会みたいなのだ。批判していると思われるのは困る。懐かしくも楽しい、ほのぼのとしたイベントであるところがキーポイントなのである。じっさい、現地で見るまでは、これほどまでに手作り感にあふれているとは思っていなかった。工業製品的なピカピカの吹き流しはほとんどない。かつてはそういう時期もあったらしいが、仙台市民、えらく頑張ってつくっているなあ、というのが実感なのである。祭りとなると男の血が騒ぐ、のではなくて、ユニット折り紙1200枚達成の血が騒ぐというのなかなかよい。

そもそも七夕は、個人やせいぜい家族という小単位で行なう行事で、共同体の祭りではないのだろう。静謐な宵の夏風という雰囲気は、七夕行事に共通するものである。長野県松本市の七夕にも同じたたずまいがある。この七夕の特徴は紙衣の飾り方にある。木や紙でつくった人形にそれを着せて、軒に下

げる。雰囲気を実感するには、市郊外にある重要文化財の旧家・馬場家に行くといよい。七夕前後に、土地に伝わる民俗と江戸期の文献から復元されたものを合わせた飾りを見ることができる。軒につるされた小さな人形や紙の着物などを見ながら、縁側に座って風に吹かれるのは心地よい。蚊取り線香のコマーシャルみたいなシチュエーションと言ってしまうそうだが、日本の夏である。

七夕の紙人形では、山梨県の笛吹川流域に伝わる「オルスイさん」も興味深い。人形と投網、または御幣を一緒にしたような造形もよいが、それ以上に、この人形に関する言い伝えが変わっている。七夕が終わると、笹竹から外した人形を紙に包み、「七夕様」等と書いて、蔵の鴨居に打ちつける。これが、盗難除けになるというのだ。留守番をしてくれるので「オルスイさん」なのである。研究者によると、他にはあまり見られない習俗とのことだ。

というわけで、山梨では行事のあとにも飾りを再利用(?)するのだが、仙台ではあの膨大な飾り、いったいどうしているのだろう。凝った折り紙作品は、欲しいというひとがいるかもしれないが、分けていたりするのだろうか。わたしも、昨年、一番町と広瀬通の交差点にあった吹き流しの天辺にあった折鶴、板でしっかり造りこんで金紙を貼った1メートル余りの巨大折鶴がちょっと欲しかった。どうするんだと言われると、われながら、どうするんでしょうねと答えるしかないのだが。

主な参考文献

『七夕の紙衣と人形』(ナカニシヤ出版 石沢誠司著)
『七夕と人形』(郷土出版社 松本市立博物館編)
『七夕文化』(ウェブサイト: www.geocities.jp/seijishizawa/ 七夕文化研究会)



仙台七夕飾りの七つ道具：(短冊)、くずかご、巾着、吹き流し、紙衣、折鶴、七夕線香、投網
Seven items of Tanabata Decoration in Sendai : (paper strips), trash basket, wallet, streamer, kimono, cranes, incense sticks, and casting net

■一瞬たりとも外出したくない(笑) 季節が到来しましたが、熱気には熱気で対抗!

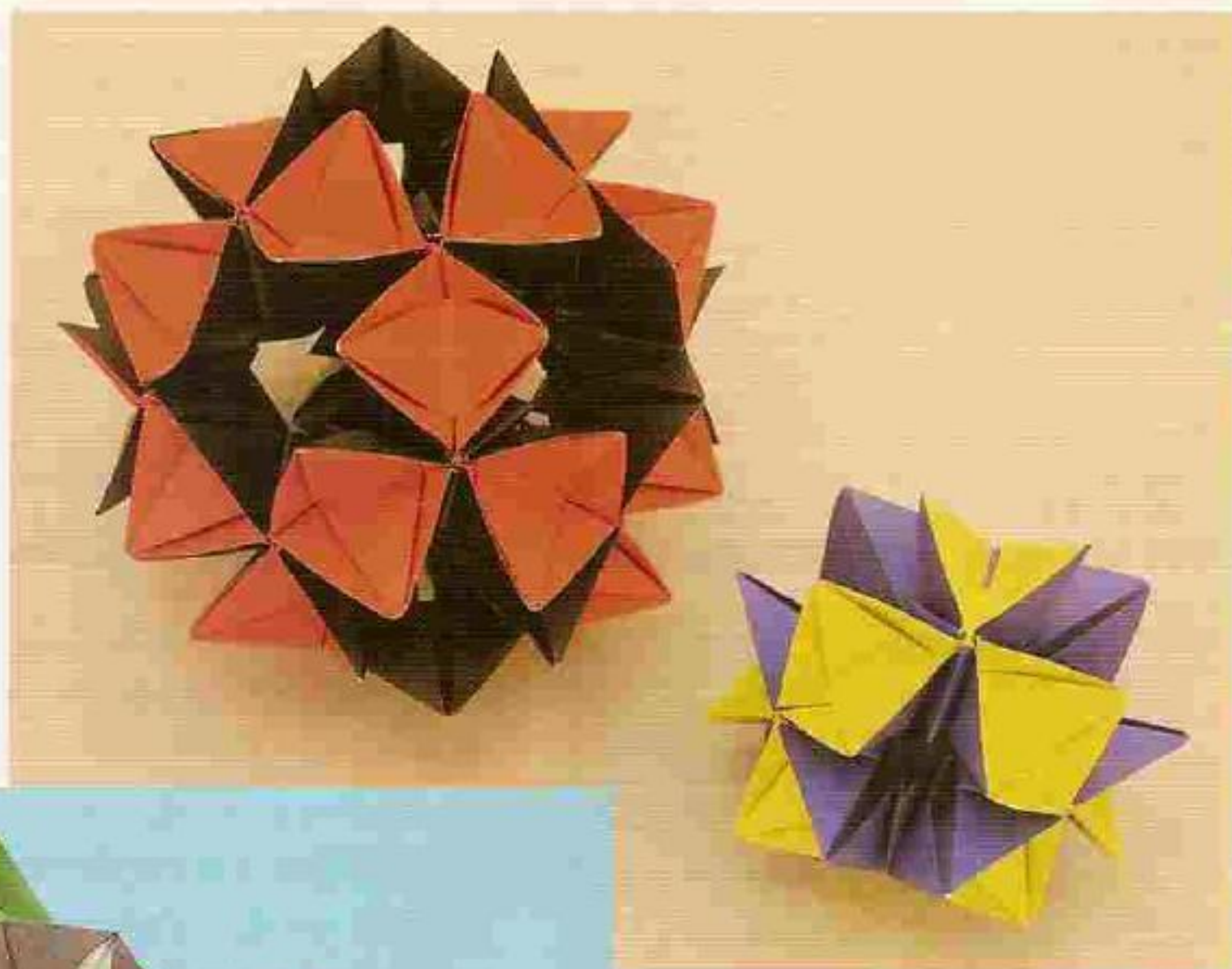
日頃蓄積されたストレスを新作にぶつけて持ち寄ったり、思う存分講習参加できるイベントはもうすぐです

「アブリード(黒:30枚組、青:12枚組)」

作：川村みゆき(P.4)

A BROOD (Black: 30 sheets, Blue: 12 sheets):
Kawamura Miyuki (P.4)

■通常は見えない、内側に格納された「なにか」が突然、目の前にあらわれる瞬間の驚き。対称性の高いユニット作品は常に、「非常に幾何学的印象が強い」ものとなるはずですが、本作を見ていると「ここからなにかが発生する」ような、どこから生物学的なイメージが湧き起こってきます。



「立体のアサガオとその応用の花」

作：やまぐち真(P.8)

3-D Morning Glory and Other Flowers:
Yamaguchi Makoto (P.8)

■五角星ではないのにかえて朝顔らしさが強調されているような気がする、この不思議な感覚。原色に近いリアルな色遣いもよし、ちょっと古びた写真のような色調でまとめても渋い魅力があふれます。たくさん集めて応用もききますよ。

「ウデムシ」作：勝田恭平(P.34)

Whip Spider: Katsuta Kyohei (P.34)

■細長いカドが多数折り出されていることにまず驚嘆しますが、本作の魅力の大きな部分は、各部の繊細な仕上げに作者の探求心や執念がにじみ出ているところにあるのかもしれませんが。それにしても、こんな形のイキモノが存在するとは…。コンプレックス作品のネタはまだまだ尽きないようです。



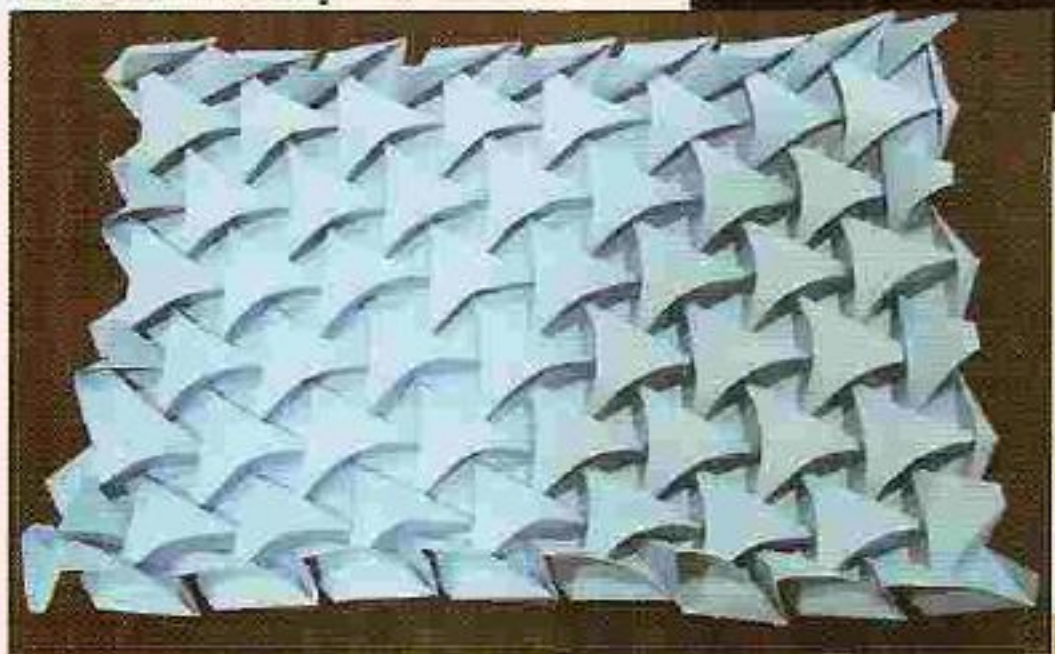
2006 OrigamiUSAコンベンション展示作品より
Selected Exhibits from the OrigamiUSA Convention 2006

■6月末に開催された恒例の折り紙イベントから、要注目作品をピックアップ。



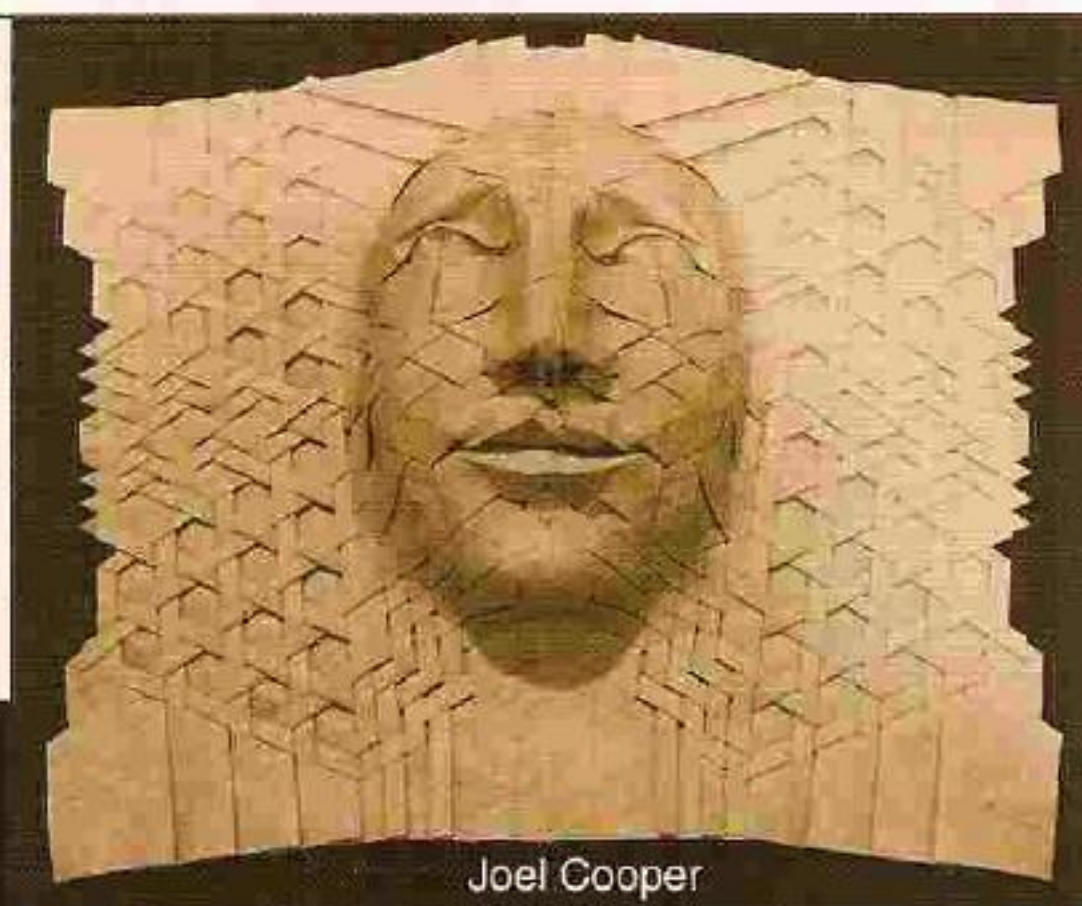
Jason Ku

Jeannine Mosely



Michael LaFosse

Chris Alexander



Joel Cooper

Giang Dinh



Brian Chan



Marc Kirschenbaum

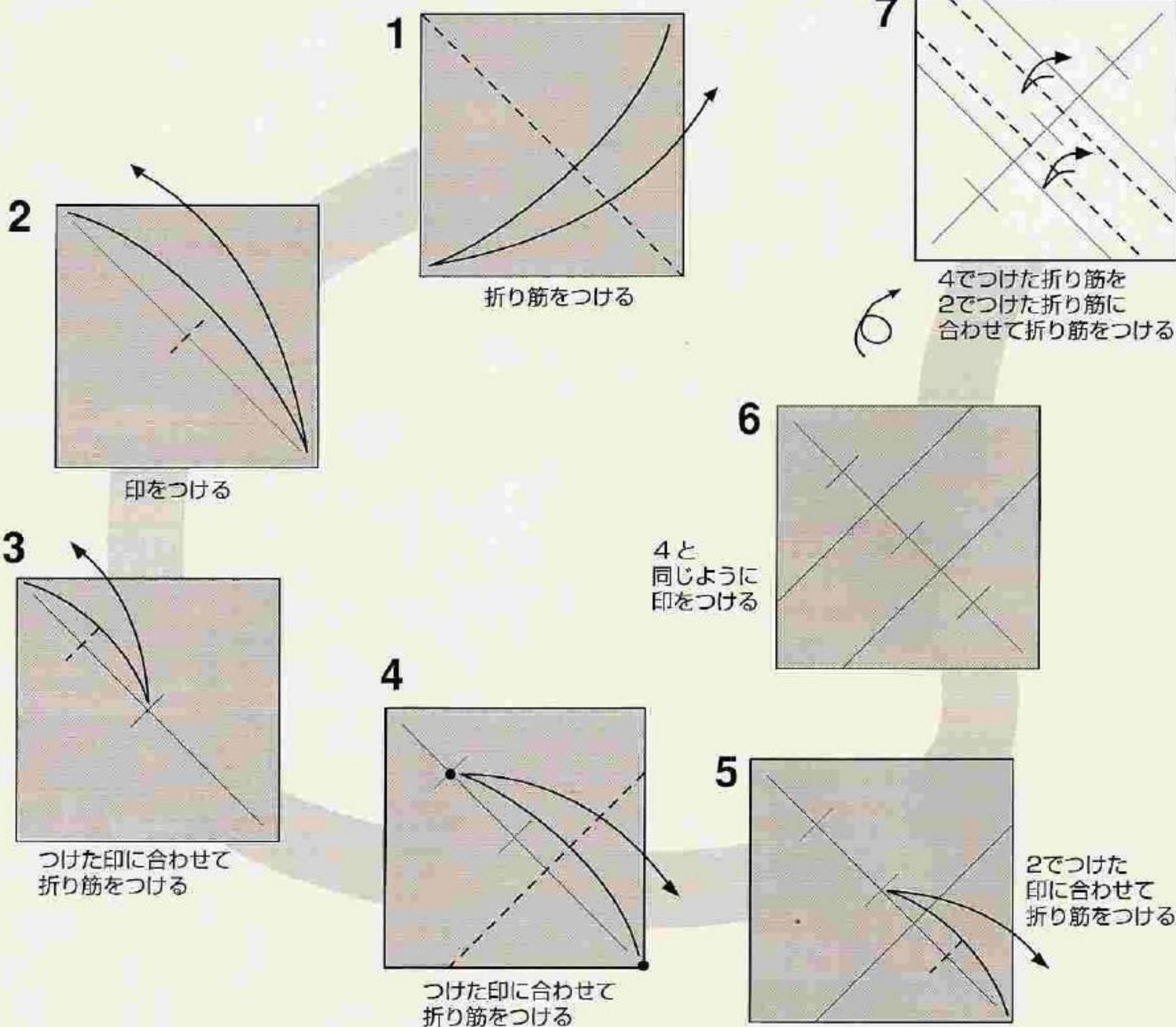
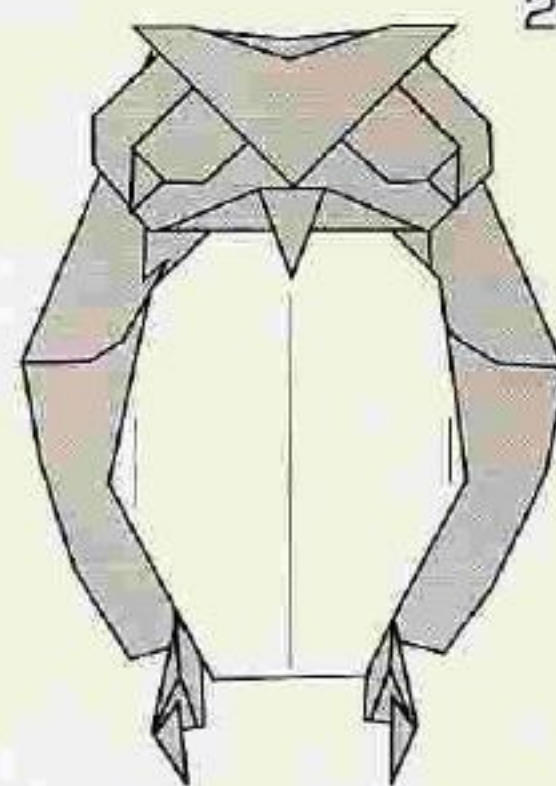
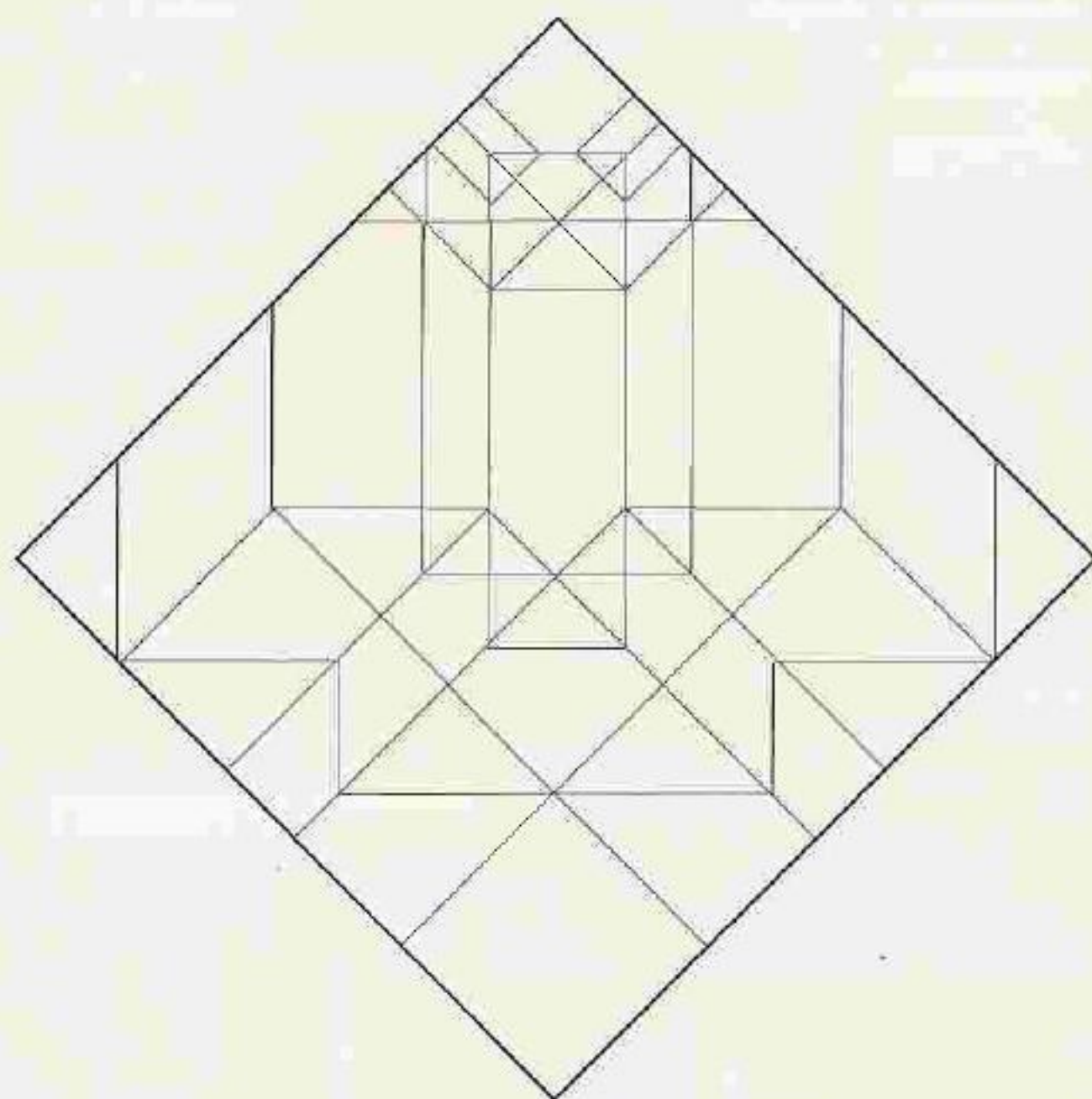


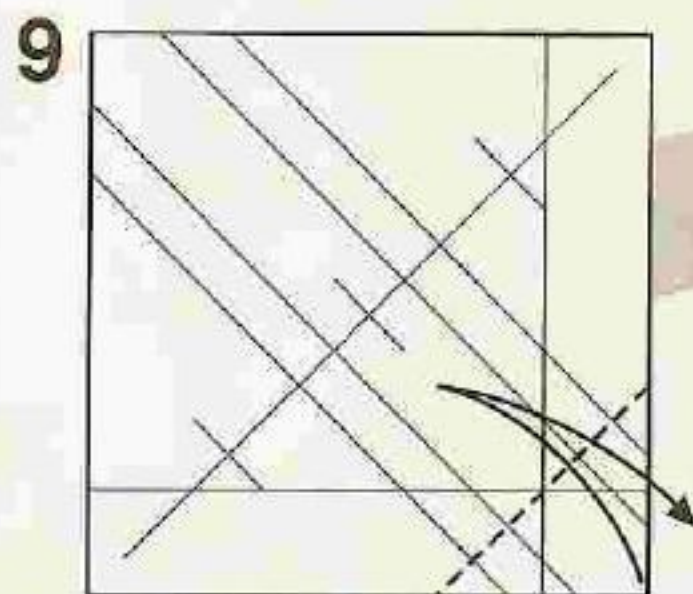
Scops Owl コノハズク

Designed by Tsuda Yoshio

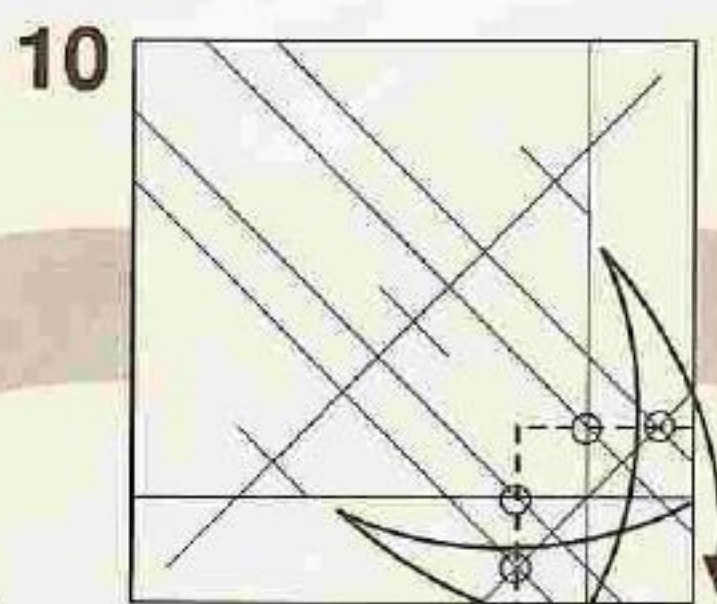
作 津田良夫

2006/3/24

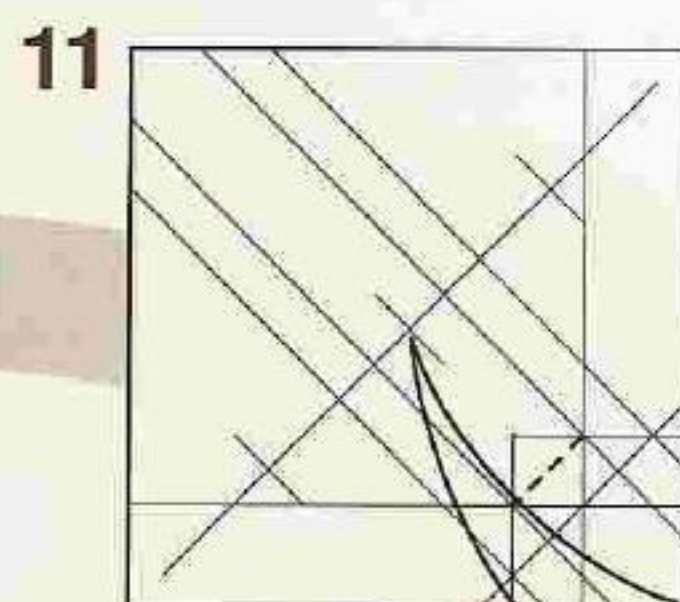




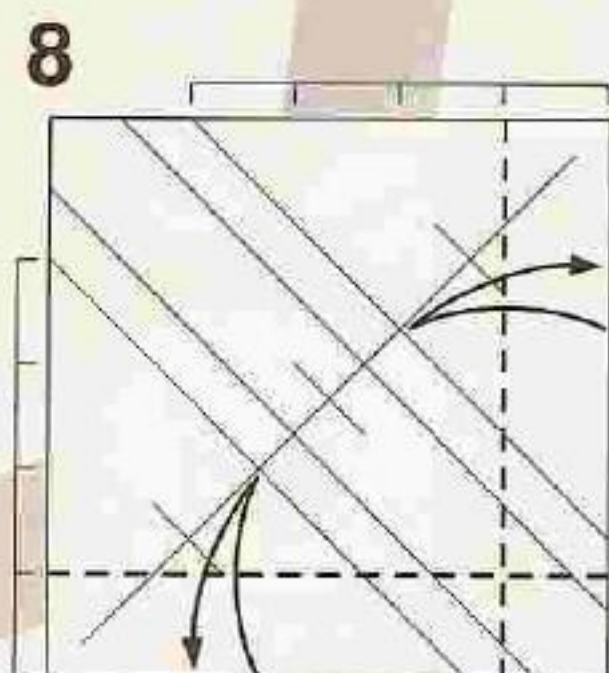
折り筋をつける



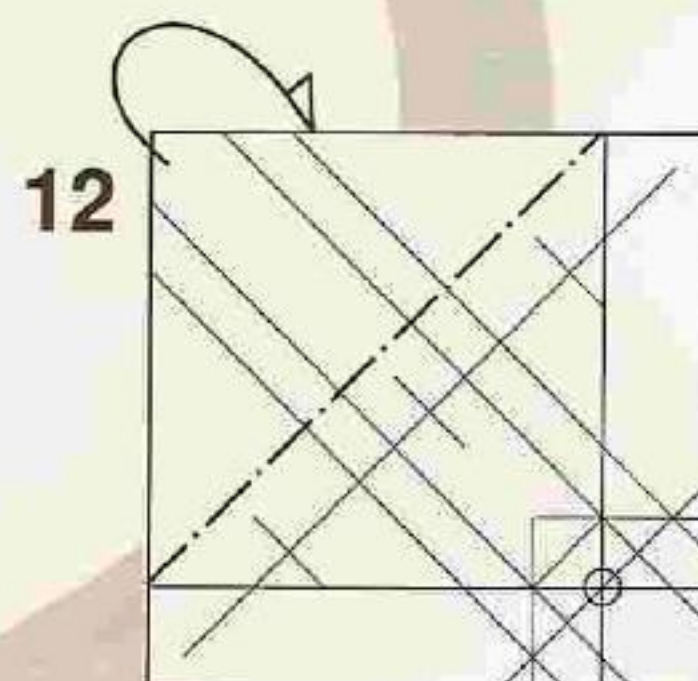
○と○の交点を結ぶ線で
折り筋をつける



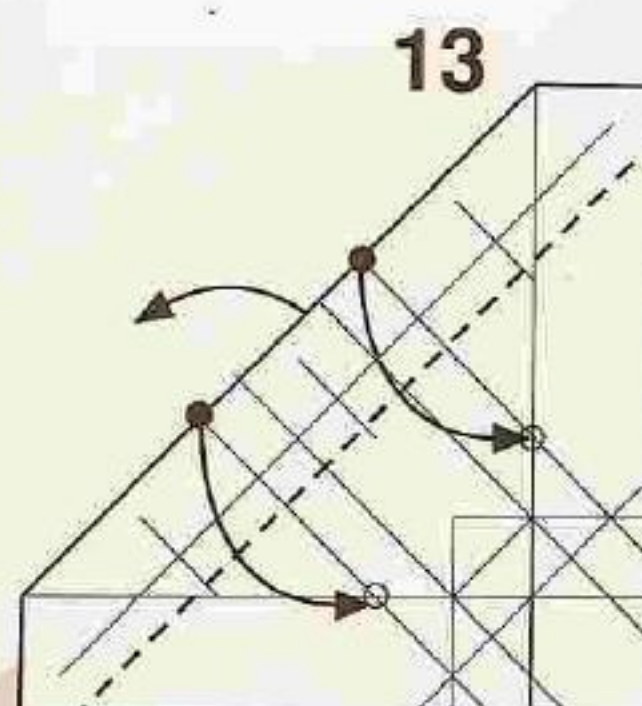
中心に合わせて
折り筋をつける



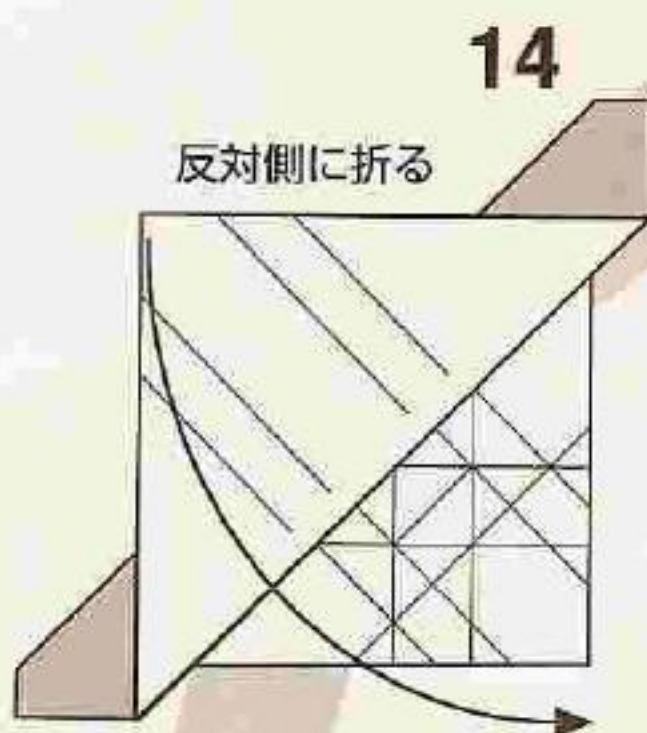
1/4の幅で折り筋をつける



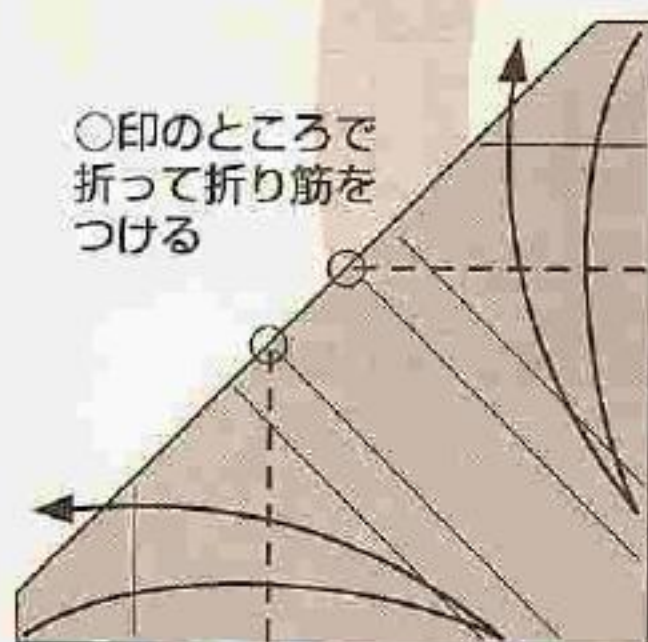
カドを○印の後ろに
合わせて折る



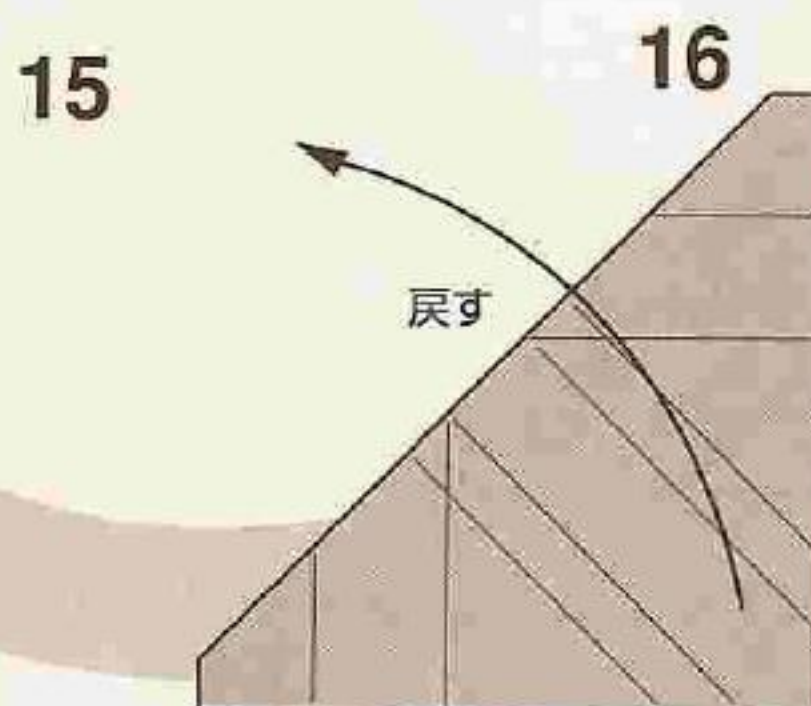
下のカドを上に出すようにして
●の縁を○に合わせて折る



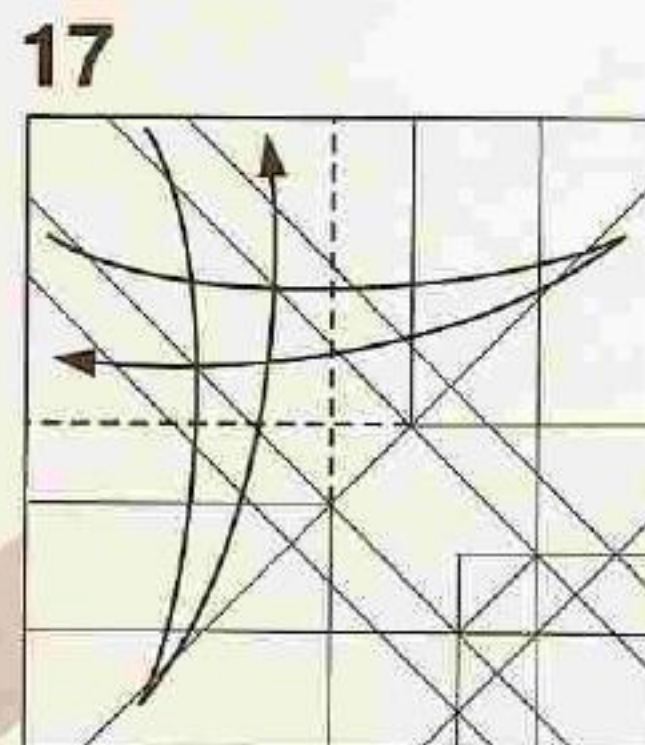
反対側に折る



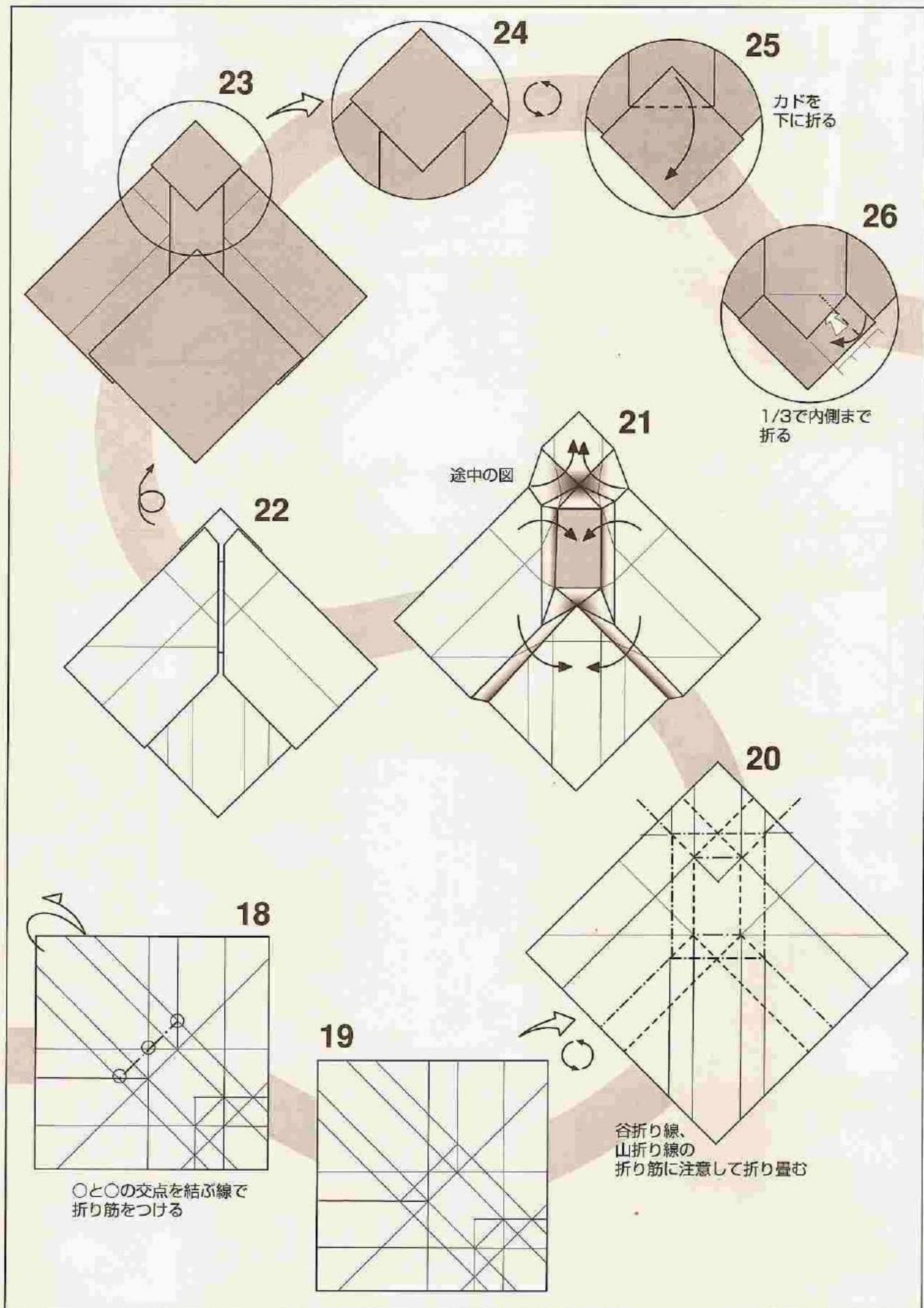
○印のところで
折って折り筋を
つける



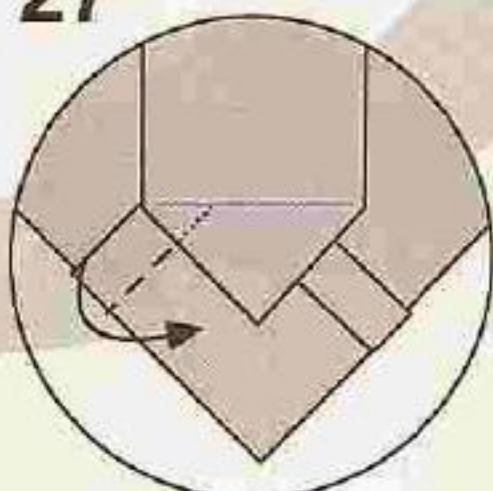
戻す



15でつけた折り筋を延長する
ように折り筋をつける

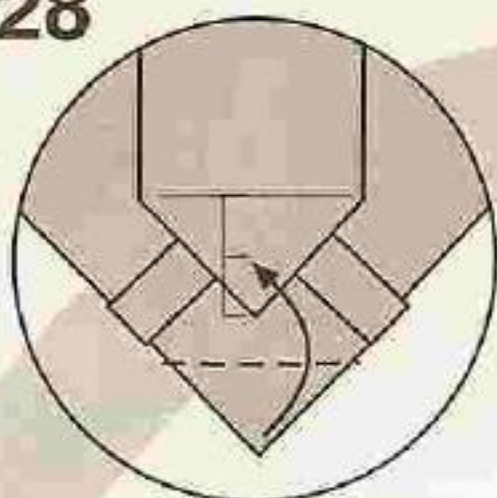


27

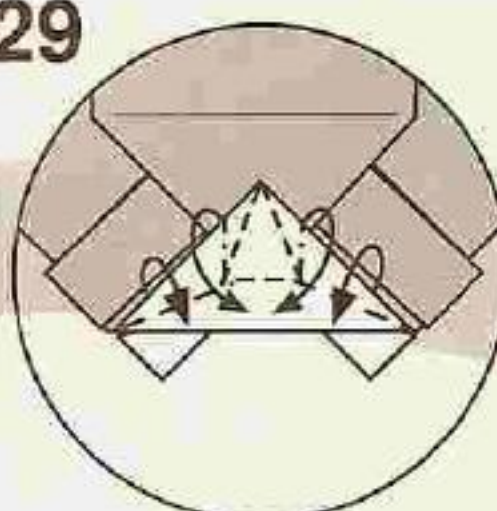


左側も同じに折る

28

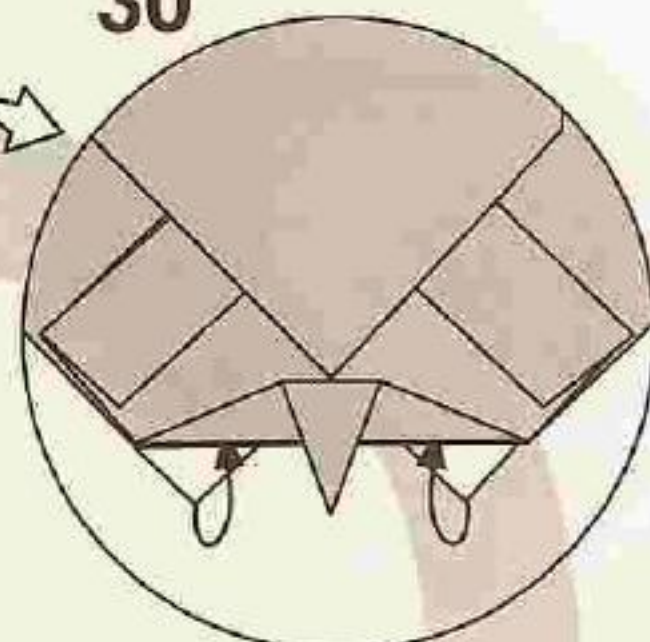
カドを1/2の
ところに
合わせて折る

29

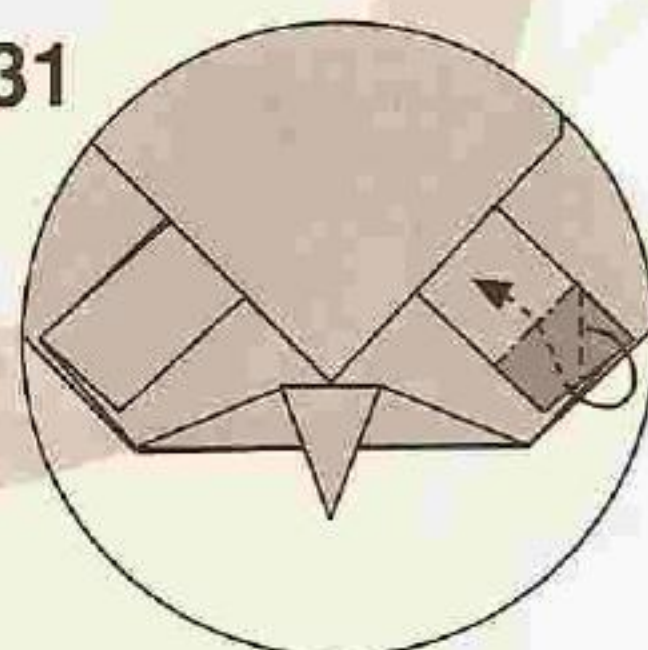


引き寄せるように折る

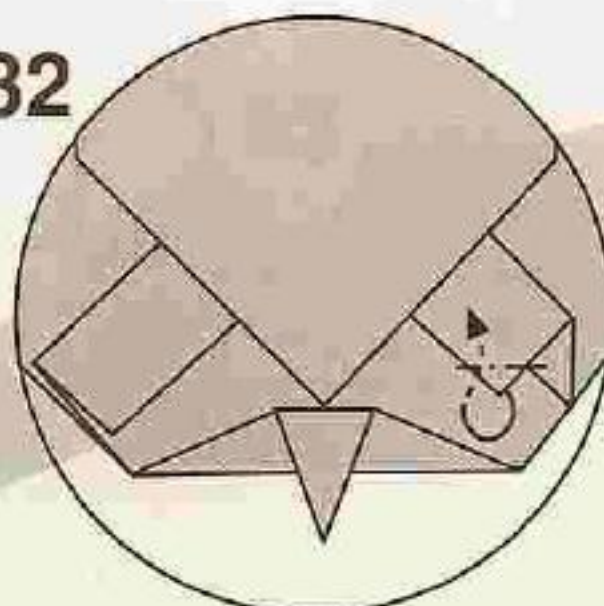
30

内側の線で白い部分を
中に折り込む

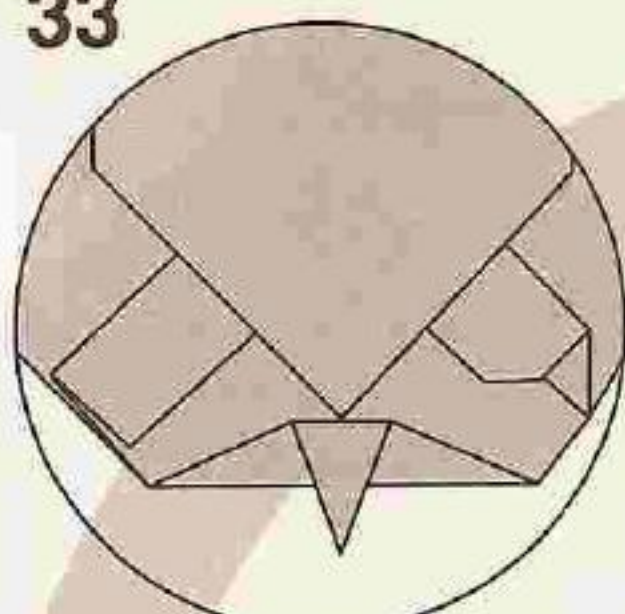
31

■の部分の内側に
折り込む

32

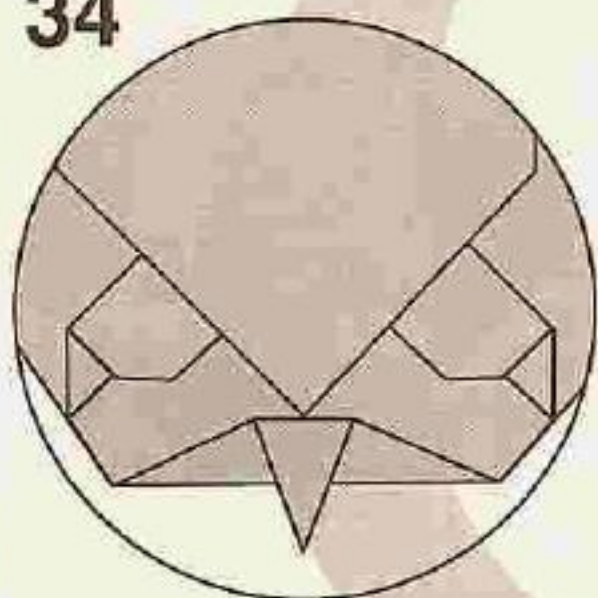
カドを内側に
折り込む

33

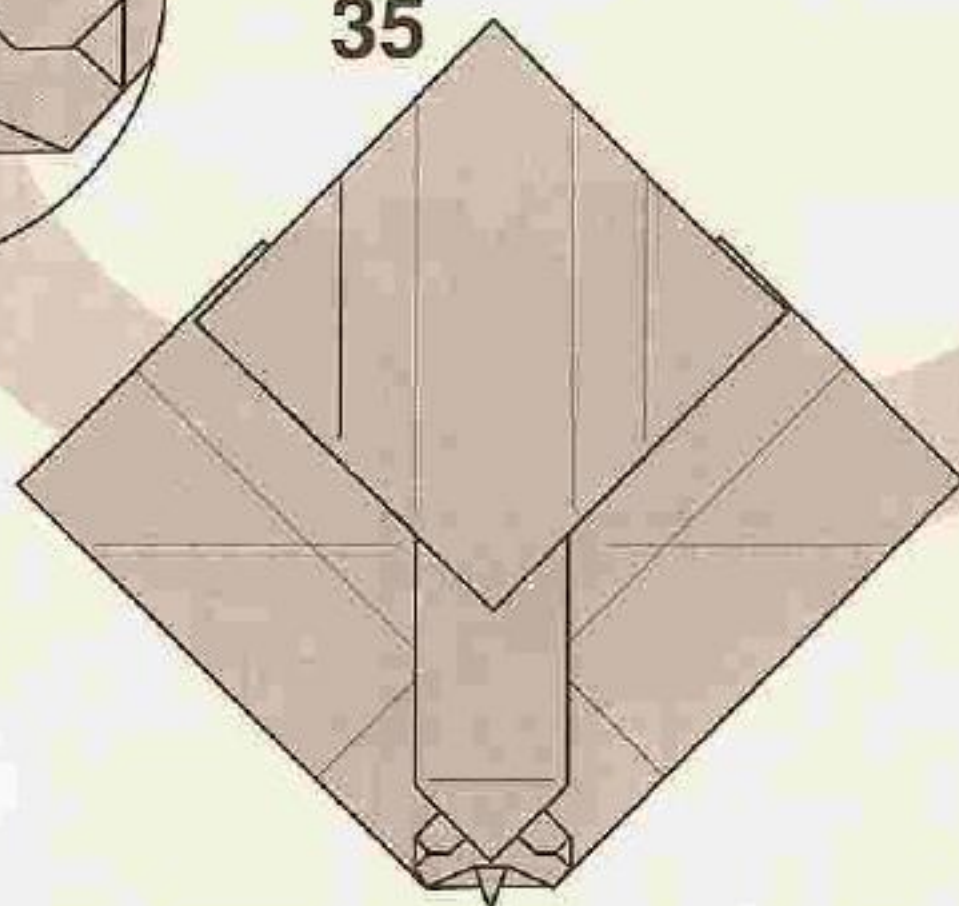


反対側も同じ

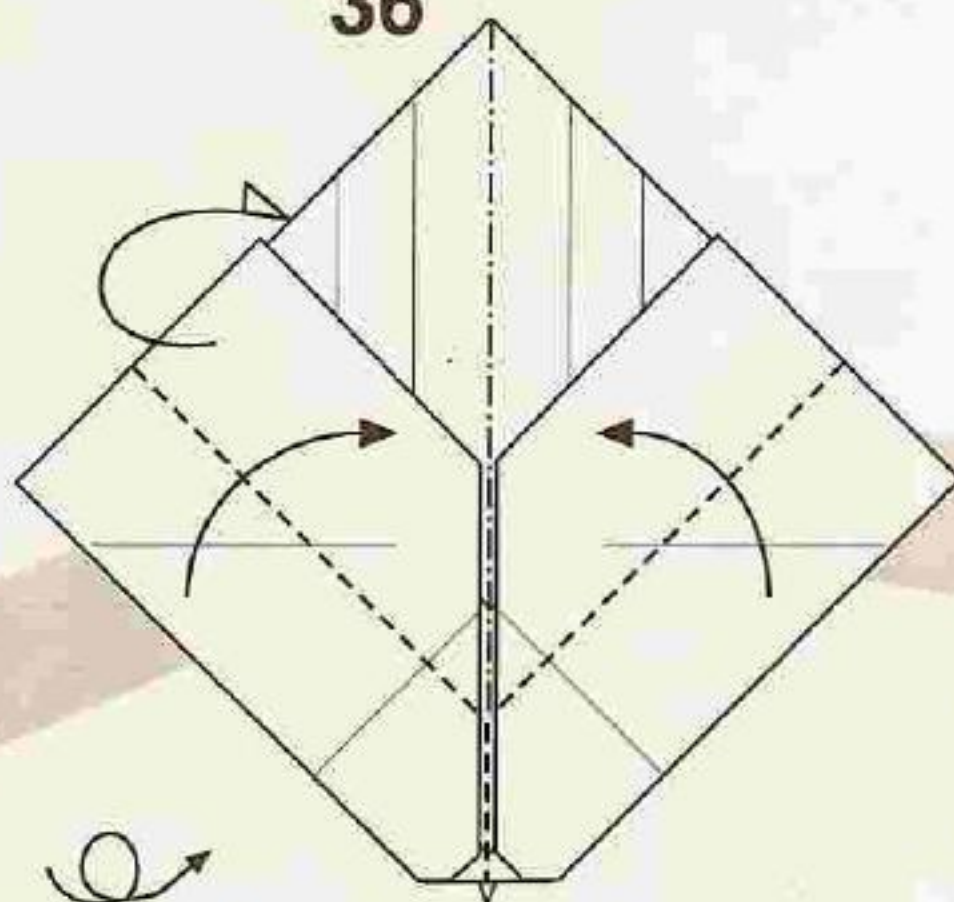
34

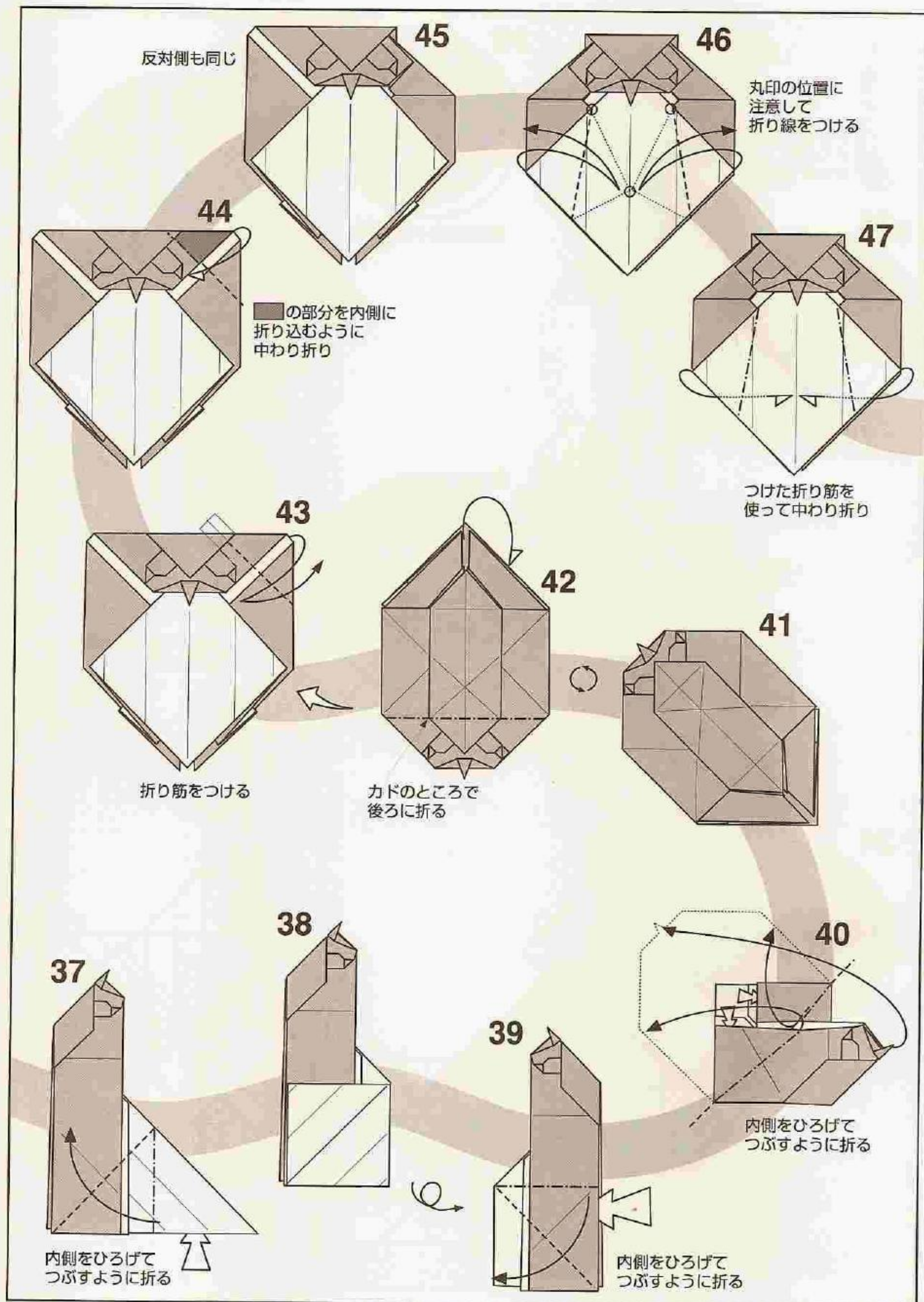


35

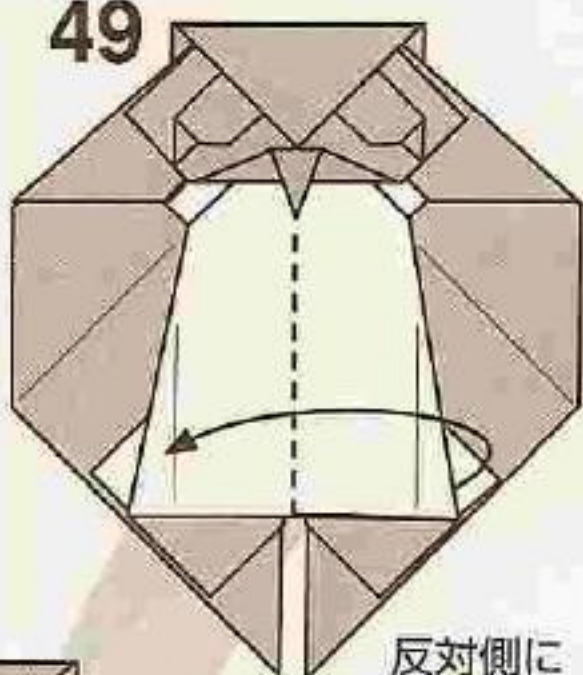


36

谷折り、山折りに注意して
折り畳む

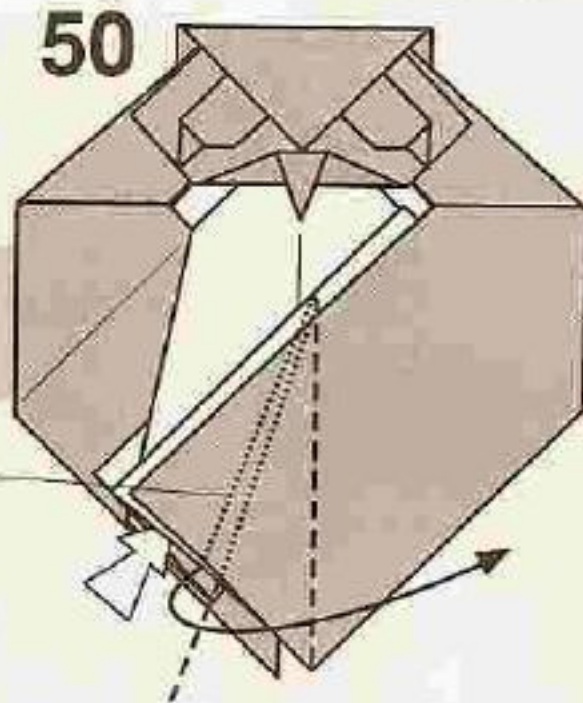


49



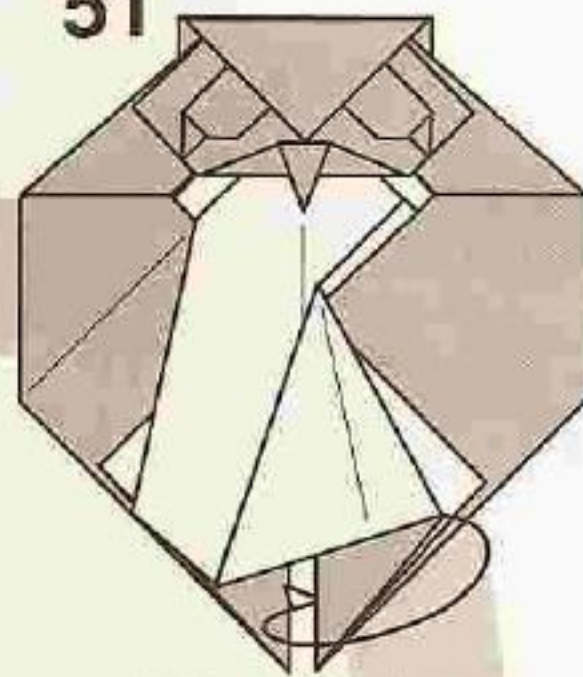
反対側に
折る

50



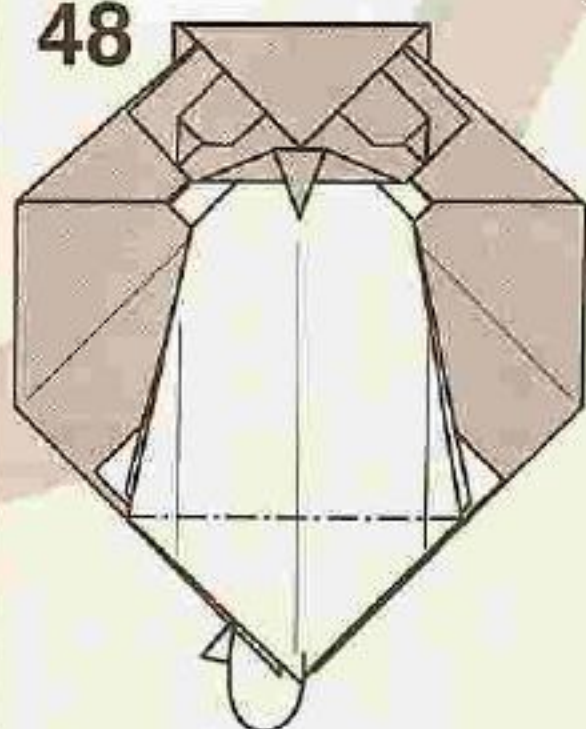
内側をひろげて
つぶすように折る

51



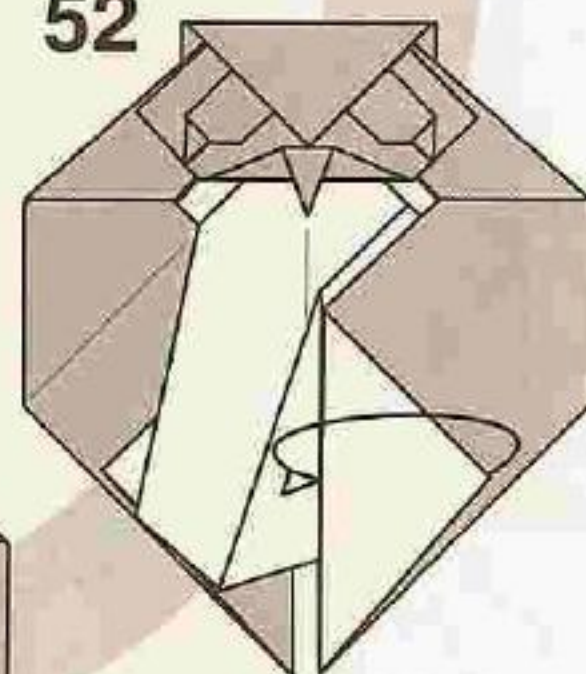
山折りを谷折りに
折り直すようにして
カドを後ろへ折り込む

48



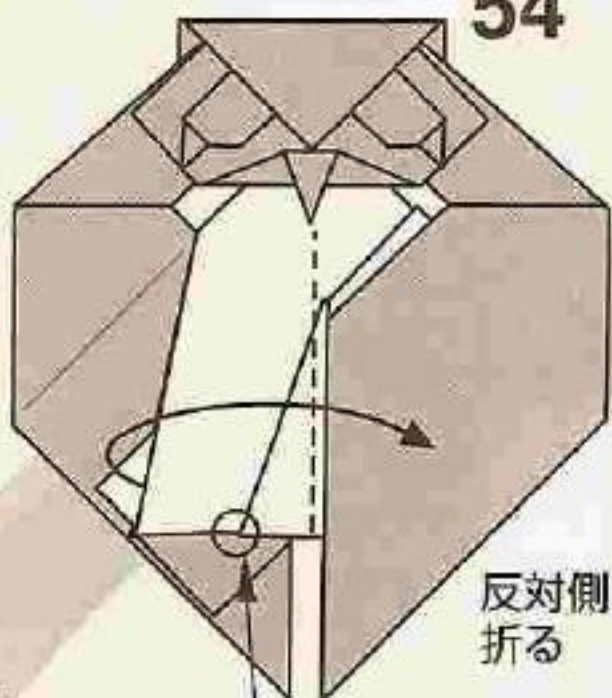
47で折ったカドを
包むように折る

52



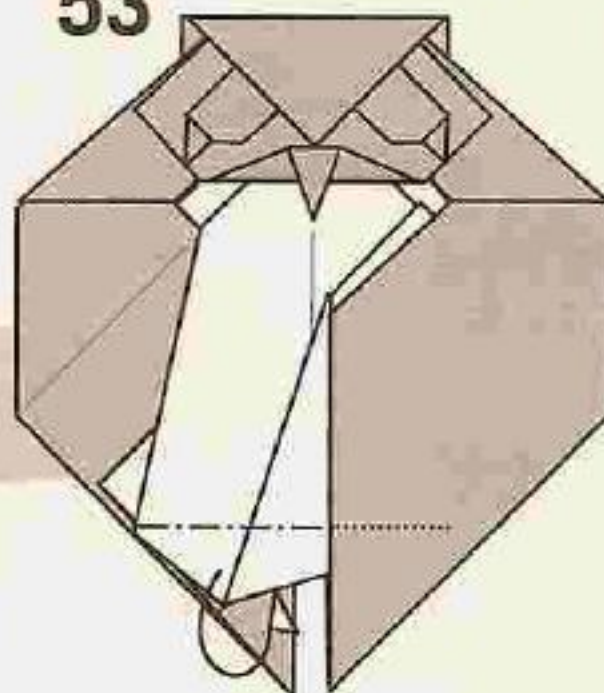
山折りを谷折りに
折り直すようにして
後ろに折る

54



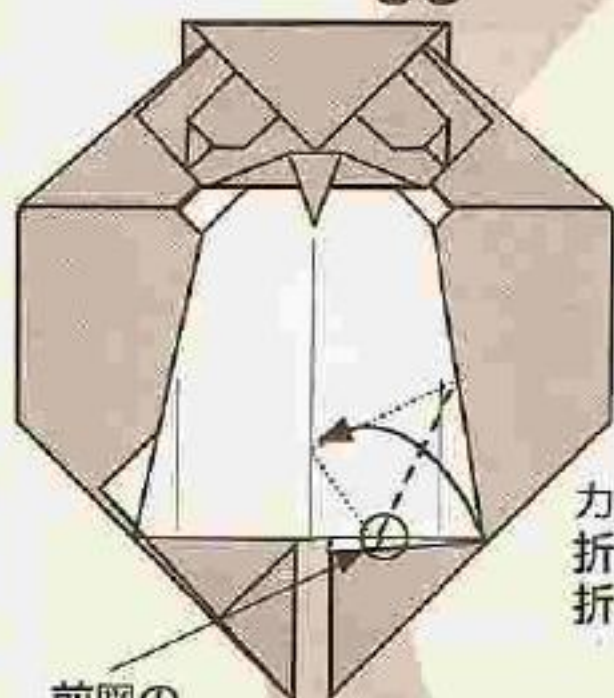
反対側に
折る

53



内側に折る

55

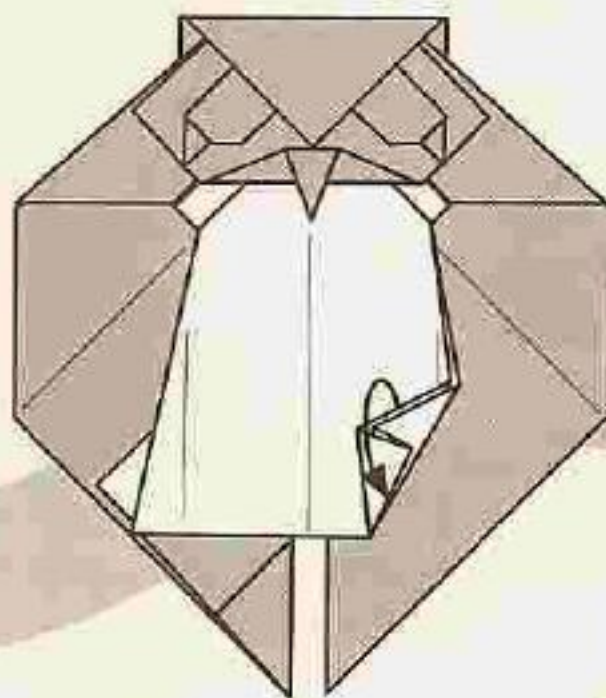


カドを中心の
折り筋に合わせて
折る

前図の
○の位置

次の図の
位置に注意

57



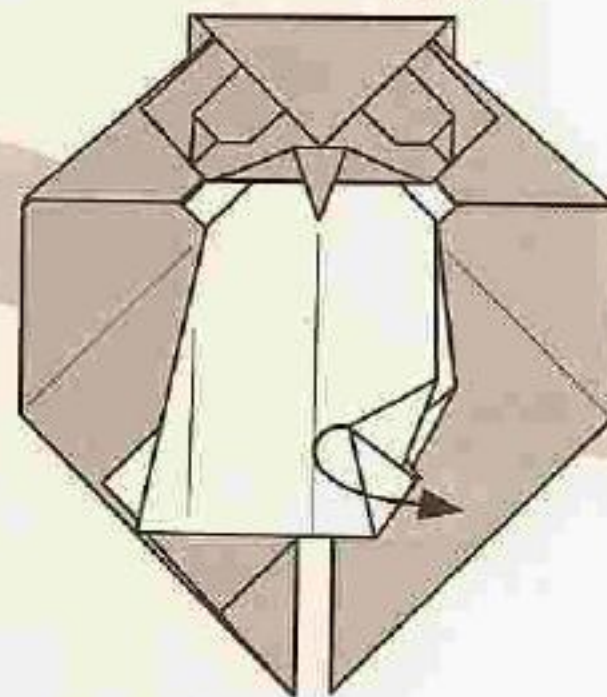
重なっている
下の部分が
上になるように
はがすようにする

56



縁と縁を
合わせて
折る

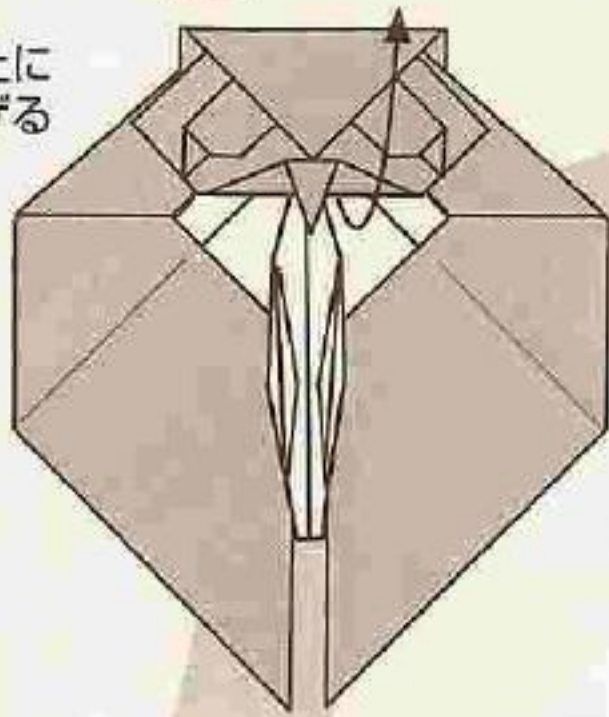
58



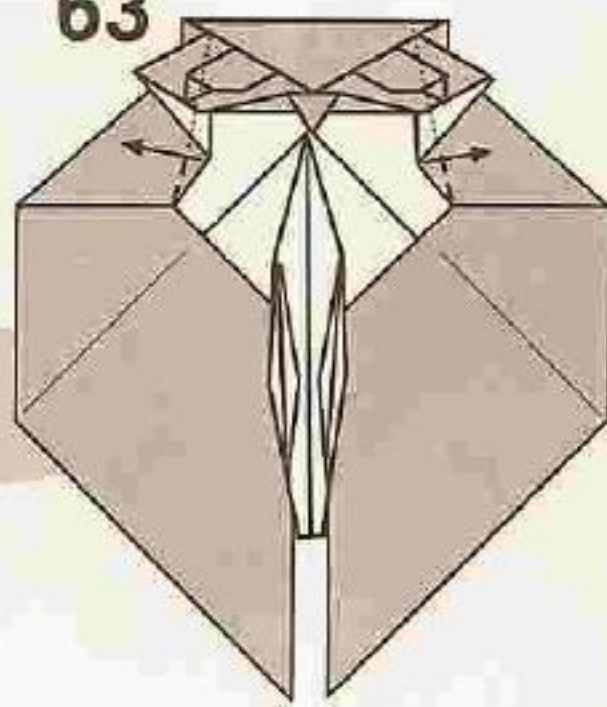
反対側に折る

顔面を上
に持ち上げる

62

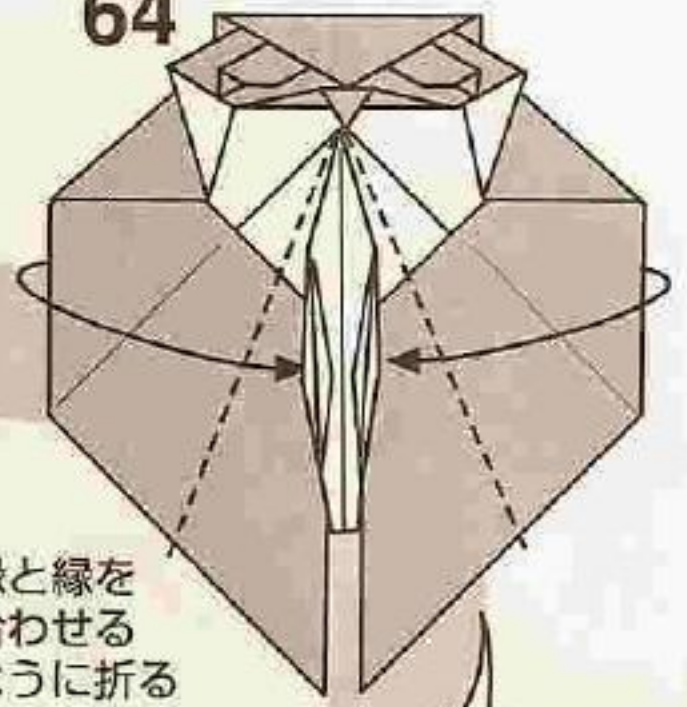


63



左右にかるく
広げる

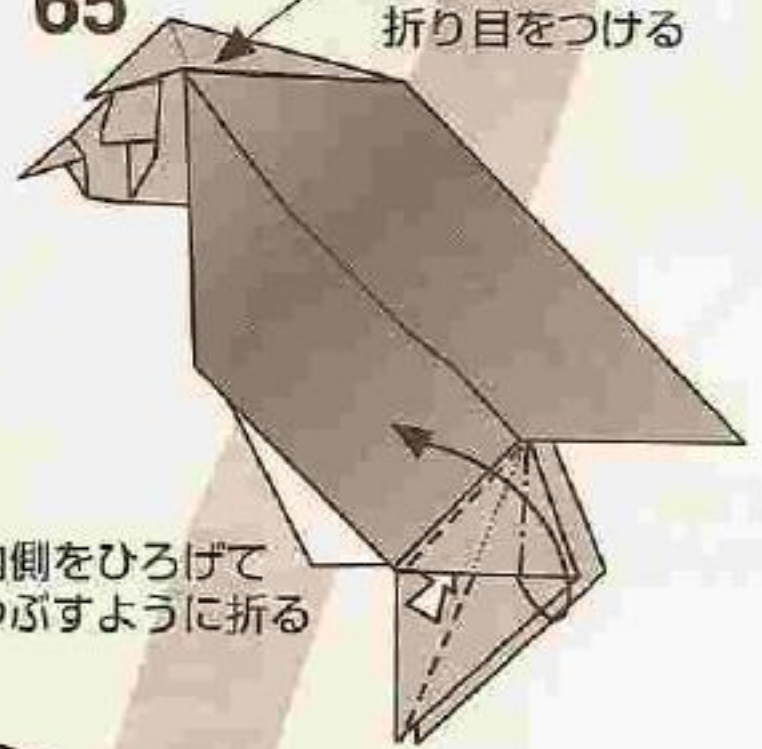
64



縁と縁を
合わせる
ように折る

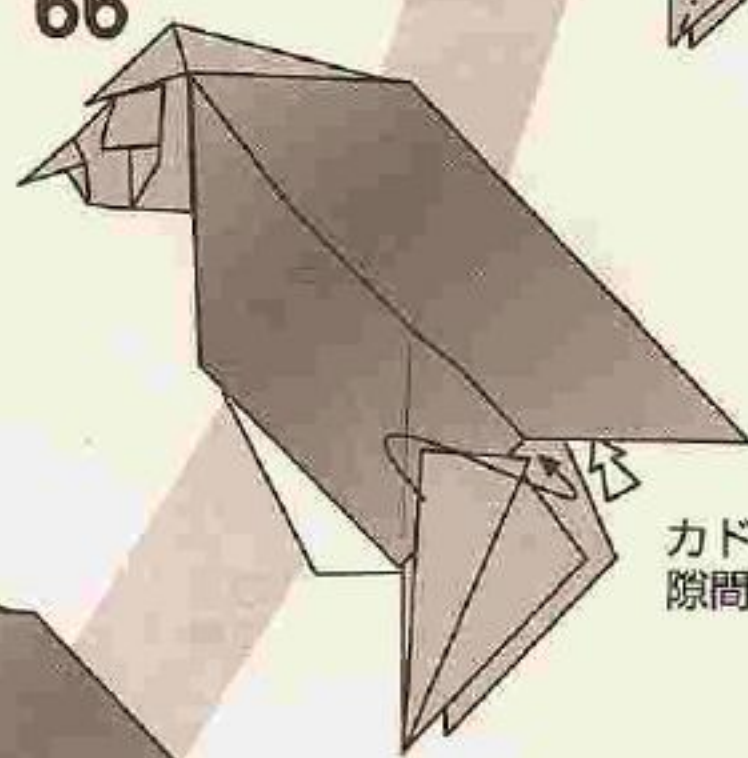
頭の上
部が三角
形にな
るよう
に、折
り目をつ
ける

65



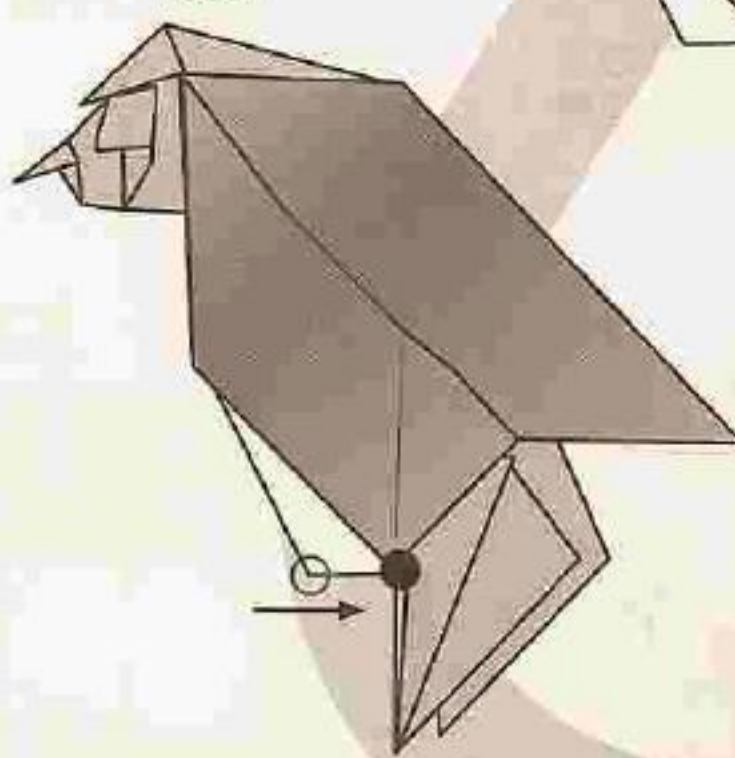
内側をひろ
げてつぶ
すように
折る

66



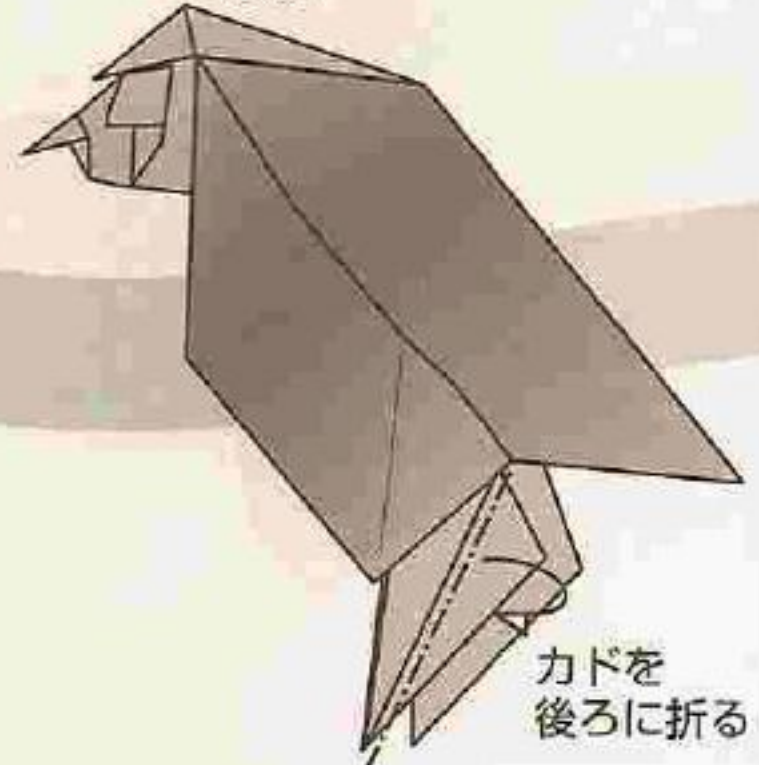
カドを下
にある
隙間に
差し込む

67



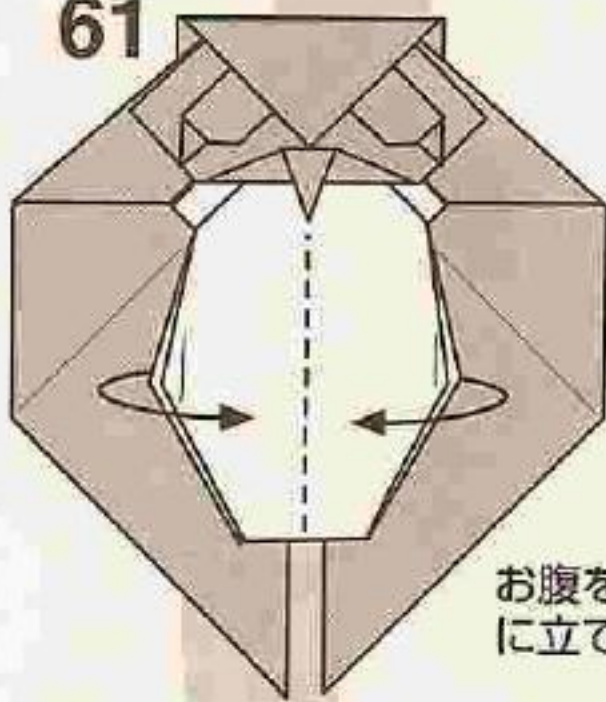
白丸が黒
丸と重
なるよ
うに腹
部をず
らす

68



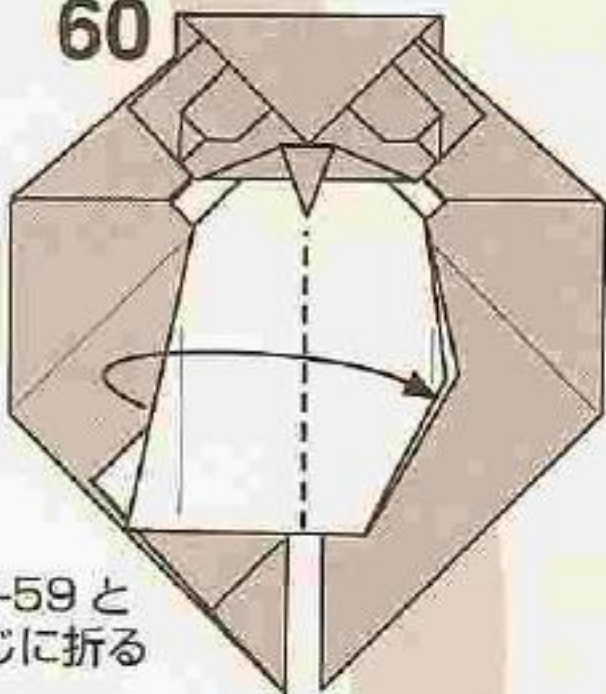
カドを
後ろに
折る

61



お腹を中
央に立
てる

60

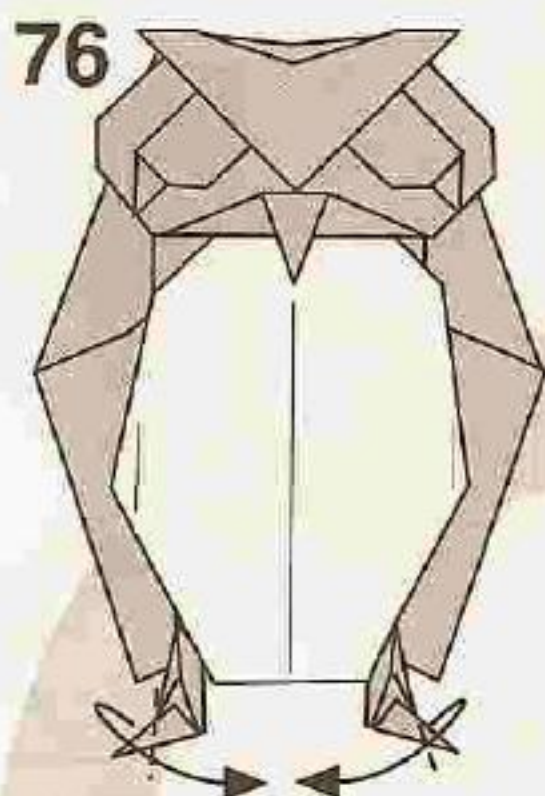


49-59
と同じ
に折る

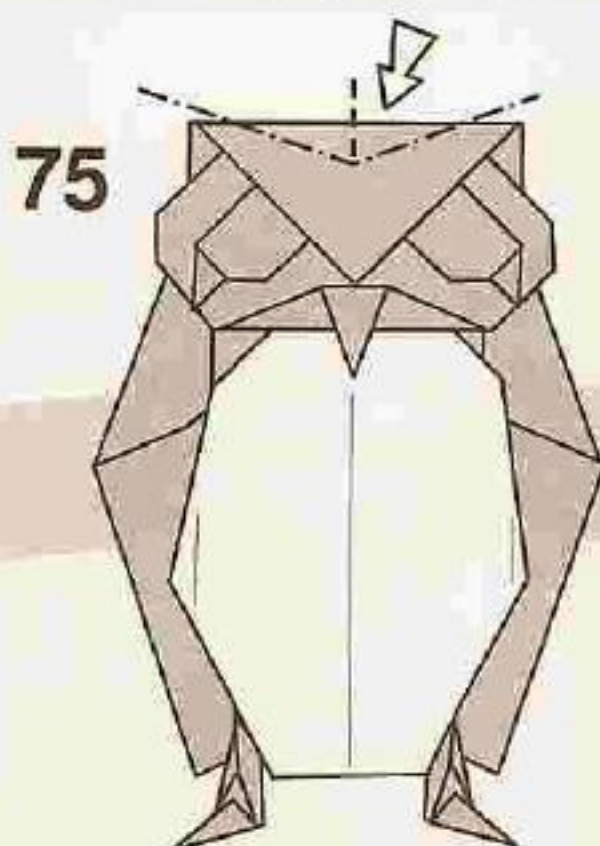
59



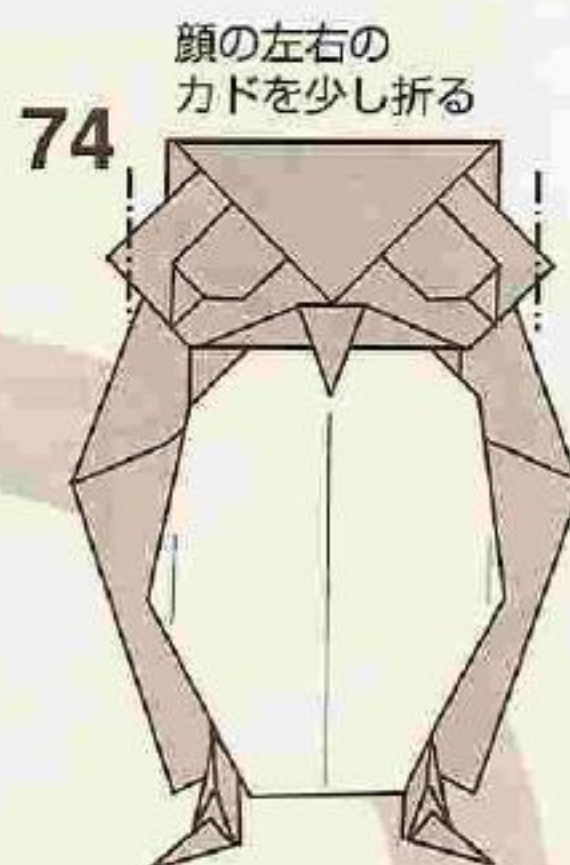
内側に
折り込
む



足の先端を内側にひねるように折る



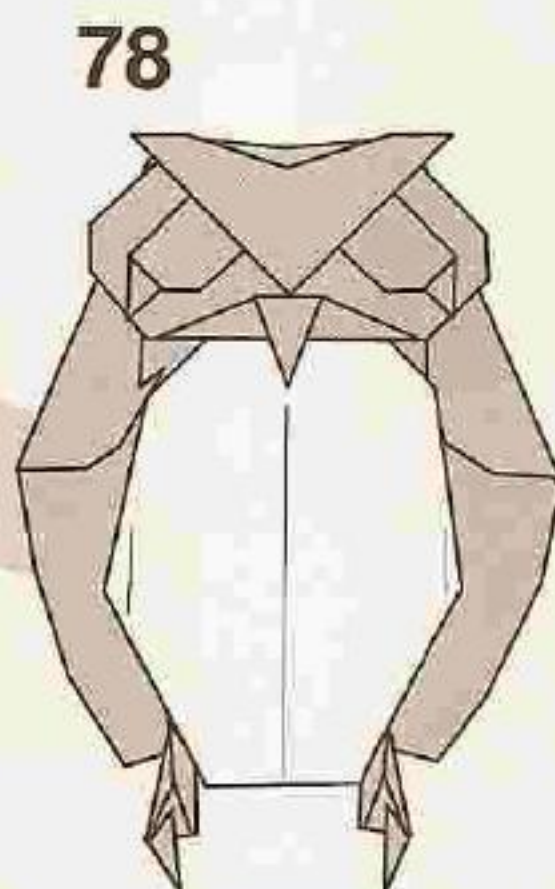
頭の中央をへこませる
ようにして
斜めに山折り線をつける



顔の左右の
カドを少し折る



丸をやや上に上げ
翼の隙間を少しひろげる
ようにして
体に丸みをつける。



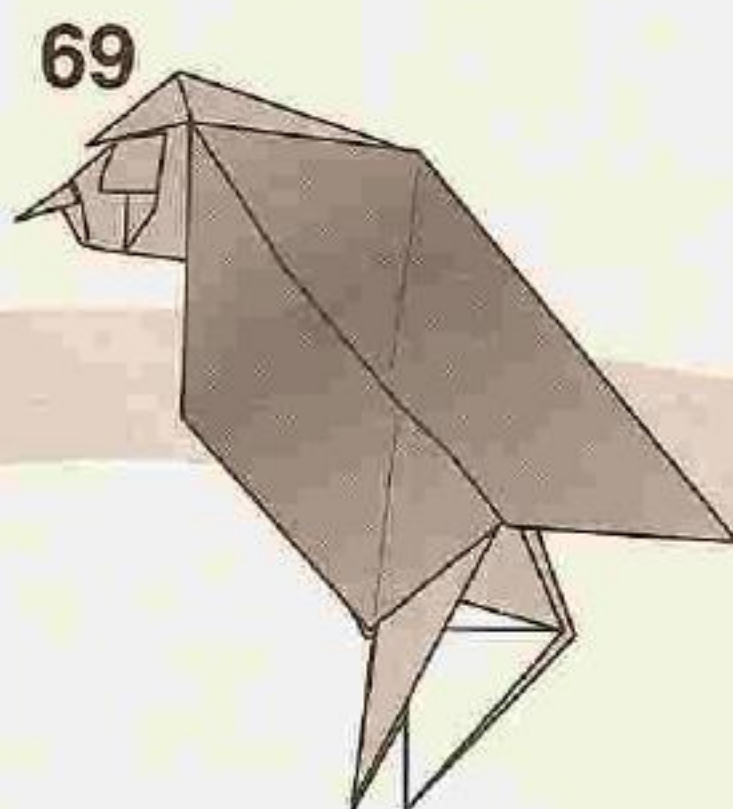
完成



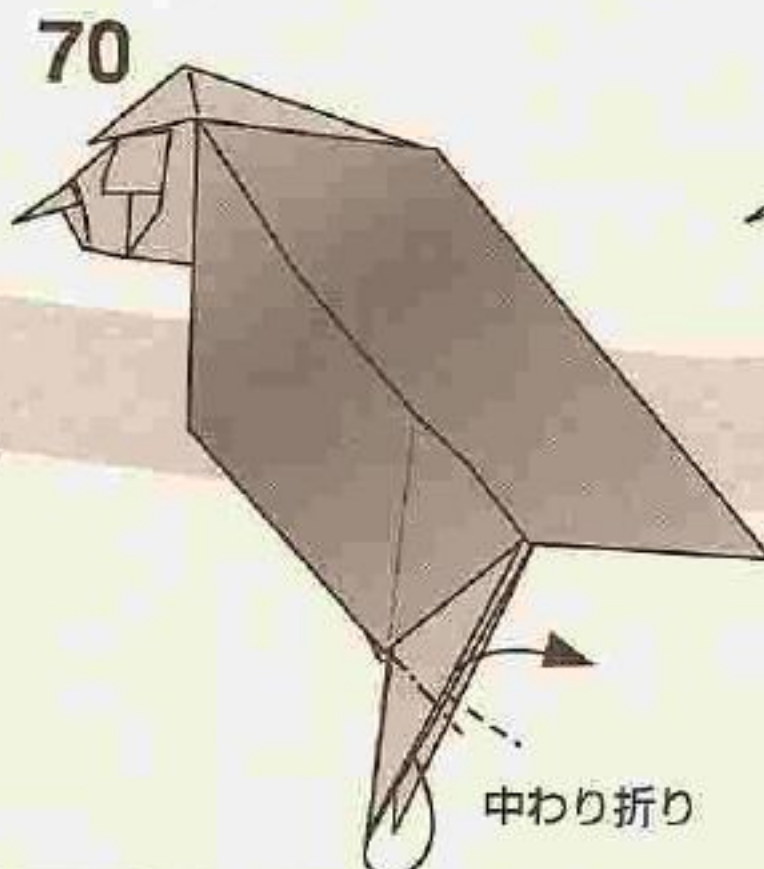
下から指を入れて
背中と尾羽を平ら
にする
腹部も平らにして
体全体をふくらませる



反対側も
同じに折る



反対側も 65-68と
同様に折る



中わり折り



中わり折り

人形

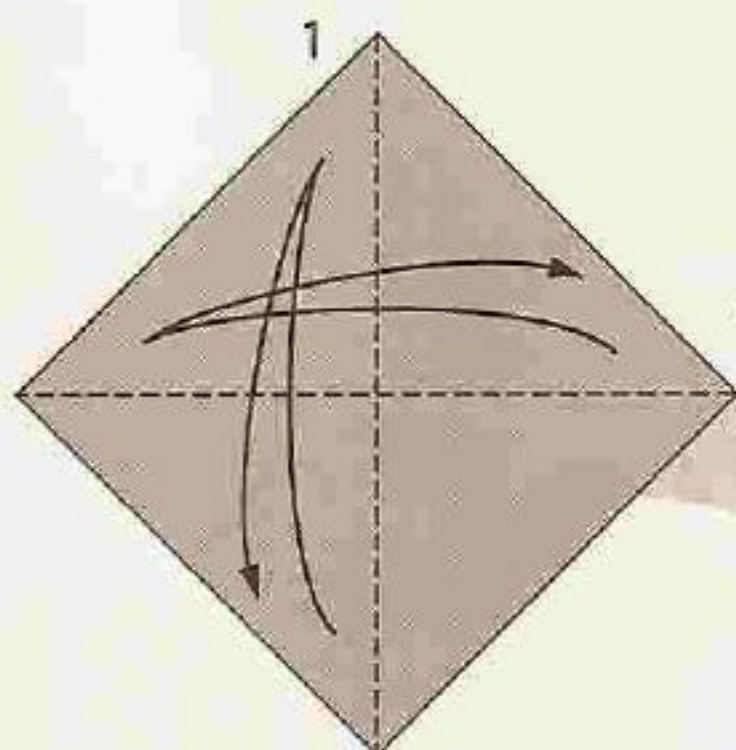
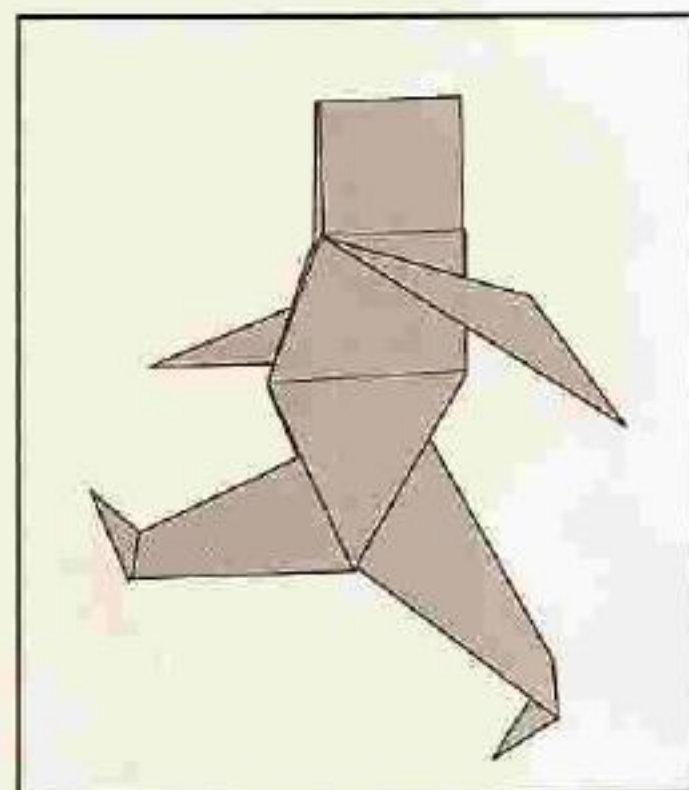
A Human Figure

創作 前川 淳 (1980年頃)

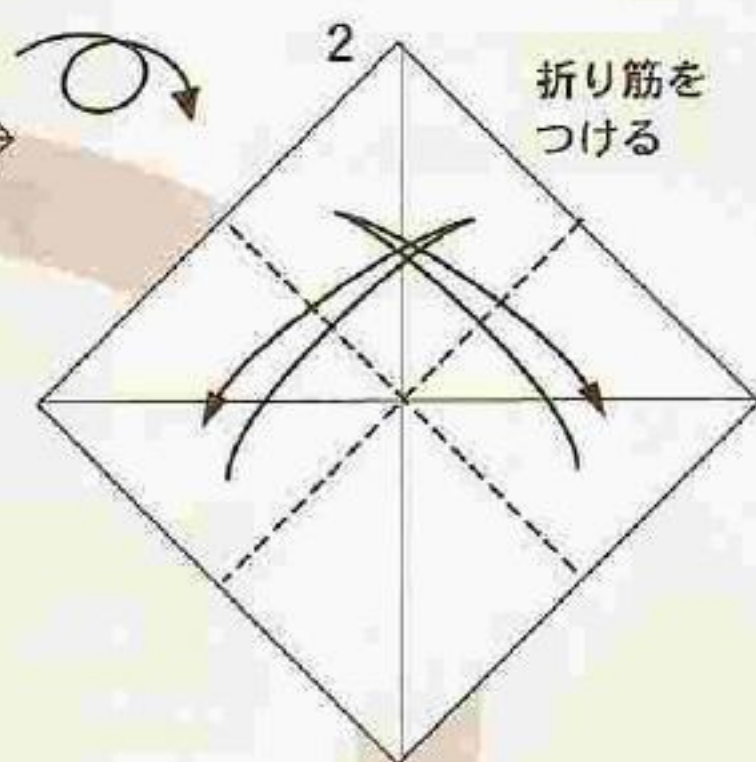
Designed By Maekawa Jun

作図 宮島 登 (2005年9月)

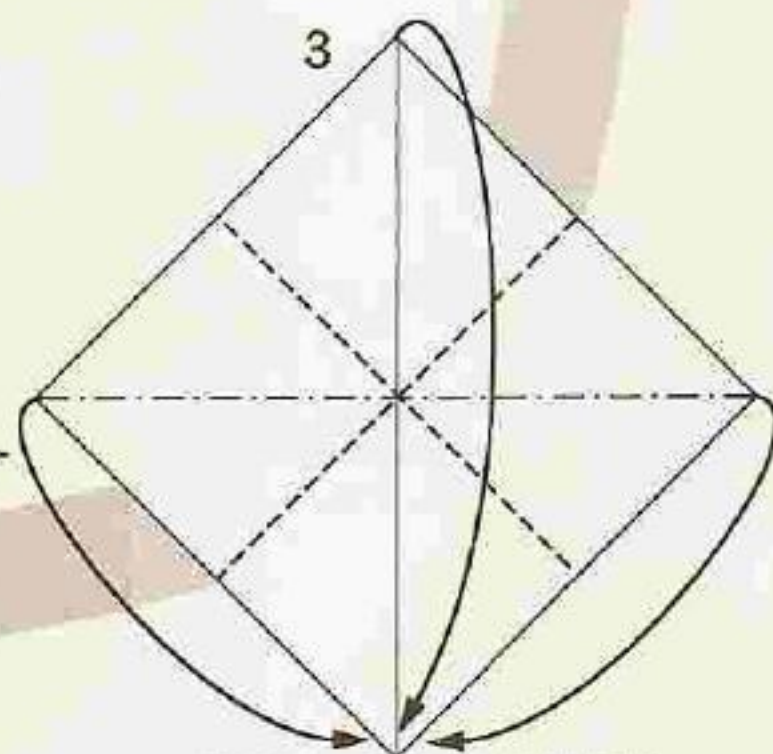
Diagrammed By Miyajima Noboru



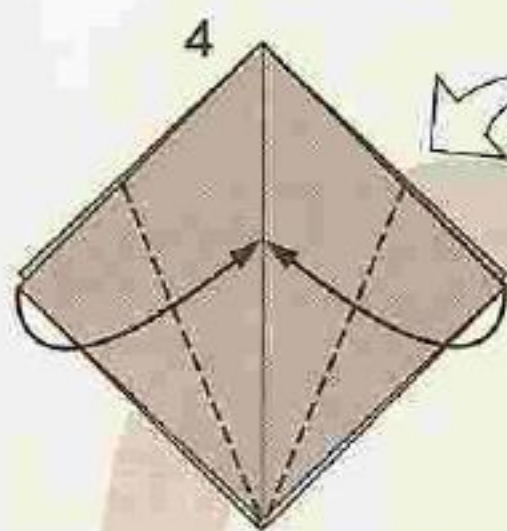
折り筋をつける



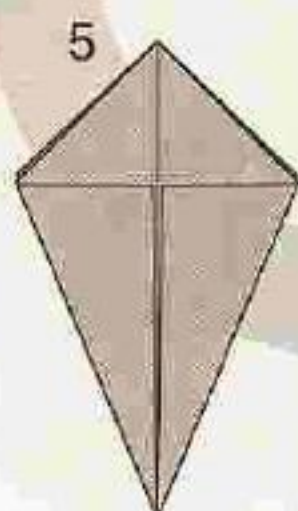
折り筋をつける



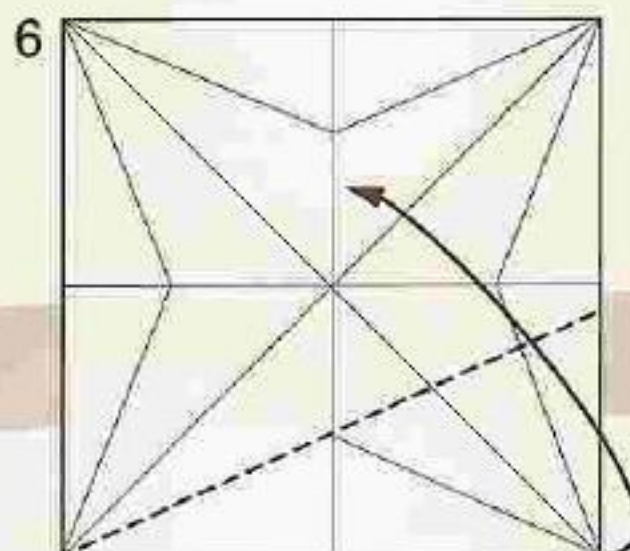
すでについている折り筋を利用して、正方基本形にまとめる



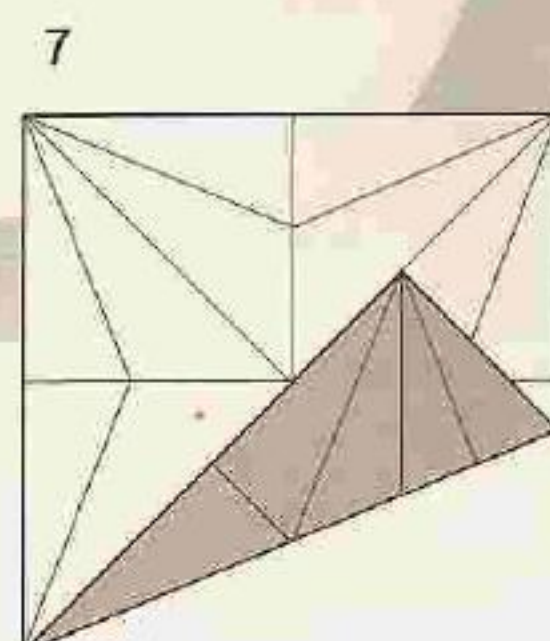
フチを中心の折り筋に合わせるように折る (反対側も同じ)



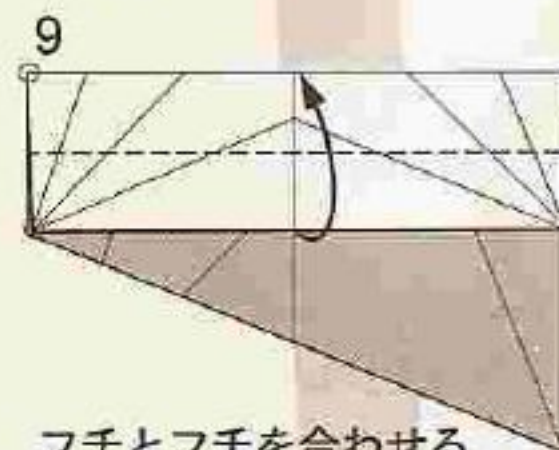
いったん開く



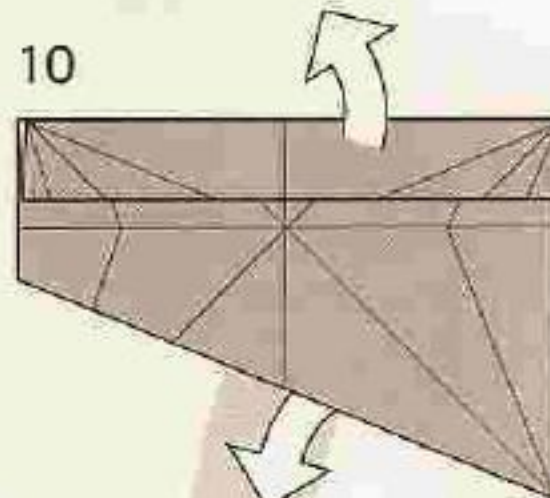
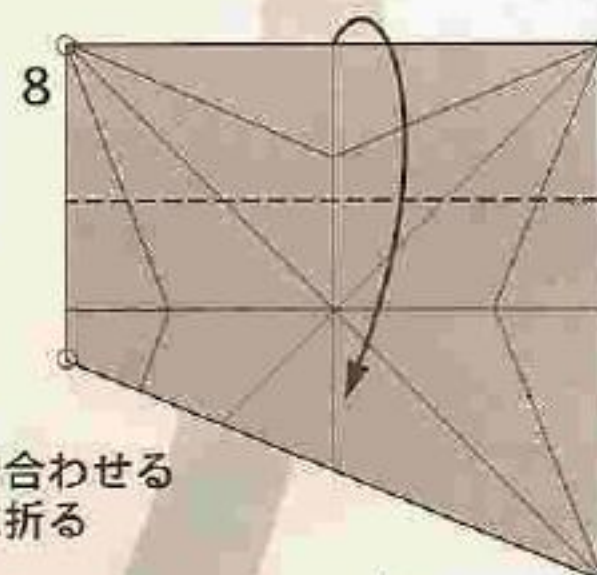
すでについている折り筋を利用して、フチを対角線に合わせるように折る



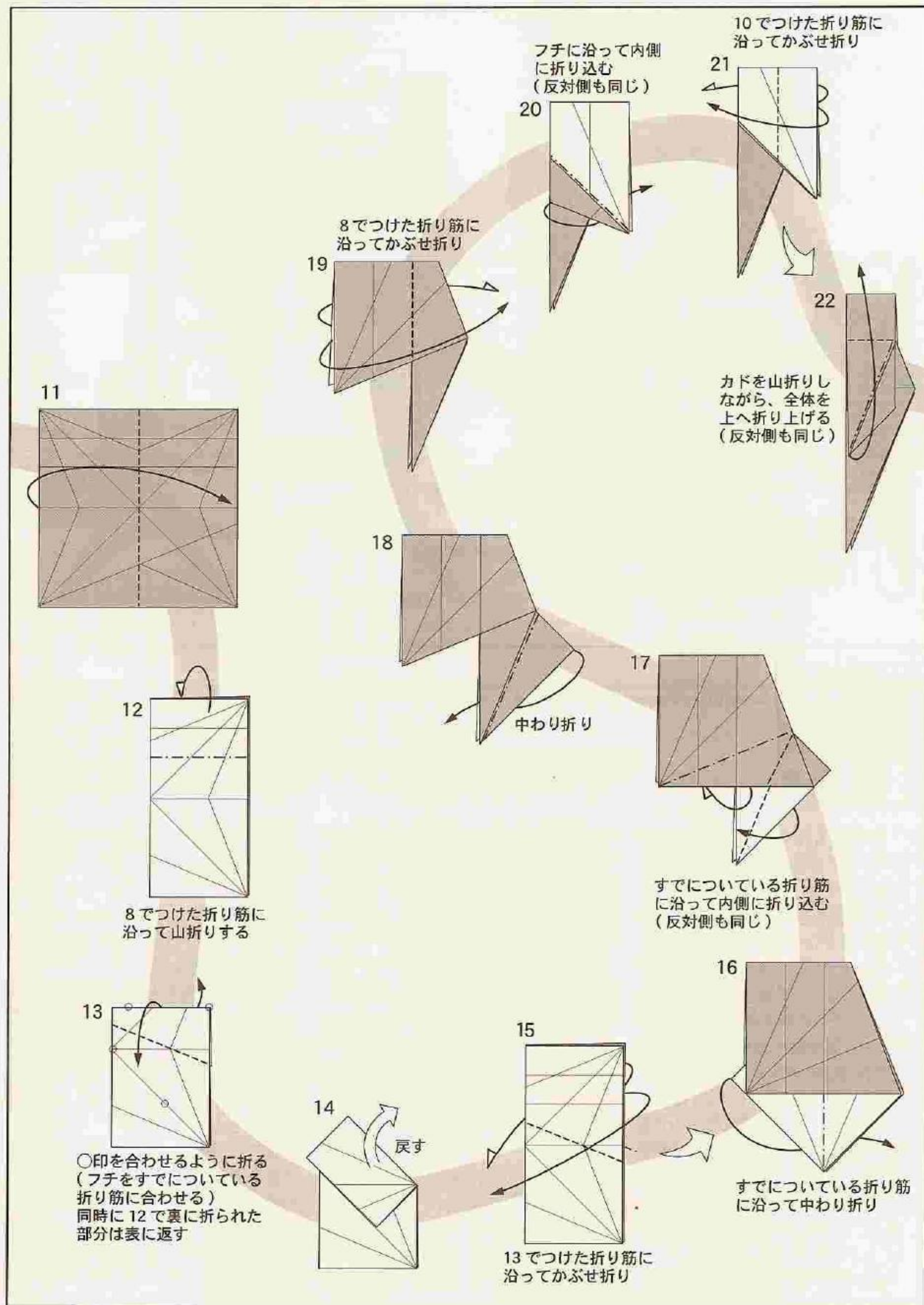
○印を合わせるように折る

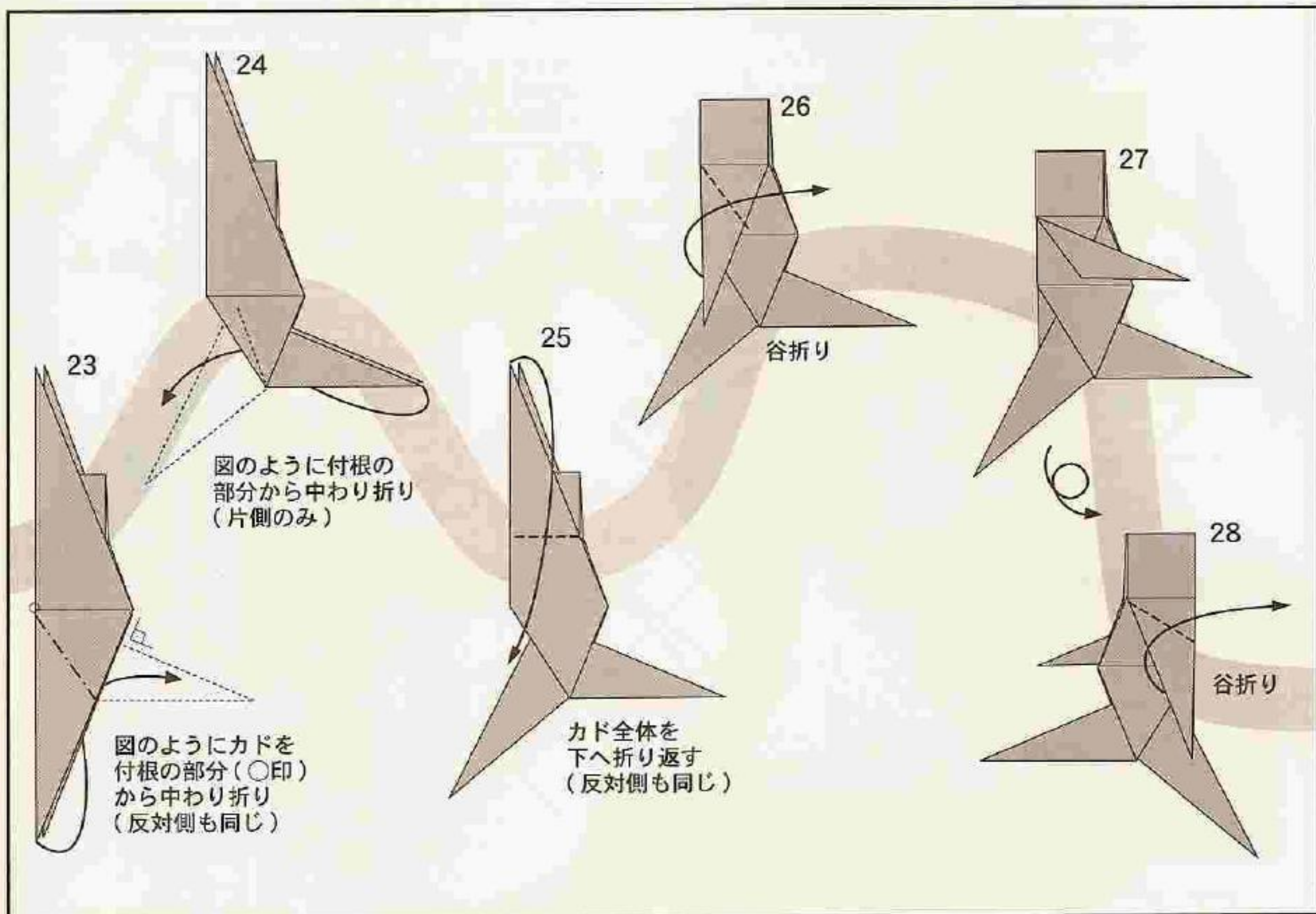


フチとフチを合わせるように折る



いったん開く





Orisuzi ("Fold-Creases")

私は折紙が好きなのか?

I Wonder If I Like Origami

吉岡岳延

Yoshioka Takanobu

『季刊をる』が休刊し、今まで素通りしていた「お知らせコーナー」の頁に改めて目を通し、折紙探偵団コンベンションの情報を見たのが、私がこの会に関わるようになったきっかけです。

それまで折紙の集まりに参加したことはなく、身近に折紙を趣味とする人もおらず、ただの個人的趣味でビバシリーズを図書館で頻りに借り、『季刊をる』を購読しているくらいでした。

そして第3回コンベンション最終日に突然参加しました。初めてなので教室の選び方、例えば折りたい作品を選ぶのか、折れそうな作品を選ぶのかとか、そしてどの講習作品が折図集に載っている作品か載っていない作品か、なども分かりませんでした。

訳が分からなかったにも関わらず、

翌年以降も参加を続け、静岡は第2回から、関西は第1回から参加しています。関西の場合、教室も懇親会も終わった直後に到着したので、正確には第1回からの参加と言い切れるのかは微妙ですが。

これだけ参加している私ですが、なぜ参加しているのか自分でも良く分かっていません。創作しているわけでもなく、東京や関西の例会に参加しているわけでもなく、折紙教室で教えているわけでもなく、折紙が好きな子どもの保護者でもなく、特に毎日折り紙を折っているわけでもありません。

でも、子どもの頃一度教えてもらった作品を何度も折り続けたり、図書館で「ビバ! おりがみ」シリーズを定期的に借り続けたり、本屋で見かけた『季刊をる』を4号から買い続けたり、雑誌「折紙探偵団」

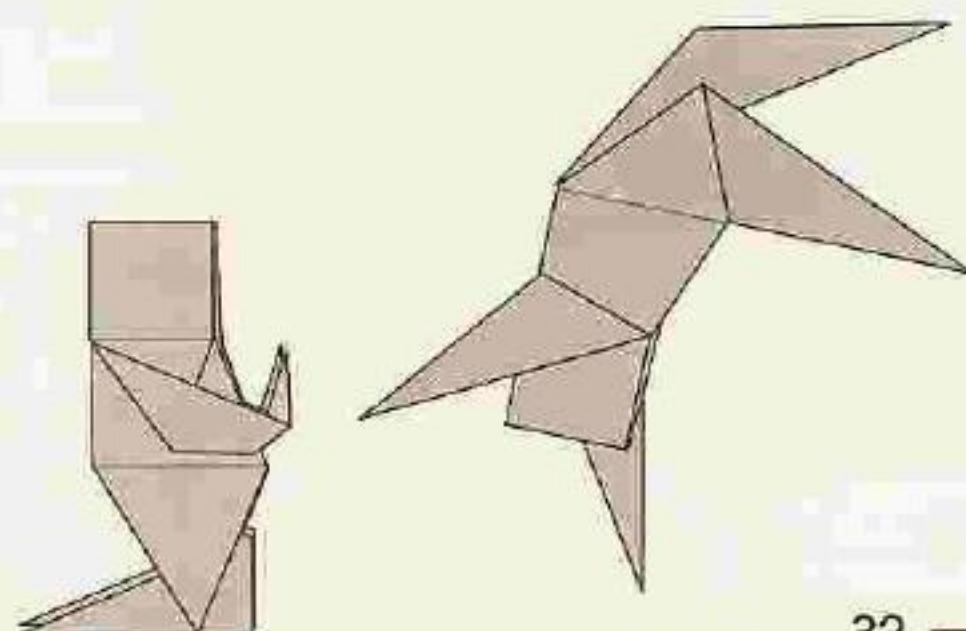
(当時は新聞)の購読を始めたり、おりがみはうすの本を必ず購入したり、折紙だけのために東京・静岡・京都・神戸に行くなどという行動は、普通の人にはしないと考えると、私はやはり折紙好きなのかなと思います。

昨年から東海友の会が発足して、ただの参加者だった私もスタッフとして関わることになりました。そろそろ講習の担当をすとか創作してみろとかいう圧力がかかってきている気もしないでもありません。

創作とは縁がないと言ったものの、先日家を整理していたら、10代の頃折った作品に混じって、適当ではあるものの創作っぽいゾウやカタツムリなどを発掘しました。やっぱり私は結構折紙が好きなのでしょう。

作者コメント

「季刊をる」16号(1997)で展開図のみを紹介した作品です。
創作自体は古く、1980年頃のもので。宮島さんは、ポーズをいろいろつけられることなどから、講習会などでよく使うそうで、図を描いてくれました。

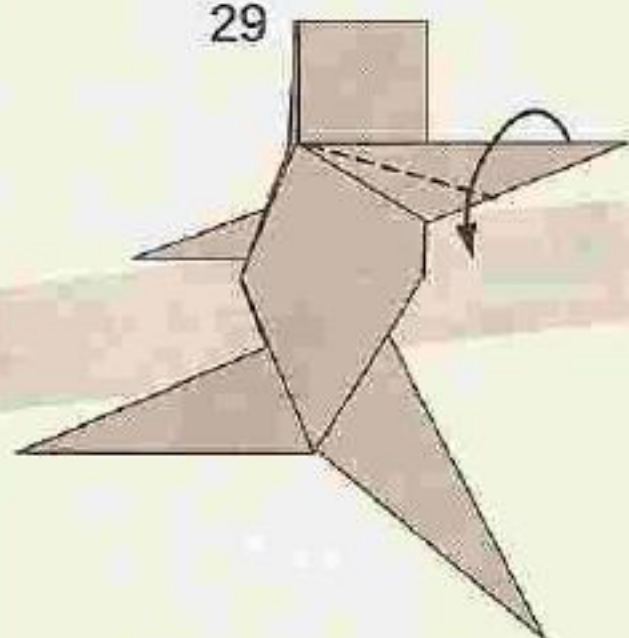


いろいろなポーズをつけてみましょう！

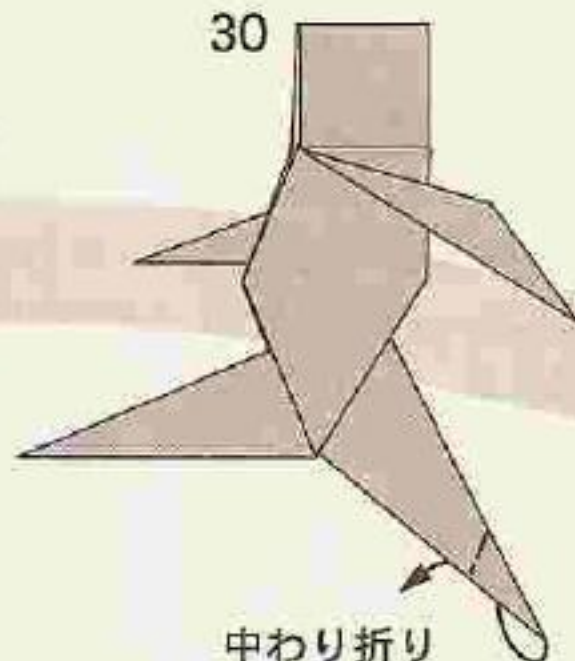
32

フチとフチを合わせるように折る

29

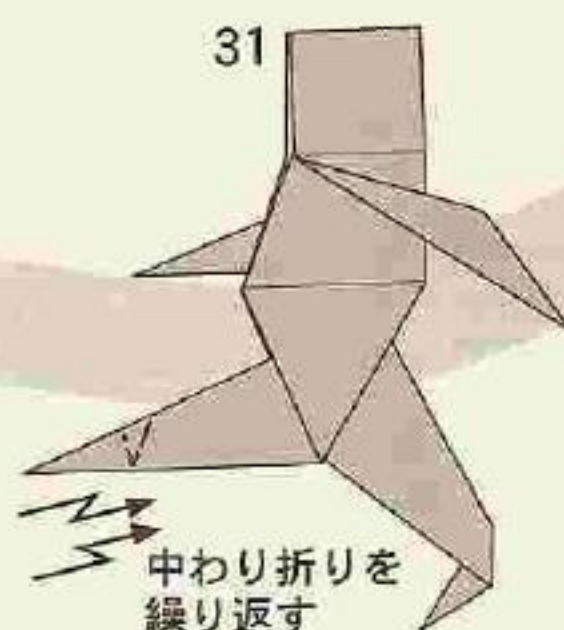


30



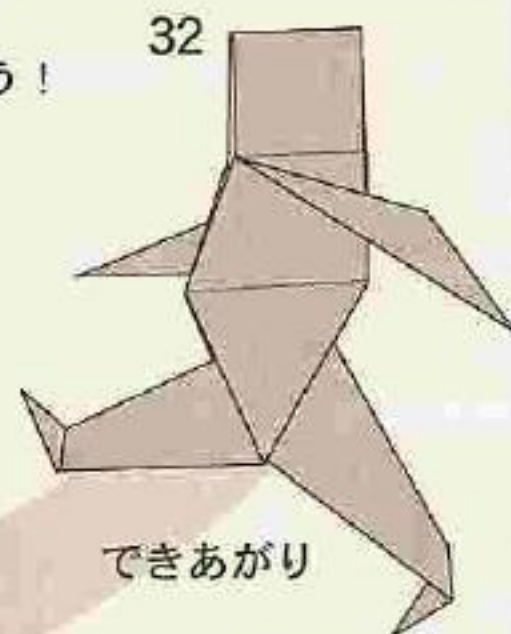
中わり折り

31



中わり折りを繰り返す

できあがり



折紙三昧

③

Origami-Zanmai (This Origami and That)

ポン菓子

Puffed Rice and Origami

私と同世代以上の方は、“ポン菓子”というのをご存じでしょう。手のひら分くらいのお米と砂糖を持って家を飛び出し、おじさんに手渡す。小さなトラックの荷台に乗った厳つい機械にかけると、「ポン」という爆音とともにほの甘い香りが漂う。お米と砂糖だけでできた素朴な、でもちょっとドラマティックなお菓子。

先日、新聞(2006年5月16日 日経朝刊)でそのポン菓子製造機をはじめて国産した方の記事を目にしました。ちょっと驚いたのは、私にとっておじさんの代名詞で厳ついポン菓子製造機を必死の思いで国産にこぎつけたのは、なんと女子専門学校で物理、化学を学んだ女性だったのだそうです。新聞記事には食料事情の悪い子供達のため

に、鉄を求めて大阪から九州に単身向かう頃の苦労話などが語られていました。素朴さの背後に子供達には気づかれない力強い物語があったのでした。私の世代では既に少なくなっていた頃だと思いますが、ポン菓子のおじさんがやってくる風景は、覚えはじめて夢中になって何かを折っている自分自身の姿と溶け合うように記憶されています。

折り紙も素朴な遊びと見られます。私たちは近年の超絶技巧の折り紙や芸術的な折り紙の国際的な発展も良く知っています。それでも昆虫の一枚折りを吉澤さんくらいしか発表されていなかった時代から、展開図による設計が愛好家の間では当たり前になった現代にあっても、一般には「あの、素朴な折り紙が今はこんなことまで出来る」的紹介の“今”が40年以上

変わらず続いているような気がします。その文脈は常に素朴さを本質とするものの特別な姿の“今”です。戦後の子供達を励ましたポン菓子や駄菓子の様に時代の変遷とともにやがてその使命を終えてゆくものは多いでしょう。消えゆく素朴なものたちを懐かしんで、新聞記事を読んで不覚にも感じてしまったような一映画「三丁目の夕日」にも象徴されるような？一現代人の素朴なものへ寄せる気持ちが、折り紙の特別な“今”しかそうそうは許してくれないのかなあと思えなくもありません。現代的な発展を続けながらも変わらぬ素朴さを保ち続けるのもまた折り紙の役目かもしれません。

西川誠司 Nishikawa Seiji

展開図折りに

Crease Pattern
Challenge!

挑戦

第42回

ウデムシ

Whip Spider

勝田恭平

Katsuta Kyohei

Created : 2005.11

Paper Size : 50×50 cm

Width : 16cm

このウデムシという生き物を初めて見た人も多いと思います。一見クモに見えるかもしれませんが、生物学的分類で言えばクモ綱ではありませんがクモ目ではなく、独立したウデムシ目にあたります。初見の人が多いのは、この生物が日本には生息していないからでしょう。そんなウデムシを知ったのは数年前、インターネット上でマイナーな生物を探していたときに見つけたのですが、最初見たときの衝撃は忘れられません。「こんなにかっこいい虫がいたのか!」と感激したのですが、この感覚は殆どの人が同意してくれないのが寂しいところです。この見た目からすればそれが仕方が無いのもわかるのですが。長い六本の脚と、トゲトゲの付いたウデ(鋏にはなっていません)、そして左右に二本とても長い器官がありますが、これは触角ではなく、触角の役割をするようになった脚だそうです。

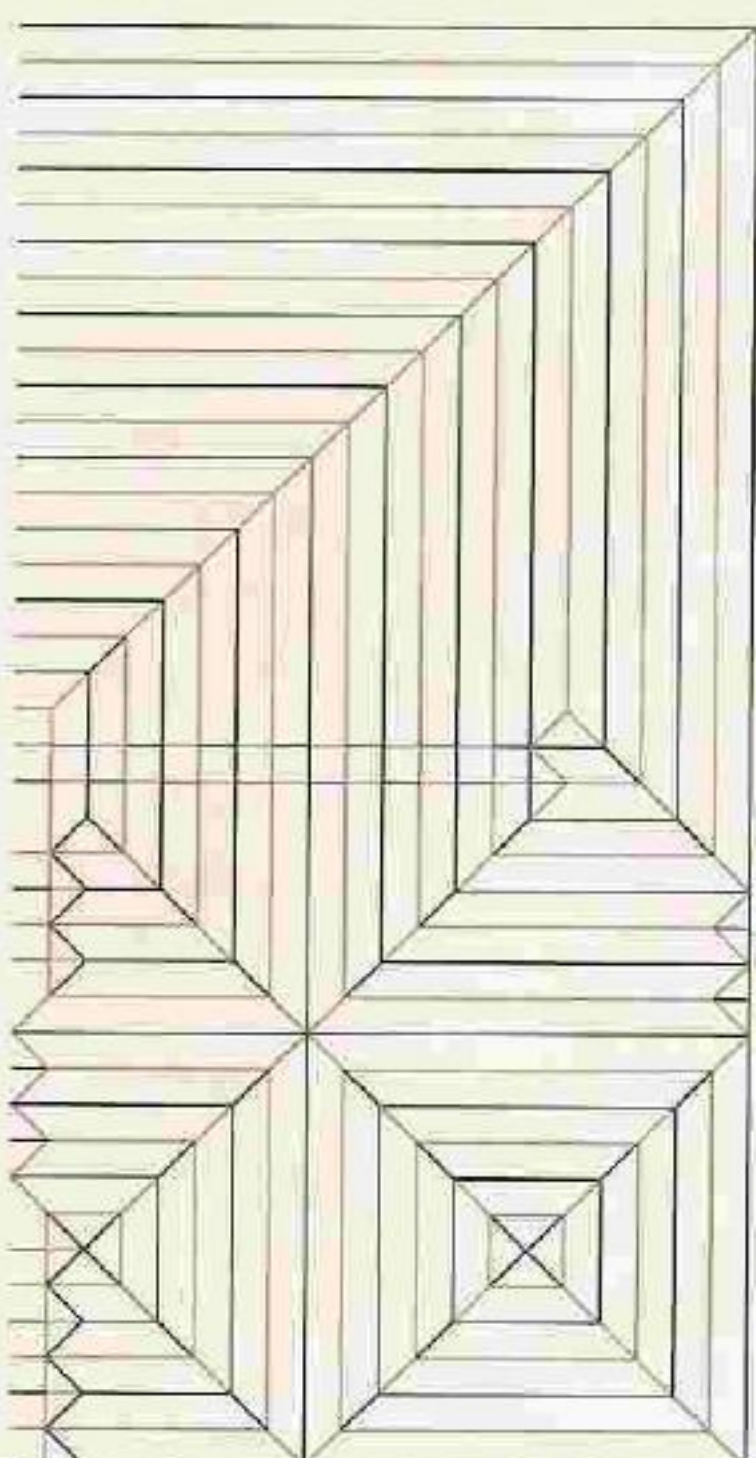
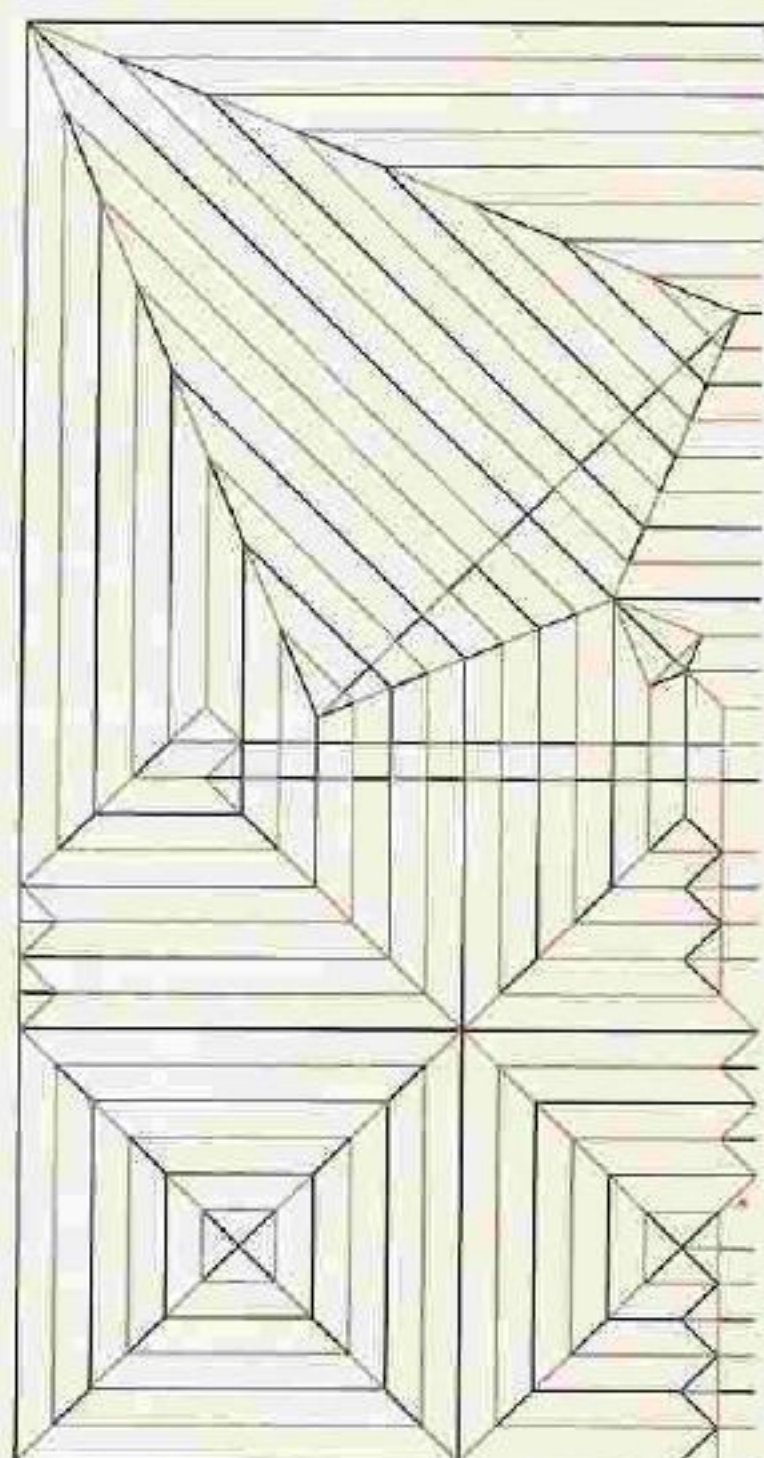
構造自体はいたってシンプルで、一般にカミキリムシに使われるものと殆ど同じです。ただし内部カドを使うことによって脚を増やしています。あらかじめ言っておくと、この作品は通常の紙では形になりません。大きく、相当に薄い紙でなければまず無理でしょう。実際に作者が大判のホイルで折った時には、頭部の厚さが1cm以上になりました。その恐ろしさはある程度コンプレックス作品を折ったことがある人ならわ

かるかと思います。

展開図の右側がカラーページのもので、口の器官は出ませんが紙の重なりが分散されています。一方左側は、一番長いカドの紙の重なりを減らし、口の器官のカドを内部から出せるようにしたのですが、こちらは更に頭部の紙の重なりが激しくなってしまうので、紙をこねくり回すことに自信がある方だけにお勧めします。

さて、この「展開図折りに挑戦!」のコーナー史上最も折られることがない作品になりそうですが、もし折ろうと思った

奇特な方はインターネットなどで実物の写真等を眺めながら折ることをお勧めします。



カラーページ版頭部

File-19

世浪 健

Yonami Ken

■折り紙をはじめてきっかけは？

幼稚園で折り鶴を見て、折り方を知りたくなったのですが親も知らなくて、本を買ってもらいました。笠原邦彦さんの『おりがみどうぶつえん』という本でした。実はこの本には折り鶴自体は載っていませんでしたが、色々な動物を折っていくのが楽しくて折り紙に夢中になりました。

それ以来すっかり折り紙が好きになって、色々な本を見て折っていくうちに適当にアレンジするようになって、昆虫や恐竜を作るようになりました。現在、オリジナル作品は50くらいあります。

■どのような方法(プロセス)で創作をしますか？

まず、対象をイメージし、実物や資料を見て、自分は対象の何を表現したいかを考えます。次に、その目的を果たすための構造を考えて、この時点では折れるかどうかは考えていないのですが、最後に折り紙として構造を整理し作品として完成させます。

最も重視しているのは「何を表現したいのか」ということです。私の場合、芸術的な表現欲求というより、発想を形にしたいという方が近いかもしれませんが、「甲虫の立体感を出したい」ために風船状の構造を工夫したり、「ぴょんぴょんがえる」の様に遊べるウサギが作りたい」と考えたり。

時間がかかるのは、イメージの表現や発想を形にする過程で、アイデアとしての構造を折り紙としての構造にするところです。やりたいことに技術が不足していることが多いので。



■創作する上で心がけていることがあったら教えてください。

表現したいこと、それは自分が対象に持っているイメージの表現であったり、発想を形にすることであったりするのですが、「自分なりの表現したいことや発想」、そして「形にするために自分なりに工夫すること」を心がけています。

例えば、鷲が獲物に襲いかかる瞬間に魅力を感じ、いかにカッコよく表現するかとか、腹部から見たカニのイメージを表現したいために構造を工夫するとか……。

■作家として長いキャリアをお持ちですが、ターニング・ポイントはありましたか？

11歳の時に日本折紙協会(NOA)大阪支部に参加しました。それまでは、一応創作のようなことはしていましたが、自作にこだわっていませんでした。大阪支部では、自身のオリジナルを追求する大人の人たち、桃谷好英さん、木下一郎さん、田中具子さんらに影響を受け、動物や昆虫を自分のイメージ通り表現するのが目標になりました。ちなみに初めて月刊『おりがみ』に折図が掲載されたのは12歳のときでした。

その後は自分なりの手法で創作を続けていましたが、前川淳さんの『ビバ！おりがみ』(数学的設計)の登場で、自分のそれまでやっていた基本形の応用や試行錯誤方式が、時代遅れの様に感じました。かといって真似するのも違うように感じて、結果モチベーションを失ってしまい、その後大学、就



「虫のおりがみ2」▶
昆虫折り紙アート講座で好評の作品を集めたオリジナル作品集。11作品掲載。世浪氏の作品も5点収録。



世浪 健(よなみ・けん)=1967年生まれ。本業、損害保険会社勤務。現在は香川県在住。転勤先での折紙交流も楽しいが、普段はなかなか折る時間が無い。趣味は、転勤先の地元の名所(香川ならうどん屋とか)を車でまわること、冬場はスノーボード。



職と折り紙を折らないようになりました。

その後、伊丹市昆虫館に講師を依頼され、毎月1回講師をするようになりました。そこでは、誰でも折れるような昆虫等を考えました。結局9年間務めました。これが無ければ折り紙をやめていたかもしれません。結局やめずに続けていたために自分は折り紙が好きなんだと再確認でき、30代後半からは初心に戻って、折り紙でやりたいことを、こだわりなしで何でもやってみようと思うようになりました。

■世浪さんが参加されていた当時の日本折紙協会大阪支部は錚々たる方々が揃っていたね。思い出に残ることを教えてください。

本気で競争していて、「熱かった」と思います。桃谷さん、木下さん、田中さんを中心として、同じお題をみんなで競作したり、動物園に行って、実物を見て好きな動物を作ったりしました。NOAの「世界の折紙展」の準備では、徹夜で展示作品を作ったり、足りないものをその場で考えて作ったり、いい経験をさせてもらったと思っています。

■お気に入りのオリジナル作品は？

「カナブン」や「カニ」です。「カナブン」は甲虫を立体的に表現したいと思って、10代を通して取り組んだ作品です。ボディがなかなか思うように出来なくて、今で言うバージョンをいくつも作りました。一番愛着のある作品ですね。「カニ」は腹部にこだわった作品です。「カナブン」もそうですが、立体で、一応どの角度からでも見られる点が気に入っています。

■折り紙をしていてよかったと思うことは？

チャレンジして出来たときの面白さ、達成感です。出来た瞬間は「このためにやってるなあ」と感じます。また、折り紙を通じての人との交流も嬉しいことです。多くの人との出会いがあり、いい刺激となり、心の支えにもなっています。

■今後の抱負を教えてください。

折り紙を始めた頃の気持ちで、これからも興味を持ったものをこだわって作っていきたいと思います。

Rabbit Ear つまみおり Information



▲探偵団若手のホープ勝田恭平氏作品群もかなり注目度が高かった

▲シルバーで折った鶴

2006 NYコンベンションレポート

今年も750人余りの参加者があり、受付会場やホスピタリティー（開催期間全体集会をしたり、自由に休憩や折り紙をしたりすることができる大会場）の場所が昨年から変更になってFITキャンパスの中を移動する必要が多かったが、スタッフはそれぞれの仕事を例年と変わりなくこなしてスムーズに運営されていた。

作品展示は毎年レベルアップしている。毎年代わり映えのしない作品を出している者もいるが、若手は確実に育っており、皆自分の作品をより良く見せるためのディスプレイも考えている。作品名の札は折紙探偵団コンベンションと同じく各自作成してくるシステムだが、それぞれに工夫を凝らしている。

昨年吉野一生基金により招待されたジェイソン・クー氏の作品もレベルアップしていた。作品の面白さのみならず、折りの技術も上がっている。これもお互い競いあい、刺激し合うことによる成果だろう。日本へ来たことによる影響も大きいことは想像にかたくない。

今年来日するブライアン・チャン氏もなかなか興味深い作品を発表していた。特に今回のお題となっていた「帆船」では、巨大イ

かに襲われる船を一枚折りて表現していた（カラー21ページ参照）。横に置かれていた地図風の展開図も雰囲気がある。来日中には、日本の若手作家に良い影響を与えてくれるに違いない。

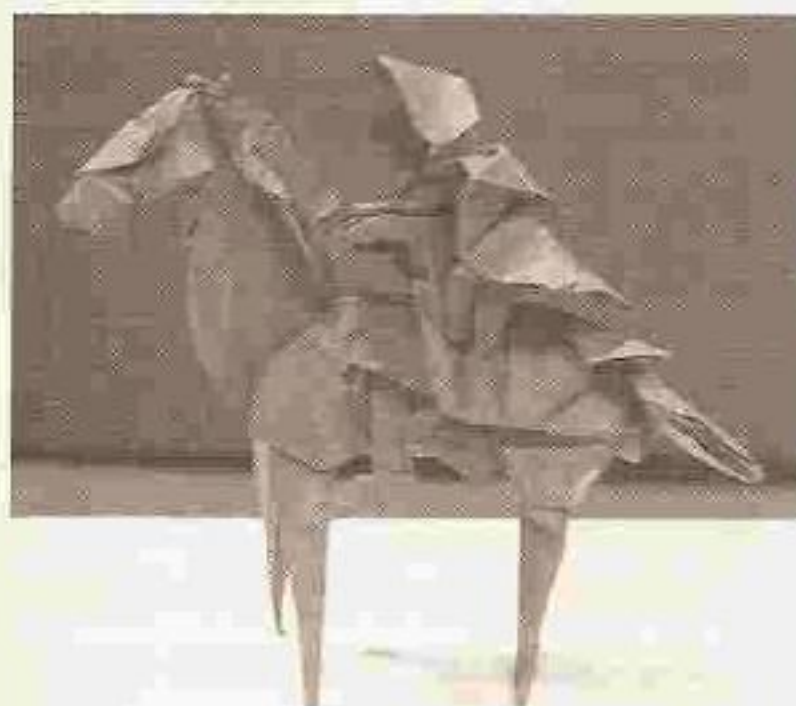
また、この展示では、様々な素材に挑戦した作品も多く見られる。今年は段ボールで折られた巨大なオブジェが目をひいていた。鶴のブロンズ像はぜひ前川氏に入手してもらいたいところ。シート状のシル

▼段ボールで折られた巨大オブジェ



バーで折ったというツルやアヤメは、折ってから熱を加えて固めるそうだ。

月曜日の夜に開催されたレセプションは、今年から飲み物はチケット制。会場から追い出される時間も早くなり、いつものようなゲストの紹介や初参加者が「First Timer」のラベルをはがす儀式も無かった。その代わり、会場の反対側にあるロビーのようなスペースが解放され、皆夜が更けるまで、そのまま折り紙に興じていた。私はこのリラックスムードの中で、ロバート・J・ラング氏と非常に有意義な意見交換をすることができた。この内容は今後の日本折紙学会の活動に活かしていくつもりだ。（山口 真）



▲昨年の招待者ジェイソン・クー氏の新作



▲水が循環して涼しげな鶴のブロンズ像

◆第2回折紙探偵団名古屋コンベンション参加者募集

第2回折紙探偵団名古屋コンベンションが開かれる。会場も昨年と同じ名古屋芸術大学西キャンパス。今年は作品展示に力を入れ、人気投票も行われる予定。また、日本折紙学会折紙指導員認定審査も受けることができる。東海方面の方には受験のよい機会ではないだろうか。

第2回折紙探偵団名古屋コンベンションは、下記の日程で開催される予定です。

●会期:2006年11月18日(土)・19日(日)

●場所:名古屋芸術大学西キャンパス

●参加費(折り紙用紙、バッジなど含む)

大人4,000円、学生3,000円(小、中、高、大、専門学校生)

親子割引:大人4,000円+子ども2,000円×人数分(保護者1名につき小学生以下2名まで適用可)

●懇親会参加費:大人4,000円、小学生以下2,000円※希望者のみ

■宿泊(希望者のみ)

1泊素泊まり=5,000円(予定)

17日・20日及び前泊、後泊を含めて予約を受け付けます。

■11月18日(土)

9:00~受付

11:00~12:30 全体会 講演

13:30~17:20 折り紙教室

18:00~20:00 お楽しみ懇親会

■11月19日(日) 折り紙教室 2日目

9:00~受付

10:30~16:20 折り紙教室

16:30~全体会。

折り紙作品コンテスト結果発表。

折り紙作品人気投票 コンテスト展示作品募集

折り紙作品人気投票コンテストに多くの方からの作品募集をしています。コンテストは創作部門、習作部門に分かれているので、創作作品のない方でも参加ができます。習作とは創作者が他にいる作品を折った場合のことです。この場合は、創作者名を必ず記してください。



Jan Polishさん

◆今年から名古屋コンベンションでも東海友の会と吉野一生基金によって海外から1名を招待することになった。第1回目の今

年は長い間 OrigamiUSAで中心的な活動が続いているJan Polishさんに決まった。Janさんは創作はあまりしないが、折り紙を愛する気持ちは人一倍である。OrigamiUSAの中でもメンバーの信頼は厚い。

また、同時にMette Unitsで日本でも多くのファンがいるお馴染みのMette Pedersonさんも参加が予定されている。

参加申込書(同封別紙)にて、ファックスか郵送でお申し込みください。

FAX送付先 052-832-9884

郵送の場合

〒468-0073 名古屋市天白区塩釜口

2-1515 折紙探偵団東海友の会

お問い合わせは日本折紙学会事務局

電話 03-5684-6040

◆第4回折紙の科学国際会議情報

4OSME Update (The 4th International Conference on Origami in Science, Mathematics and Education)

1989年、1994年、2001年に開催され盛会に終わった折紙の科学国際会議、今年は統轄議長としてロバート・J・ラング氏を迎え、アメリカ、カリフォルニア州パサデナ(ロスアンジェルス近郊)のカリフォルニア工科大学(California Institute of Technology)で9月8日から10日まで開催される。今回は、Origami USAが、同大学数学科及び情報科学科の支援を受け主催するもので、過去3回と同様、折紙の芸術・科学・技術・教育的側面を統合することを目的とした、充実した会議になりそうだ。内容は以下の通り:

1 基調講演2本(各55分):

ミリー・ゴラン(イスラエル折紙センター長)

エリック・ドゥメイン(マサチューセッツ工科大学教授)

2 研究発表(25分):

折紙の数学的・情報科学的側面、折紙の技術的应用、折紙と教育などのテーマで70本程の研究発表が行われる。日本からは:三浦公亮:ミウラ折りの科学回。前川淳:フォーチュンクッキーの樹状図。布施知子:タワー・スパイラル。川村みゆき:セレスの系譜。池上牛雄:フラクタル折りの展開図。加藤ジェーン・島貫博・渡邊豊英:折り図からの折り過程の再構築。立石浩一:折り図の言語の冗長性。東秀明:魚の基本形とフラット・フォ

ルダビリティ。川崎敏和・川崎英文:無限の四辺形からの折鶴変形。川崎敏和:折り鶴マップ(鶴晶)。渡辺尚彦:リジッド・フォルダビリティの発見手法。館知宏:精密折りのシミュレーション。三谷純:二次元的バーコードを利用した折紙の認識・モデリング及び生成など多士済々。

参加登録は:

<http://www.langorigami.com/science/4osme/4osme.php4>に登録フォーム(英語)が本誌が配布される頃にはあるものと思われます。登録締め切りは8月15日ですので、お急ぎ下さい。展示を予定されている方は登録フォームにその旨記す必要があるそうです。

パサデナは、ロスアンジェルス国際空港から車で40分、タクシーで40ドルほど。下記2ホテルに参加者用に部屋を取ってあるようですが、数に限りがあるそうですので、お早めにご自身でホテルにご連絡下さい。どちらも会場から2キロ前後の距離です。なお、下の宿泊料で泊まるためには、ホテルに予約をする際に、「I am with the OrigamiUSA block of rooms」と伝えないといけないそうです(ウェスティンのホームページは日本語表記してくれますよ;立石)。

Saga Motor Inn

1633 East Colorado Blvd.

Pasadena, CA 91106

Tel: (626) 795-0431

Fax: (626) 792-0559

e-mail: information@thesagamotorhotel.com

宿泊料: \$76 + tax

Westin Pasadena

191 North Los Robles

Pasadena, California 91101

Phone (626) 792-2727

Fax (626) 792-3755

宿泊料: \$144 single/double + \$15 ea.

もちろん、パサデナには他にもホテルはありますので、ご自身でお探しいただいても結構です。

会議の前後から、The Institute For Figuring and Machine Project Galleryにおいて、ジニー・モーズリーさんによる66,048の名刺による折紙構造物の展示もあるそうです。このギャラリーは、Echo Park (1200 North Alvarado, LA 90026)にあるそうですが、こちらに足を延ばすのも一興かと思われます(詳しくは<http://www.theciff.org>へ)。

世界の折紙者達が一同に会するまたとないチャンス。皆さんもぜひ参加してみませんか。会議に関する問い合わせのメールアドレスは4OSME@langorigami.comです。英語でお問い合わせ下さい。

◆他では体験できないJOASホール

「知子の部屋」に参加して

久慈暁子

7月の講習は、蓋つきの箱のバリエーションと蘭部式ユニットの応用でした。蘭部式ユニットといえば「子供の頃から何度となく折っているし、バリエーションも知り尽くしている」という方も多いと存じますが、それがまさかの大変身!さらに、箱を組む際のテクニックや、ユニットの紙が足りない時の裏ワザなどが聞けて、折り紙初心者から数年来の布施フリークまで大喜び、まさに目からウロコの発見がいっぱいでした。最初は自分で考える教室、ということで少し不安もありましたが、布施先生から各自の個性や興味の方向に合

わせた多様なアドバイスをいただけたので、受講者全員が自分のペースで楽しみながら折り進めることができました。思うように仕上がらなくても、失敗から学ぶことや、そこから出発するアドバイスをいただけたので、のびのびと思いついた事に挑戦できます。次回(9月予定)は、蘭部式ユニットのさらなるびっくりバリエーションとのこと、きっとまた思いがけない発見や、固定概念が打ち破られる体験が出来るでしょう。



「ある折紙作家の教室」

宮島 登

6月24日(日)にJOASホールで行われた神谷哲史さんの「ある折紙作家の教室」に参加しました。教えていただいたのは「メタリフェルホソアクワガタ2.0」。コンベンションなんかではありえない、4時間以上にもおよぶ講習で、時間を気にせずじっくりと取り組むことができました(少々疲れましたが...)。普段はなかなか聞くことのできない、仕上げの細かいニュアンスまで教えていただくことができ、とくに神谷さんがアメリカで教わってきたという特殊な糊を使った仕上げの実習は大変勉強になり

ました(普通の講習ではここまではできません)。え、ちゃんと完成したのだった?ええ、なんとか(汗)。

特製の折り紙用紙と折図、そして糊までおみやげにいただき、とても贅沢な講習でした。前日に頑張って仕事を片付けて参加した甲斐がありました(涙)。機会があったらまた参加させていただきたいと思います。



JOASホール今後の予定

8月はコンベンションがあるため予定は東京友の会の例会のみ。

◆9月16日(土)「知子の部屋」布施知子。

参加費=2,500円。12:30-15:00

◆9月24日(日)「現代折り紙」北條高史。

参加費=3,000円が予定されています。

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メールinfo@origamihouse.jp宛でお願いします。これをできない場合は電話でも受けれます。上記の予定は講師の都合により変更される場合があります。事前にお問い合わせください(03-5684-6040)。

東京友の会例会9月2日(土)もあります。

KTACAコンベンション

韓国伝統工芸協会(Korean Traditional Arts & Crafts Association)の主催するコンベンションが、2006年7月20日から8月30日まで韓国のアンサンにて、また9月5日から20日までキョンジュにて開催される。日本からはスペシャルゲストとして山口真氏と宮島登氏の2名が招待され、参加する。韓国では折り紙が登場するアニメ番組「折紙戦士」が放映されるなど折り紙界が活性化している様子で、複雑な作品を折りこなす愛好家も増えているようだ。また、今年の折紙探偵団コンベンションには中心メンバーの一人であるOh, Kyu-Seok氏が参加する予定。これをきっかけにして日韓の交流に力を入れていきたい。

編集後記

■仕事疲れか、遊び疲れか、体力がなかなか回復しない。■この年になっても落ち着かない性格。あちこち動いていると妙に気が落ち着く。■OUSAのコンベンションから帰った翌週、古巣のデンマークに行った。古い友と再会。■帰国して、マガジンと折り図集の制作。そして月末は韓国だ。■その後、一年で一番の大仕事。探偵団コンベンションが待っている。■9月には4OSMEでバサデナ? ■これだけいろいろやっていると何があっても不思議でない...と思うこのごろである。(や)

ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>
団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)

折紙探偵団

2006年7月25日発行 第17巻2号通巻98号
発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=500円(中学生以下300円)/講習会=14:00~/研究会=16:00~

●8月5日(土)/JOASホール/講師:未定/作品:未定

●9月2日(土)/JOASホール/講師:未定/作品:未定

東海友の会 ※折り紙は各自持参

●8月19日(土)会場=名古屋芸術大学西キャンパスG棟204・205/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=13:00~16:30/B教室...講師:加藤美津枝/講習内容:蘭部式ユニットによる作品作り

/G205教室...講師:川畑文昭/講習内容:創作折紙設計法(蛇腹編)/

●9月16日(土)会場=名古屋芸術大学西キャンパスG棟204・205 講師その他未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

●8月20日(日)/会場=長岡京市産業文化会館/14:00~17:00/参加費=無料/講師:森下洋子・坪 正・黒川紀男/作品:万華鏡・チャールストン・ほか

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

●9月10日(日)会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F/参加費=500円/時間=10:30~12:00/問い合わせ:054-254-4541(増武内 山口16~20時)

■ORIGAMITANTEIDAN / No.98 / Published on 25, July 2006 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Scoops Owl" Produced by Tsuda Yoshio: Photographed by Matsuura Eiko / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

※このページの商品の取扱いはいすべて おりがみはうす です。日本折紙学会とは別になります。

広告のコーナー

I ♥ ORIGAMI

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第12回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.12

日本折紙学会 編/2,000円/送料420円

B5判/全256頁/約50作品収録予定

2006年8月12日発売!

※12~13日はコンベンション参加者のみ購入可能

予約受け付け中!

申し込み方法は通常の通信販売方法(右下参照)と同様。送料と本の代金をお送りください(送付先住所と商品名を明記のこと)。コンベンション終了後発送開始となります。

※表紙は変更になる場合があります。

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (税込) ※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵 4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
折り紙色紙百花 田中具子 著 山口 真 編	2,500円		B5判/全120頁/カラー口絵8頁/31作品収録 色紙に貼り込んで飾る花の折り紙作品集
一生 スーパーコンプレックス 吉野一生 著 おりがみ	2,900円		B5判/全200頁/カラー口絵8頁 トリケラトプス全身骨格を含む14作品収録
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
空想おりがみ 川畑文昭 著	2,900円		B5判/全180頁/カラー口絵4頁/18作品収録 1995年6月初版発行の恐竜と空想動物の本
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録
第9回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.9 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作45作品を収録
第8回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.8 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外の作家の秀作51作品を収録

※第1回~第7回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「冊子小包」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

書籍2冊の送料は530円/書籍3冊の送料は670円(例外を除く・下記参照)
例外:「折り図集」又は「色紙百花」だけを3冊の場合(例:折り図集8、9と色紙百花各1冊)のみ 530円

上記以外の場合はお問い合わせください/書籍と紙製品は別発送となりますのでご了承ください

商品名	価格(税込)	送料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	国内一律 1~2セット 440円	35×35cm/10枚入/70kgの 洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 3種類から 折り図つきセット 選べます	1,200円	3~5セット 630円※	1. ドラゴン(北條高史作) 2. ティラノサウルス(神谷哲史作) 3. カルノタウルス(神谷哲史作)

※紙製品は定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送になります)。
送料には梱包材代が含まれています

只今制作中 発行日は未定です。気長に待っていて下さい
折紙図鑑「犬」/佐野康博・著 犬の折り紙第一人者の作品集
北條高史作品集/北條高史・著 あの名作の折り図も掲載予定

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください

GALLERY ギャラリー **おりがみはうす**
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp 10時~18時 日・祝休

商品の申し込み方法

面数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に**郵便振替**か**現金書留**で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させて頂きます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

■商品を複数ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

広告有効期限:2006年9月25日

超迫力恐竜おりがみ

¥300
(税抜き)



作品

- ティラノサウルス
- トリケラトプス
- セイスモサウルス
- バラサウロロプス
- ステラノドン

ハノラマステージ付
(約16.0×34.0×15.0cm)

世界の昆虫おりがみ

¥300
(税抜き)



作品

- カブトムシ
- ゾウカブト
- ヘラクレスオオカブト 飛翔
- コクワガタ
- タランドウスオオツヤクワガタ

ハノラマステージ付
(約16.0×34.0×15.0cm)
ネームラベル入
(標本箱に飾りたい人の為に!)

株式会社トヨー
ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

※写真は印刷ですので実際の商品とは色は違ふ場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡営業所 / 札幌出張所 / 松山出張所